

障害福祉アンケート調査結果報告書

宇 部 市
平成 22 年 12 月



目 次

| | |
|------------------------|-----------|
| 第1章 調査実施の概要 | 1 |
| 1 調査目的 | 1 |
| 2 調査設計 | 1 |
| | |
| 第2章 障害者に関する調査結果 | 2 |
| 1 調査結果の総括 | 2 |
| 2 回答者の属性 | 5 |
| 3 日常生活における介助・支援の状況 | 9 |
| 4 就労の状況について | 10 |
| 5 医療・保健について | 13 |
| 6 障害福祉サービスについて | 15 |
| 7 外出の時に良くなってほしいこと | 18 |
| 8 建物の環境について | 19 |
| 9 災害について | 21 |
| 10 社会参加の状況について | 25 |
| 11 障害者に対する理解について | 28 |
| 12 情報の入手について | 30 |
| 13 相談について | 35 |
| 14 今後の障害者福祉について | 36 |
| 15 障害児の保護者への質問 | 38 |
| | |
| 第3章 障害福祉に関する意見 | 41 |

第1章 調査実施の概要

1 調査目的

このアンケート調査は、「宇部市障害者福祉計画」の改定にあたり、本市における障害のある人(障害児を含む)の生活実態や障害福祉サービスの利用状況、今後の施策ニーズ等を把握し、計画改定の基礎資料とすることを目的に実施したものです。

2 調査設計

このアンケート調査は、以下のとおり、身体障害者、知的障害者及び精神障害者を対象として、共通の調査票によって調査を実施しました。

(1) 調査対象者

■調査対象者：平成 22 年 8 月 1 日現在における本市在住の身体障害者手帳所持者、療育手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳の所持者。

■調査人数：1,000 件(調査対象者から無作為抽出)
調査対象者は、障害者(18 歳以上)と障害児(18 歳未満)に分けて、無作為抽出を行っています。

(2) 調査方法

調査票は、障害者用と障害児用の 2 種類による本人記入方式(本人が記入できない場合は家族等)とし、郵送による配布・回収を行いました。

(3) 調査期間

平成 22 年 8 月 9 日～平成 22 年 8 月 31 日

(4) 回収状況

| 調査対象 | 調査数(配布数) | 調査票回収数 | 回収率 |
|-------------|----------|--------|-------|
| 障害者(18 歳以上) | 900 人 | 500 人 | 55.6% |
| 障害児(18 歳未満) | 100 人 | 52 人 | 52.0% |
| 合計 | 1,000 人 | 552 人 | 55.2% |

〔報告書の見方〕

- 複数回答(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答者数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100%を超える場合があります。
- グラフの N 数は、回答者数(number of case)を表しています。
- 本文中の設問や選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

第2章 障害者に関する調査結果

1 調査結果の総括

(1) 回答者の属性

- 調査票の回答者は、身体障害者及び精神障害者の約7割は「本人」が記入し、知的障害者の約6割は「家族・親族」が本人の立場に立って回答している。
- 回答者のうち、約7割(68.1%)が「身体障害者手帳」所有者であり、以下、「療育手帳」(14.7%)、「精神障害者保健福祉手帳」(10.9%)と続いている。
- 男女比はほぼ同数で、年齢構成は「65歳以上」が45.7%、「40歳から64歳」が30.6%となっている。
- 住居は半数以上が「持ち家」に住んでおり、精神障害者は「一人暮らし」が最も多く(34.2%)、身体障害者及び知的障害者は同居者がいる割合が多い。
- 日中の過ごし方として、身体障害者及び精神障害者は「自宅」で過ごすことが多く、知的障害者は「小・中・高等学校」又は「施設・病院」で過ごすことが多い。

(2) 日常生活における介助・支援について

- 3障害とも「家の中の移動」は一人でできる割合が高いが、「銀行や役所などでの手続き」は一人で処理することが難しく、支援が必要な状況である。
- その他、日常生活において支援を要することとして、身体障害者は「書類を読んで記入」(23.1%)・「そうじ・食事・せんたくなど、家事のこと」(22.6%)、知的障害者は「書類を読んで記入」(64.9%)・「お金の管理」(54.3%)、精神障害者は「そうじ・食事・せんたくなど、家事のこと」(31.5%)・「書類を読んで記入」(28.8%)の割合がそれぞれ高い。

(3) 就労について

- 回答者のうち18歳から64歳までの人において、身体障害者の34.1%、知的障害者の39.6%、精神障害者の16.0%が、現在、就労(パート・アルバイトも含む。)している。
- 現在、仕事をしていない理由については、3障害とも「障害や病気が重くて仕事ができない」という回答が最も多く、「治療を優先したい」と「自分にできる(合う)仕事がない」が続いている。
- 就労に必要な環境については、「身体に負担のない仕事が選べる」ことや「周囲の人の理解」が望まれており、特に、知的障害者においては「障害に合わせての指導」や「通勤のしやすさ」が挙げられている。

(4) 医療・保健について

- 身体障害者の約8割、知的障害者の約6割、精神障害者の約9割が現在、定期的を受診している。
- 医療について困っていることとして、3障害とも「待ち時間が長い」や「医療費や薬代など、お金がたかさんかかる」という点が挙げられている。その他、身体障害者及び精神障害者においては「診療所や病院が遠い」や「病院までの交通機関が少ない」、知的障害者においては「治療の説明がよくわからない」、「障害の状態について医療機関に理解してもらえない」といった声も多い。
- 医療・保健については、「障害や病気に関する相談窓口の増設」が求められている一方で、「医療関係者への研修会」や「障害や病気に関する講演会」の開催も望まれている。

(5) 障害福祉サービスについて

- 身体障害者においては、「訪問系サービス」や「補装具の給付」、「住宅の改修」の認知度が高いが、知的障害者及び精神障害者においては、「日中活動系サービス」や「居住系サービス」、「訪問系サービス」など、事業者提供型の福祉サービスについての認知度が高い。
- 今後、利用したいサービスとして、身体障害者は「補装具の給付」、「住宅の改修」及び「日常生活

用具の給付」の意向が強いが、知的障害者及び精神障害者は「日中活動系サービス」、「居住系サービス」、「訪問系サービス」など、事業者提供型の福祉サービスの利用意向が強い。

- 福祉サービスを利用しやすくするためには、3障害とも「利用料を安くする」と「手続きを簡単にする」の声が多い。

(6) 外出時について

- 外出時に良くなってほしいこととして、身体障害者からは「歩道上の段差解消」(20.3%)や「交通費の負担軽減」(15.3%)、知的障害者からは「困った時の周りからの支援」(16.0%)や「歩道上の段差解消」(11.4%)、精神障害者からは「交通費の負担軽減」(18.4%)や「困った時の周りからの支援」(12.9%)が求められている。

(7) 建物について

- 「今住んでいる家」で改良したい場所は、身体障害者は「風呂の整備」(19.7%)や「手すりの設置」(14.1%)、「段差解消」(13.8%)で半数を占めるが、知的障害者及び精神障害者においては、「特になし」が概ね半数を占める結果となっている。
- 「公共の施設」で改良してほしい所として、身体障害者は「段差解消」(29.8%)や「障害者用トイレの増設」(25.3%)、「エレベーターやエスカレーターの増設」(20.7%)を求めており、知的障害者は「段差解消」(13.8%)や「障害者用トイレの増設」(10.6%)、精神障害者においては、「段差解消」(24.7%)、「自動ドア等への改修」と「エレベーターやエスカレーターの増設」が各12.3%となっている。

(8) 災害について

- 「災害時要援護者支援制度」については、3障害とも「知らない」が半数を超えているが、「知っている」と答えた人については、その半数近くが「登録済み」又は「登録したい」と答えている。
- 防災情報の入手手段は、3障害とも「テレビ」、「家族」及び「ラジオ」で全体の7割を占めている。
- 災害発生時における心配な点として、身体障害者は「避難場所での対応」(12.4%)、「一人で避難できない」(12.3%)、「避難場所においてベッドやトイレが未整備」(12.1%)が挙げられ、知的障害者は「一人で避難できない」(17.3%)、「自分が避難すべきかわからない」(14.9%)、「避難場所での対応」(12.4%)、精神障害者は「自分が避難すべきかわからない」(15.8%)、「どこに避難したら良いかわからない」(12.1%)が挙げられている。

(9) 社会参加の状況について

- 「自治会」や「障害者団体」、「障害者との交流会・イベント」等で活動している人がいる一方で、「特に活動していない」と答えた人が、3障害とも約4割近く存在している。
- 今後、参加してみたい活動として、3障害とも「障害者との交流会」が多いが、身体障害者の34.3%が「特になし」と回答している。
- 社会参加しやすい環境づくりとして、身体障害者は「トイレの整備」(13.8%)や「交通機関や道路の整備」(13.7%)、知的障害者は「障害者も楽しめる催しの開催」(20.2%)や「周囲の人の理解」(17.0%)、精神障害者は「交通機関や道路の整備」(14.2%)や「周囲の人の理解」(14.2%)の割合が高い。

(10) 障害者に対する理解について

- 障害者に対する周囲の理解について、身体障害者と知的障害者は約6割が「理解されている」と回答している。
- 一方、理解されていないと感じる場合として、「外出の時に困っていても助けてくれない」や「外見ではわからないため、周囲の人に理解してもらえない」という意見があった。
- 理解を深める取り組みについては、身体障害者は「障害者自身が積極的に社会参加をする」(16.6%)や「小・中学校での福祉教育の充実」(12.8%)、知的障害者は「小・中学校での福祉教育の充実」

(22.4%)や「教育・福祉従事者の福祉教育の充実」(15.8%)、精神障害者は「スポーツ・文化活動を通じた地域住民との交流」(17.4%)、「障害者自身が積極的に社会参加をする」(13.9%)の割合が多い。

(11) 情報の入手について

- 情報入手の際に困っていることとして、「専門用語など、わからない言葉が多い」と「わかりやすく説明してくれる人がいない」が、3障害とも多い。
- 市政情報の入手方法として、3障害とも約3割の人が「広報うべ」から情報を得ており、以下、「新聞・テレビ・ラジオ」、「郵便物(市からの通知)」の順で続いている。
- 市からの情報に望むこととして、3障害とも「わかりやすさ」が半数を超えており、次に「詳しさ」、「手に入れやすさ」の順で続いている。
- 「広報うべ」を毎号読んでいる人は、身体障害者で6割を超えており、知的障害者と精神障害者においても約4割となっている。

(12) 相談について

- 困ったときの相談相手として、3障害とも「家族」が一番多いが、以下、身体障害者は「病院の医師・看護師等」(15.3%)や「友人・知人」(13.1%)、知的障害者は「学校・職場の関係者」(11.4%)、精神障害者は「病院の医師・看護師等」(19.0%)が多い。

(13) 今後の障害者福祉について

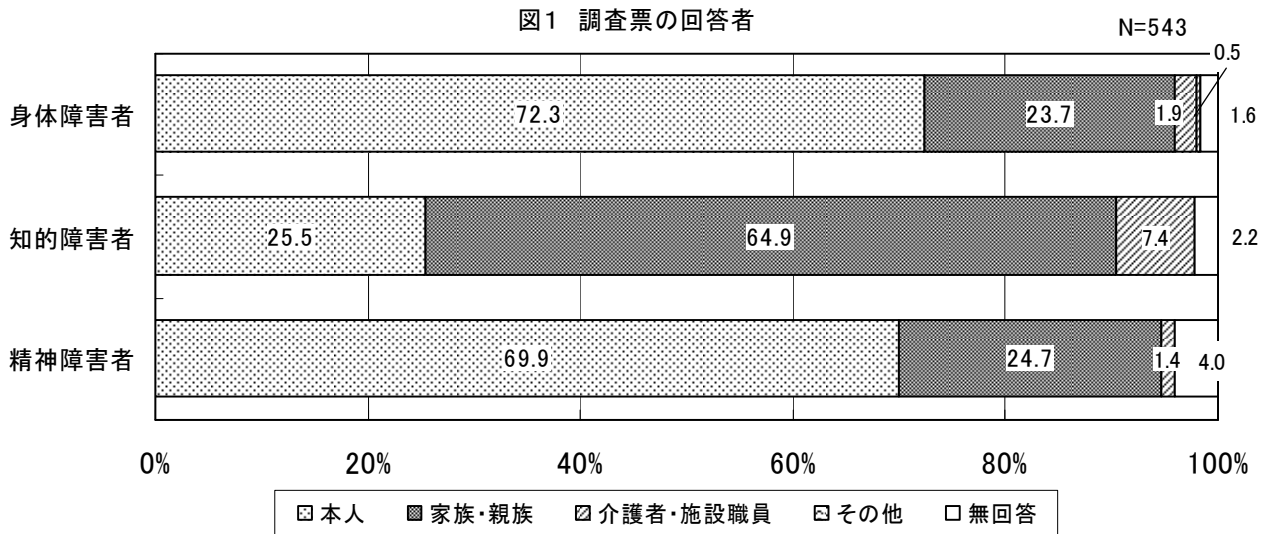
- 今後の障害者福祉の取組みとして、身体障害者は「年金や手当等の増額」(16.9%)や「医療費負担の軽減」(12.5%)など、経済的な支援策を望んでおり、知的障害者においては「働くための訓練場所の整備」(10.2%)や「働く場の拡充」(9.3%)など、就労に関する支援策を望んでいる。また、精神障害者は「年金や手当等の増額」(14.8%)や「相談体制の充実」(8.8%)等を望んでいる。

(14) 障害児を持つ保護者への質問

- 障害の判定を受けた時の気持ちとして、「障害のことや福祉制度についての情報が少なかった」(19.5%)、「これからどうしてよいかわからなかった」(18.0%)、「障害や病気のことについて何もわからず、不安だった」(17.2%)という回答が多かった。
- 障害の早期発見の取組みについて、「十分できている」及び「まあまあできている」を合わせて半数を占めており、早期発見のために必要なこととして、「関係機関の連携」と「乳幼児健診の充実・健診後のフォロー」が挙げられている。
- これまで、教育や保育を受ける中で困ったこととして、「教諭等に障害のことについて理解されていない」(18.9%)、「他の児童・生徒に理解されていない」(15.8%)の割合が高く、教育に対する要望として、「専門知識を持った教職員の配置」(27.5%)や「理解を深める教育の推進」(22.1%)、「個人ニーズに応じた教育の推進」(17.6%)が求められている。
- 子供の将来について不安な点として、「親の死後、子供の世話をする人がいないこと」(19.6%)や「障害の状態の変化」(14.9%)、「就職」(12.2%)が挙げられている。

2 回答者の属性

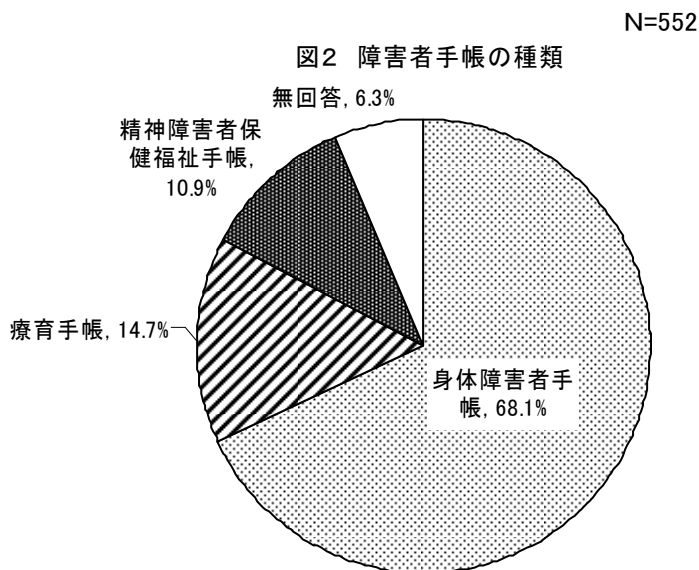
(1) 調査票の回答者



この調査票の回答者は、身体障害者では「本人」が72.3%と最も多く、次に「家族・親族(が本人の立場に立って回答)」が23.7%、「介護者・施設職員(が本人の立場に立って回答)」が1.9%となっている。

また、知的障害者は「家族・親族」が64.9%、「本人」が25.5%、「介護者・施設職員」が7.4%、精神障害者は「本人」が69.9%、「家族・親族」が24.7%、「介護者・施設職員」が1.4%となっている。

(2) 障害者手帳の種類

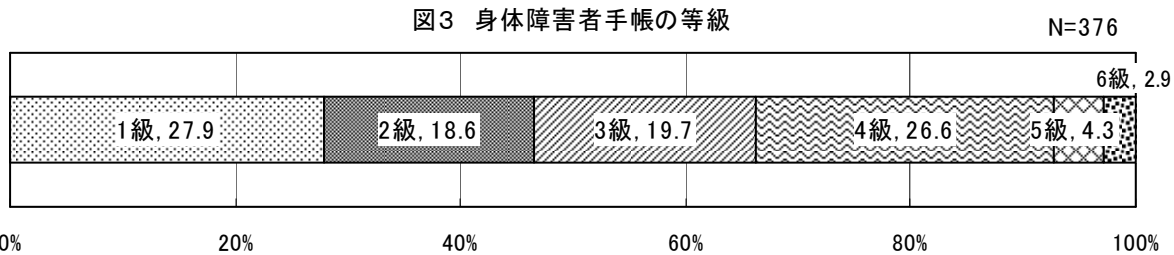


障害者手帳の種類では、「身体障害者手帳」が68.1%、「療育手帳(知的障害者)」が14.7%、「精神障害者保健福祉手帳」が10.9%、「無回答」が6.3%となっている。

※重複して手帳を持っている方は、下記の「1>2>3」の順位で判断した。

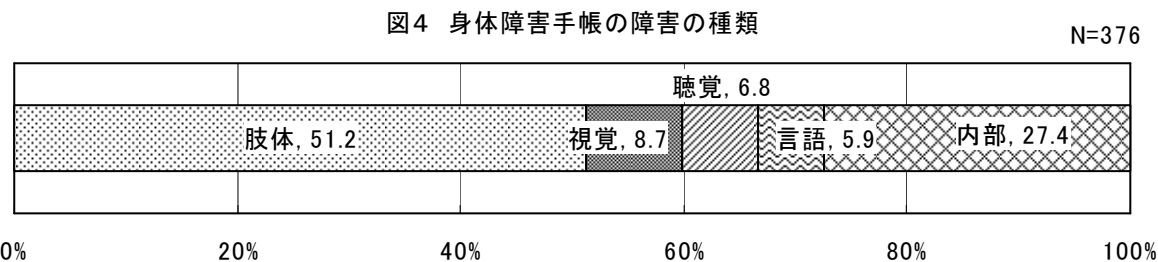
- 1 身体障害者手帳
- 2 療育手帳
- 3 精神障害者保健福祉手帳

①身体障害者手帳の等級



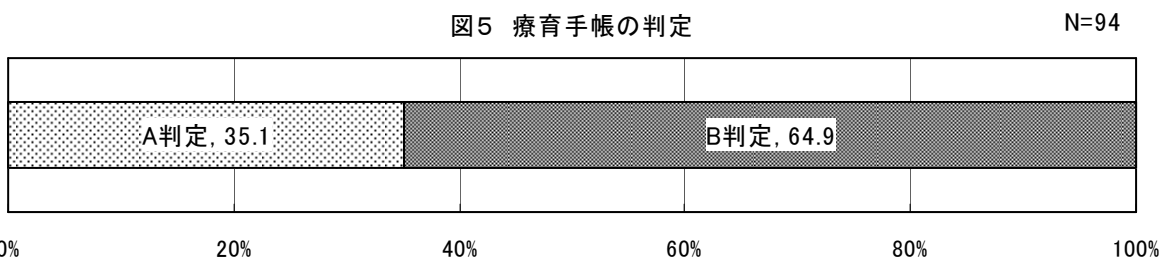
「1級」が27.9%と最も割合が高く、続いて「4級」の26.6%、「3級」の19.7%、「2級」の18.6%となっている。

②身体障害者手帳の障害の種類



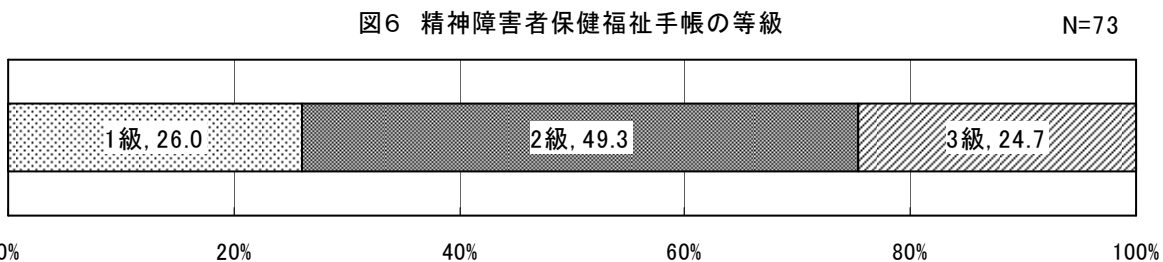
「肢体不自由」が51.2%、続いて「内部障害」が27.4%、「視覚障害」が8.7%、「聴覚障害」が6.8%となっている。

③療育手帳の判定



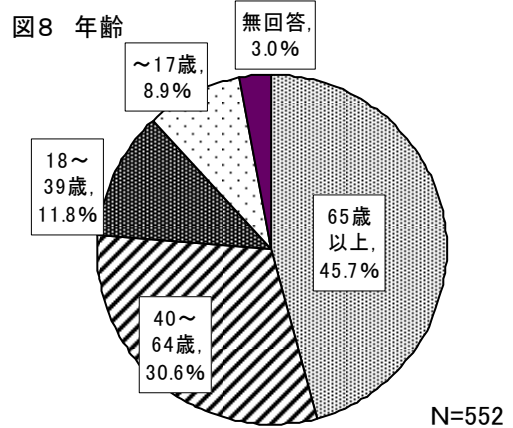
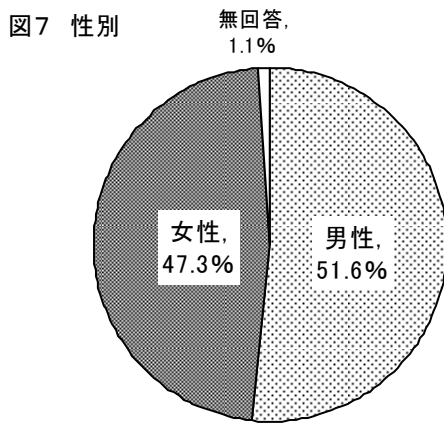
知的障害者における手帳の判定は、「A判定(重度)」が35.1%、「B判定(中・軽度)」が64.9%となっている。

④精神障害者保健福祉手帳の等級



精神障害者保健福祉手帳の等級については、「2級」が49.3%と最も割合が高く、「1級」が26.0%、「3級」が24.7%となっている。

(3) 性別及び年齢



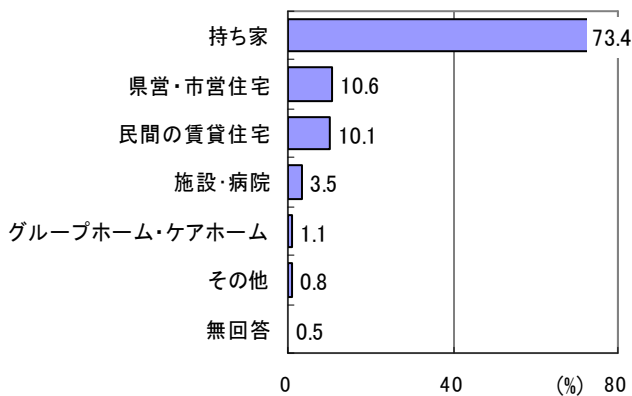
○性別は、「男性」が51.6%、「女性」が47.3%。

○年齢は、「65歳以上」が45.7%、「40~64歳」が30.6%、「18~39歳」が11.8%となっている。

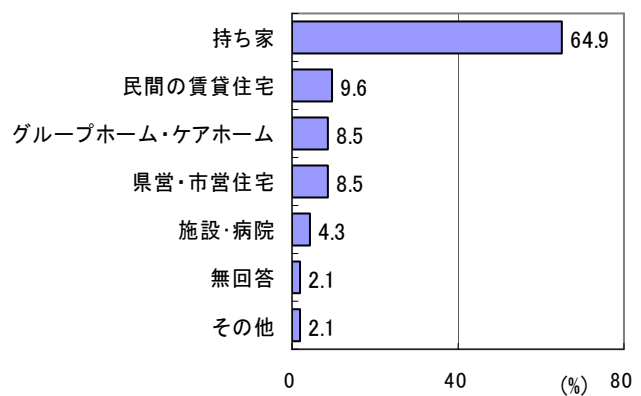
(4) 居住環境

①住居

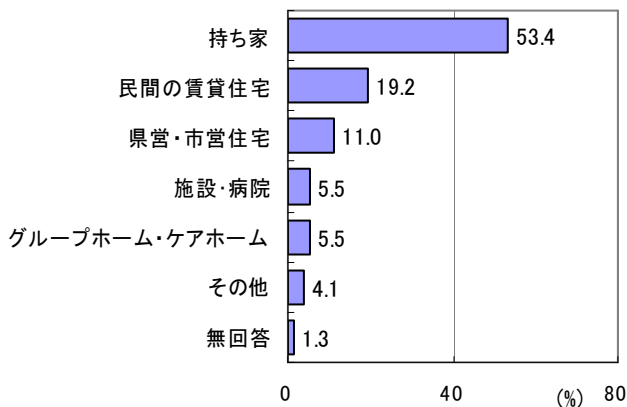
図9 住居について〈身体障害者〉 N=376



〈知的障害者〉 N=94



〈精神障害者〉 N=73



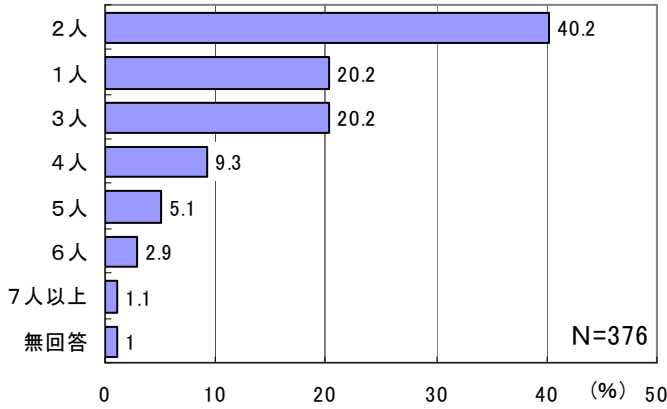
○身体障害者は、「持ち家」が73.4%、「県営・市営住宅」が10.6%、「民間の賃貸住宅」が10.1%となっている。

○知的障害者は、「持ち家」が64.9%、「民間の賃貸住宅」が9.6%、「県営・市営住宅」と「グループホーム・ケアホーム」が各8.5%となっている。

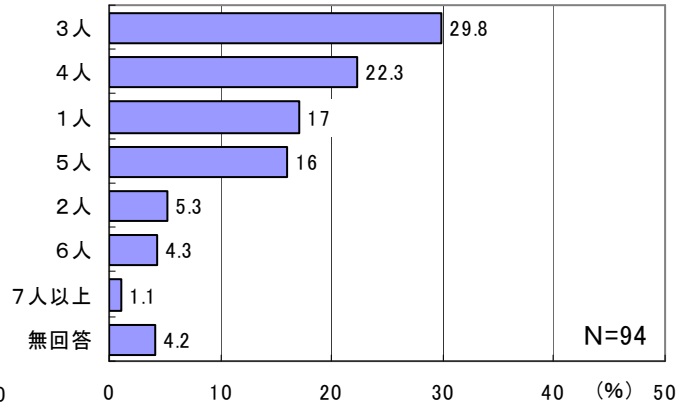
○精神障害者は、「持ち家」が53.4%、「民間の賃貸住宅」が19.2%、「県営・市営住宅」が11.0%となっている。

②世帯人員

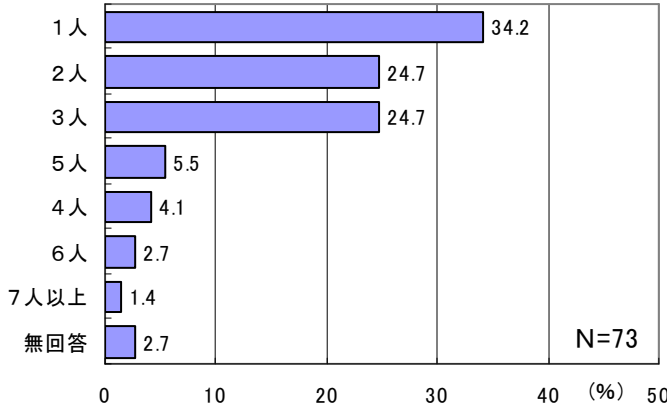
図10 世帯人員<身体障害者>



<知的障害者>



<精神障害者>



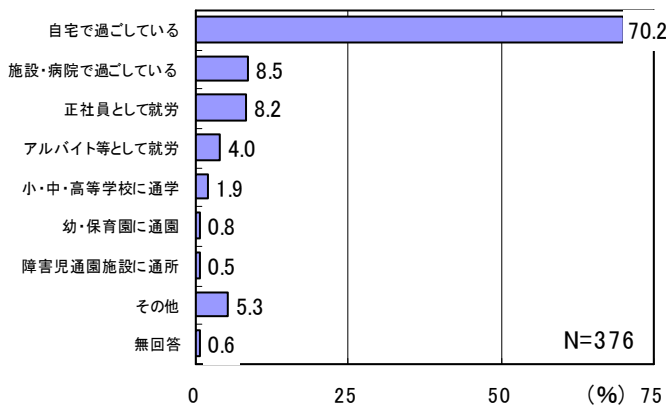
世帯人員は、身体障害者では「2人」が40.2%、「一人暮らし」と「3人」が各20.2%となっている。

知的障害者は「3人」が29.8%、「4人」が22.3%、「一人暮らし」が17.0%となっている。

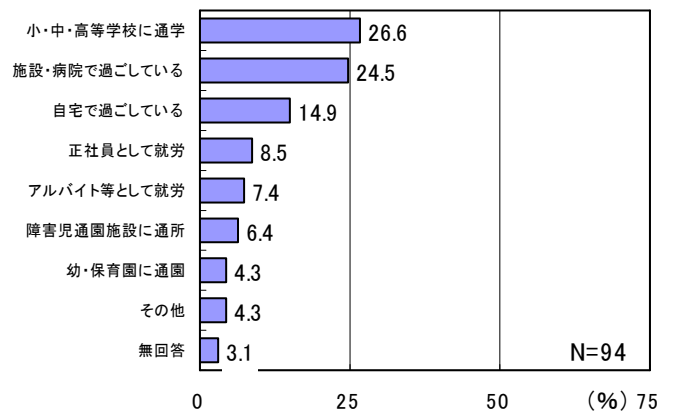
精神障害者は、「一人暮らし」が34.2%、「2人」と「3人」が各24.7%となっている。

(5) 日中(平日)の過ごし方

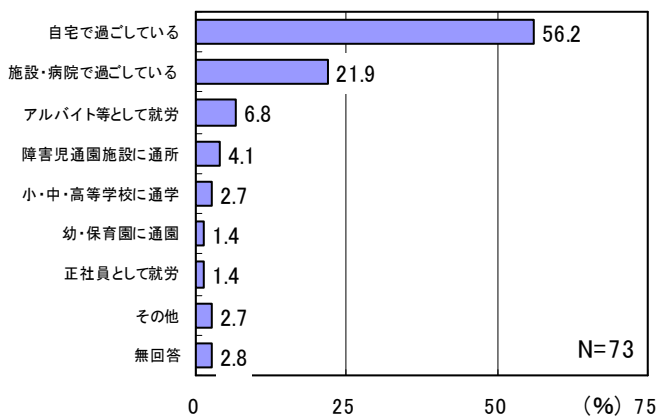
図11 平日の昼間の過ごし方<身体障害者>



<知的障害者>



<精神障害者>



日中の主な過ごし方では、身体障害者は「自宅」が70.2%、「施設・病院」が8.5%、「正社員として働いている」が8.2%となっている。

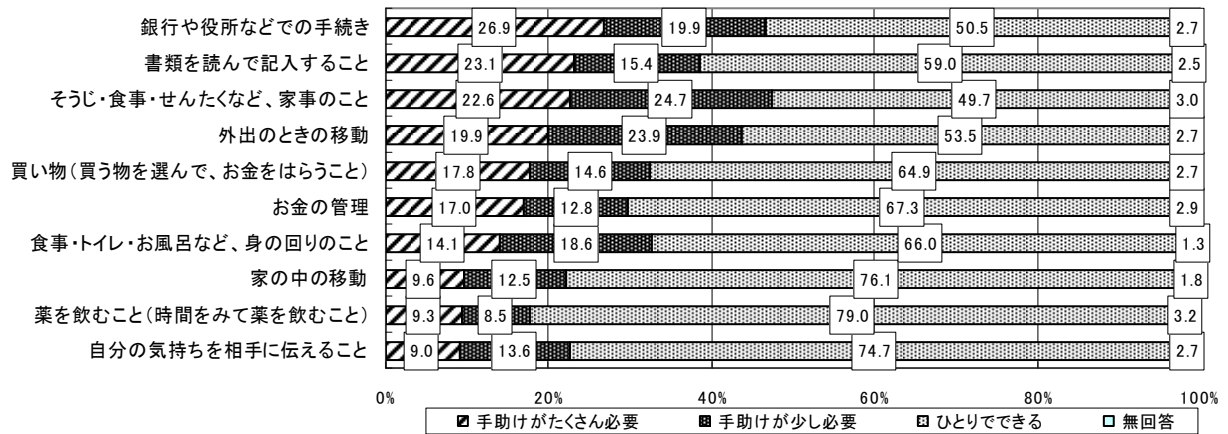
知的障害者は、「小・中・高等学校」が26.6%、「施設・病院」が24.5%、「自宅」が14.9%となっている。

精神障害者は、「自宅」が56.2%、「施設・病院」が21.9%、「パート・アルバイトとして働いている」が6.8%となっている。

3 日常生活における介助・支援の状況

図12 日常生活における介助・支援の状況(身体障害者)

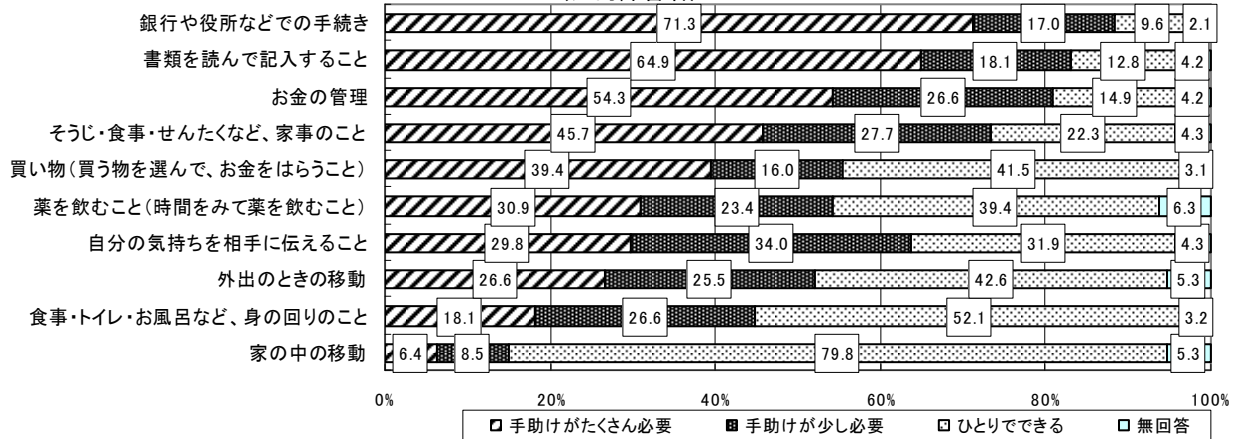
N=376



身体障害者で「手助けがたくさん必要」なことは、「銀行や役所などでの手続き」が26.9%、「書類を読んで記入すること」が23.1%、「そうじ・食事・せんたくなど、家事のこと」が22.6%となっている。
一方、「ひとりでできる」ことは、「薬を飲むこと(時間をみて薬を飲むこと)」が79.0%、「家の中の移動」が76.1%、「自分の気持ちを相手に伝えること」が74.7%となっている。

〈知的障害者〉

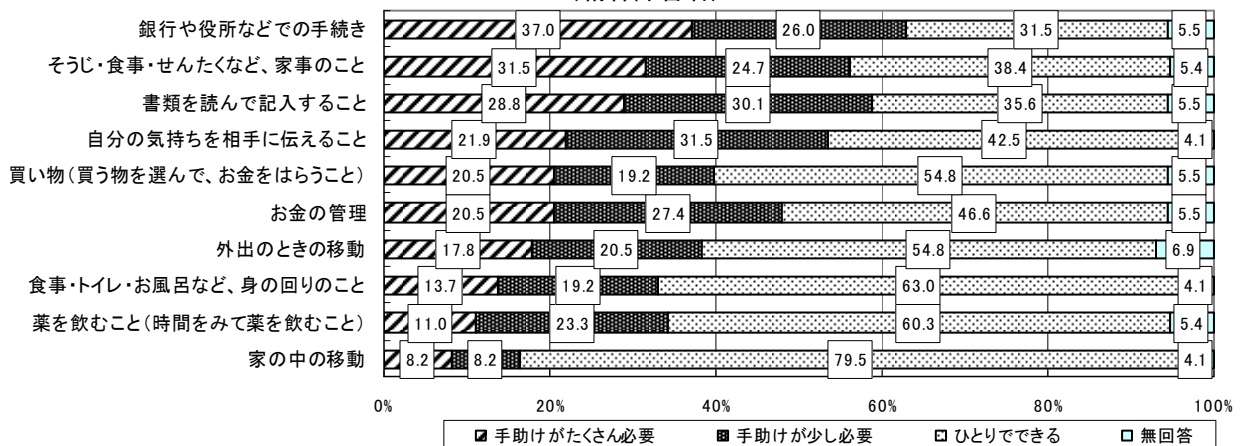
N=94



知的障害者で「手助けがたくさん必要」なことは、「銀行や役所などでの手続き」が71.3%、「書類を読んで記入すること」が64.9%、「お金の管理」が54.3%となっている。
一方、「ひとりでできる」ことは、「家の中の移動」が79.8%、「食事・トイレ・お風呂など、身の回りのこと」が52.1%、「外出のときの移動」が42.6%となっている。

〈精神障害者〉

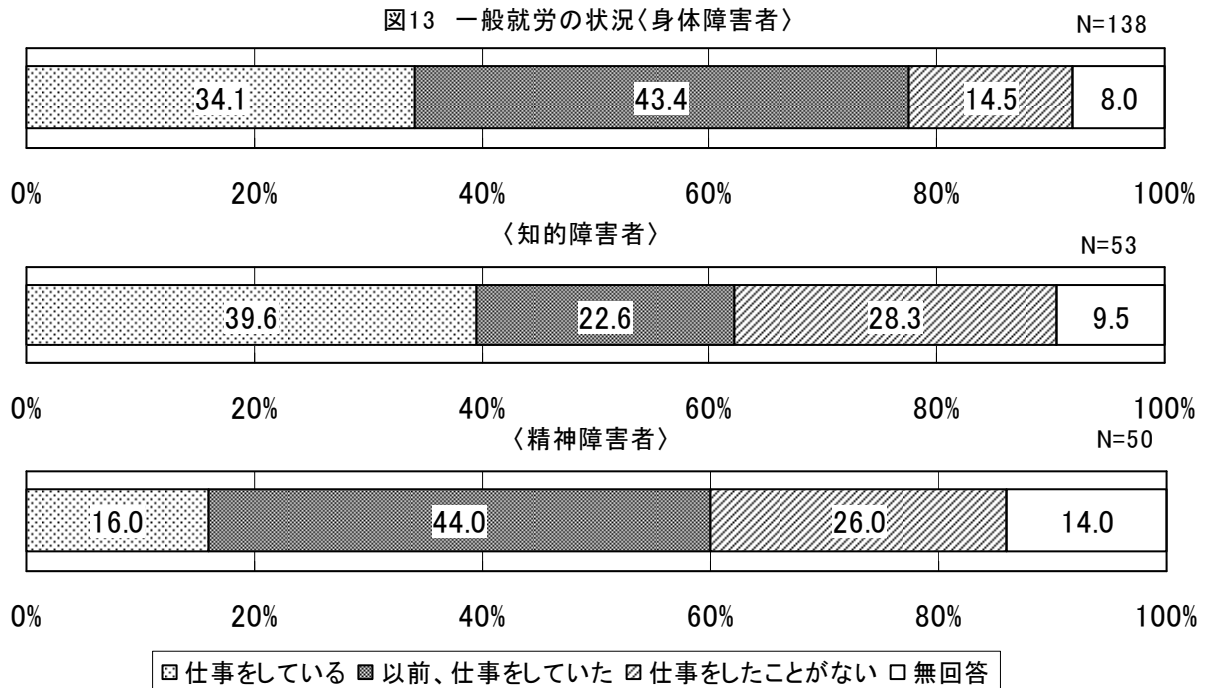
N=73



精神障害者で「手助けがたくさん必要」なことは、「銀行や役所などでの手続き」が37.0%、「そうじ・食事・せんたくなど、家事のこと」が31.5%となっている。
一方、「ひとりでできる」ことは、「家の中の移動」が79.5%、「食事・トイレ・お風呂など、身の回りのこと」が63.0%、「薬を飲むこと」が60.3%となっている。

4 就労の状況について〈回答者のうち、18～64歳の人〉

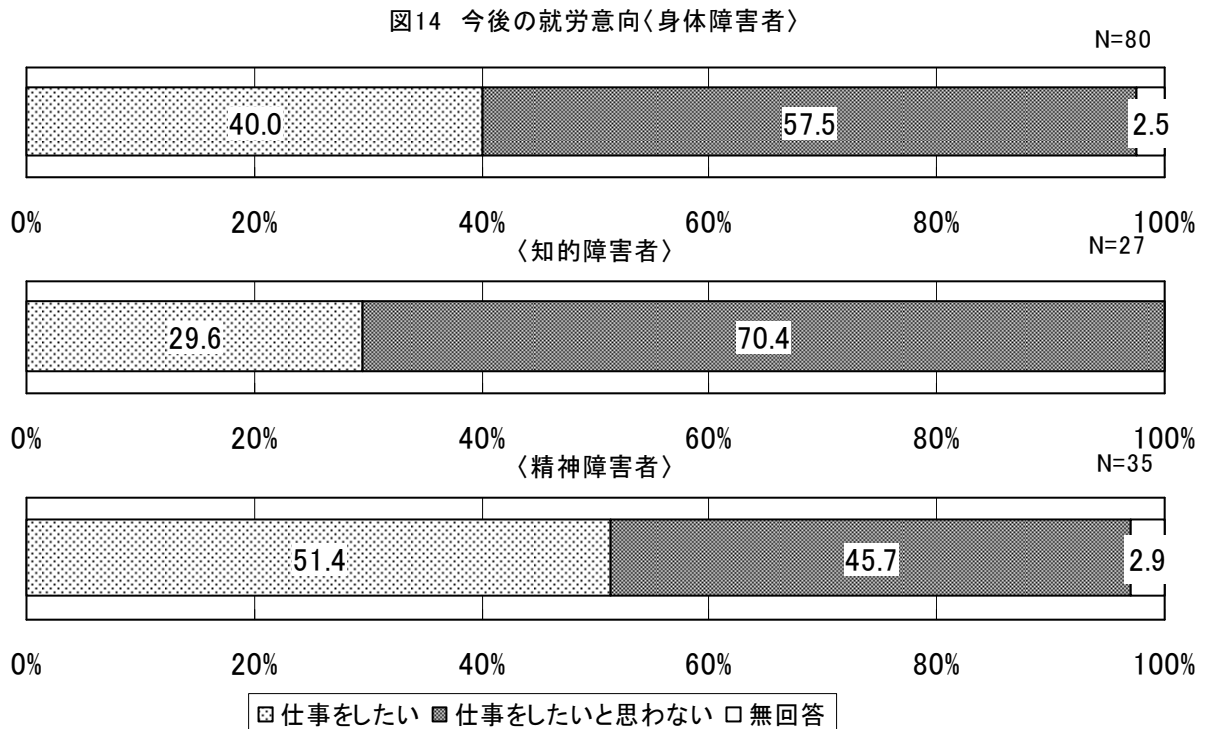
(1) 現在の就労の状況について



18歳から64歳までの人において、「現在働いている(福祉的就労は含まない。)」と回答した人は、身体障害者で34.1%、知的障害者で39.6%、精神障害者で16.0%となっている。

一方で、現在、仕事に就いていない人(「以前、働いていた」・「働いたことがない」)は、身体障害者で57.9%、知的障害者で50.9%、精神障害者で70.0%となっている。

(2) 現在、仕事をしていない人の今後の就労意向

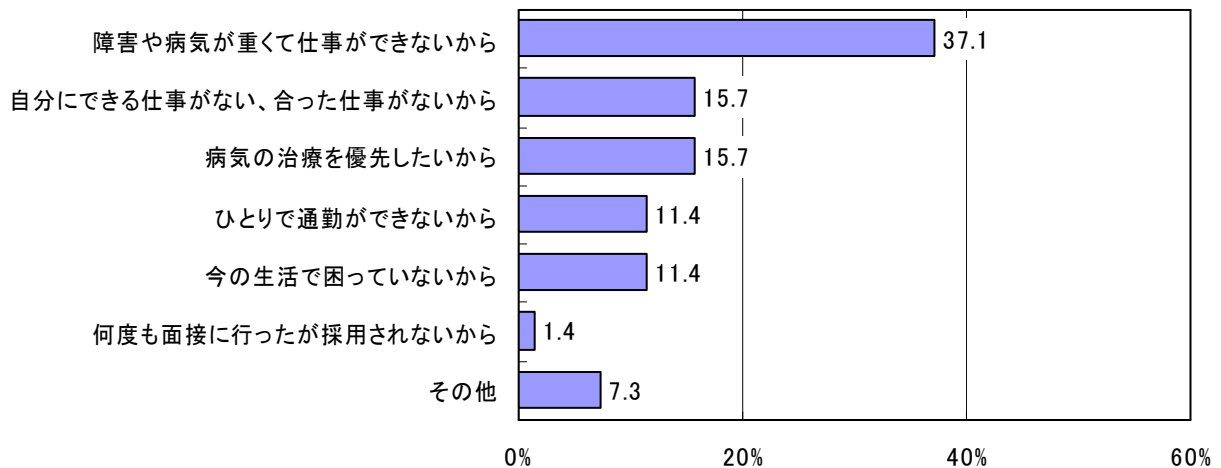


現在、仕事をしていない人のうち、身体障害者の40.0%、知的障害者の29.6%、精神障害者の51.4%が「仕事をしたい」と答えており、逆に「仕事をしたいと思わない」と回答した人は、身体障害者で57.5%、知的障害者で70.4%、精神障害者で45.7%となっている。

(3) 現在、仕事をしていない理由

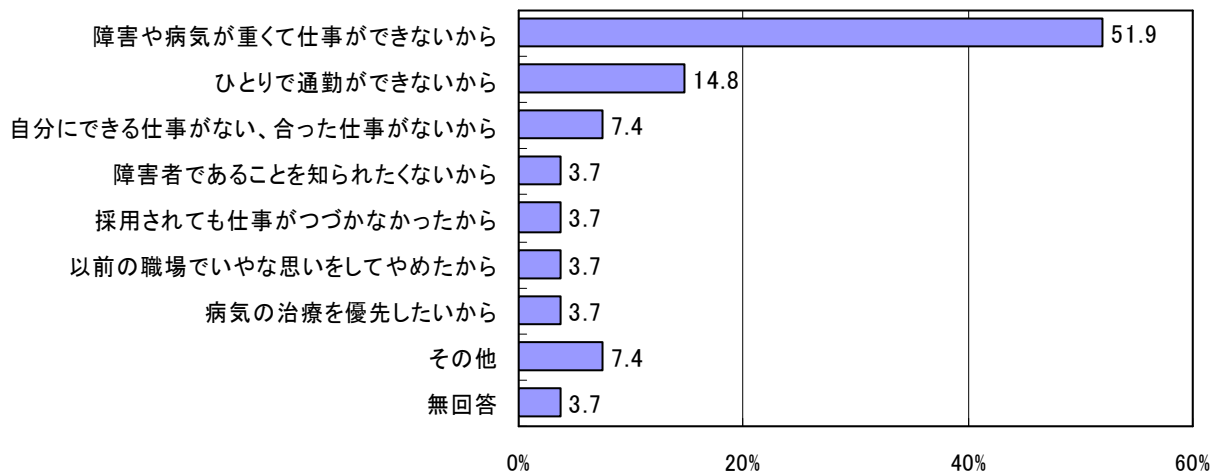
図15 仕事をしていない理由<身体障害者>

N=70



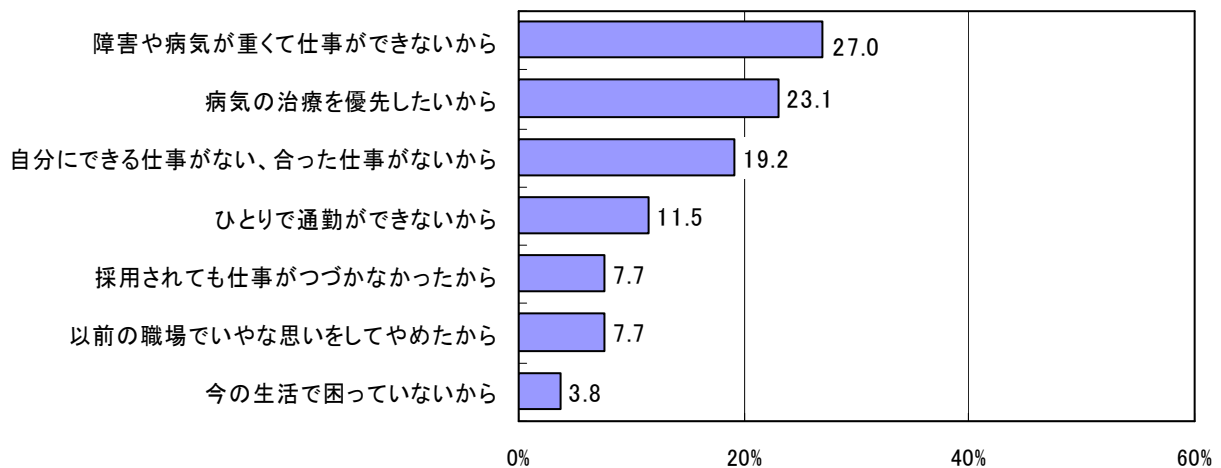
<知的障害者>

N=27



<精神障害者>

N=26

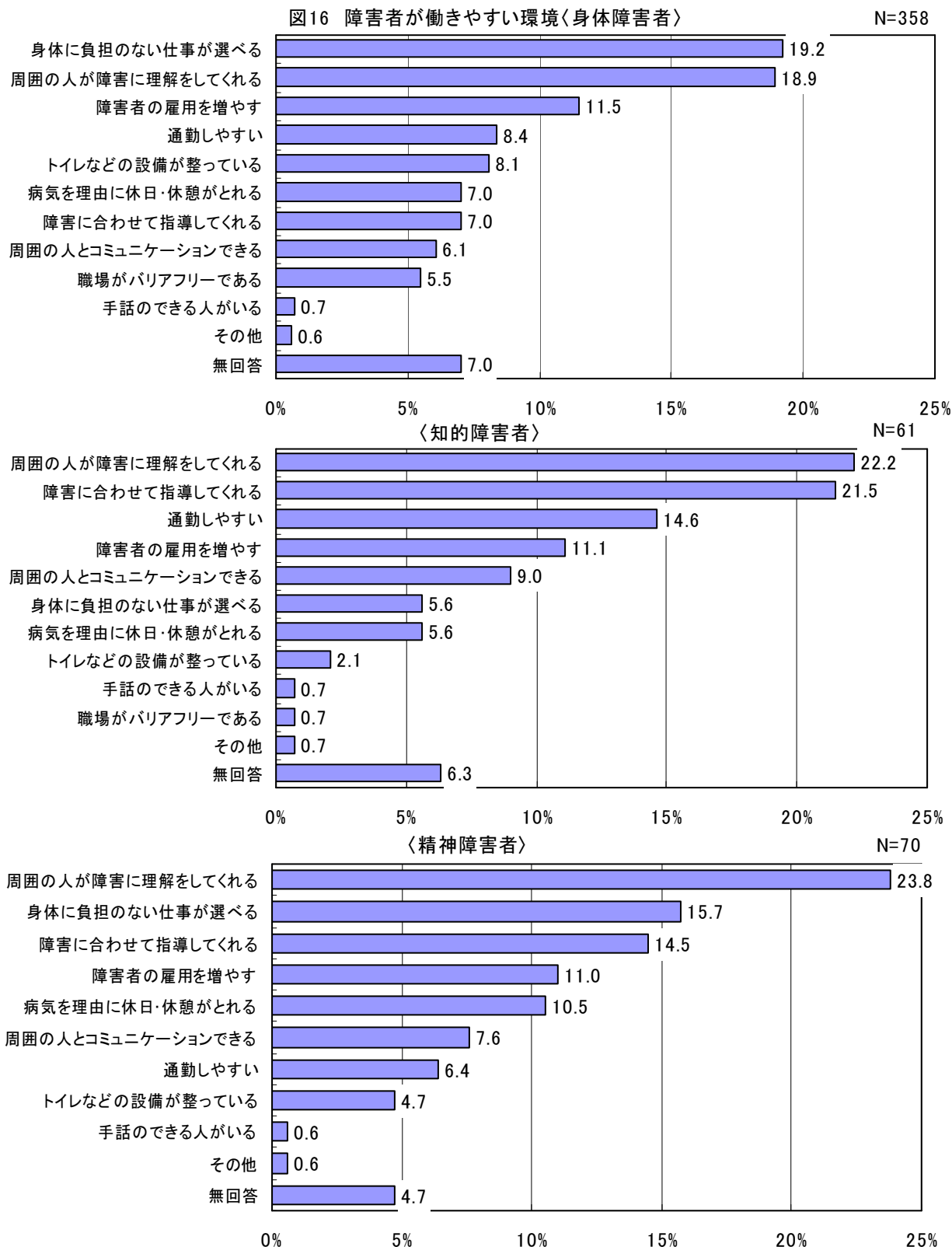


身体障害者の37.1%が「障害や病気が重くて仕事ができない」と回答しており、「自分にできる仕事がない、合った仕事がない」・「病気の治療を優先したい」が各15.7%となっている。

知的障害者は、51.9%が「障害や病気が重くて仕事ができない」、14.8%が「ひとりで通勤できない」、7.4%が「自分にできる仕事がない、合った仕事がない」と答えている。

精神障害者は、27.0%が「障害や病気が重くて仕事ができない」、23.1%が「病気の治療を優先したい」、19.2%が「自分にできる仕事がない、合った仕事がない」と答えている。

(4) 障害者の就労に必要な環境



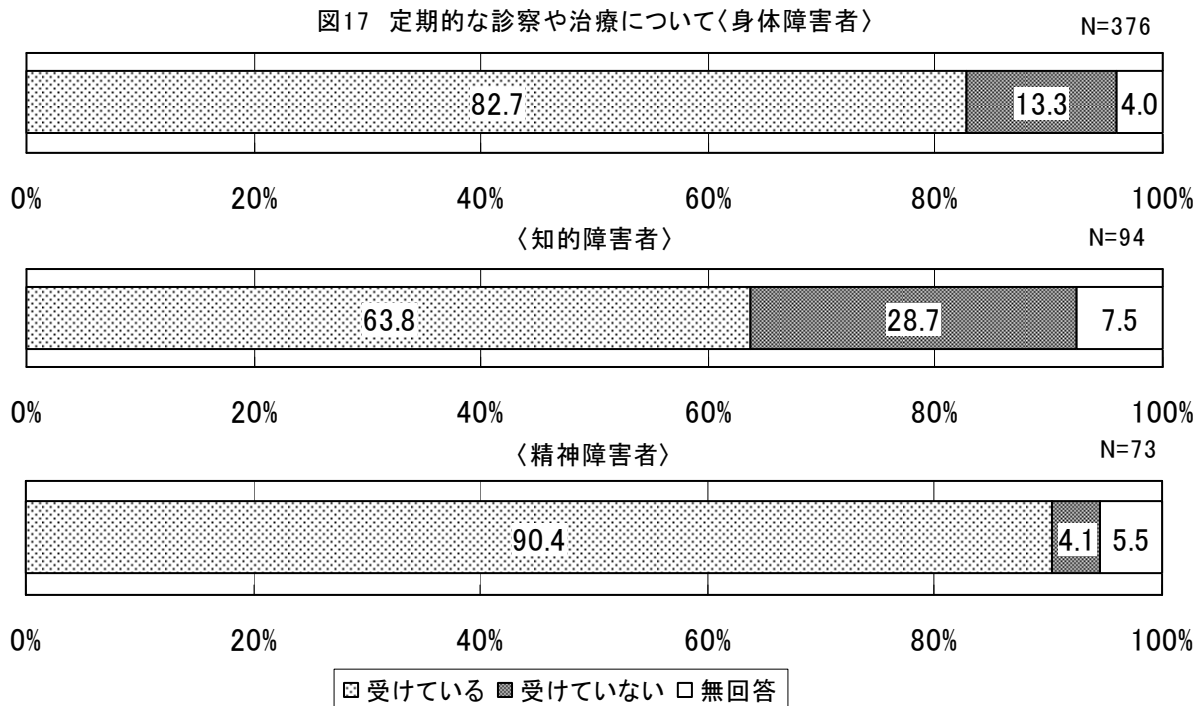
障害者が働きやすい環境として、身体障害者の19.2%が「身体に負担のない仕事を選べる」と回答しており、続いて「周囲の人が障害に理解をしてくれる」が18.9%、「障害者の雇用を増やす」が11.5%となっている。

知的障害者は、「周囲の人が障害に理解をしてくれる」が22.2%、「障害に合わせて指導してくれる」が21.5%、「通勤しやすい」が14.6%となっている。

精神障害者は、「周囲の人が障害に理解をしてくれる」が23.8%、「身体に負担のない仕事を選べる」が15.7%、「障害に合わせて指導してくれる」が14.5%となっている。

5 医療・保健について

(1) 現在の受診状況について

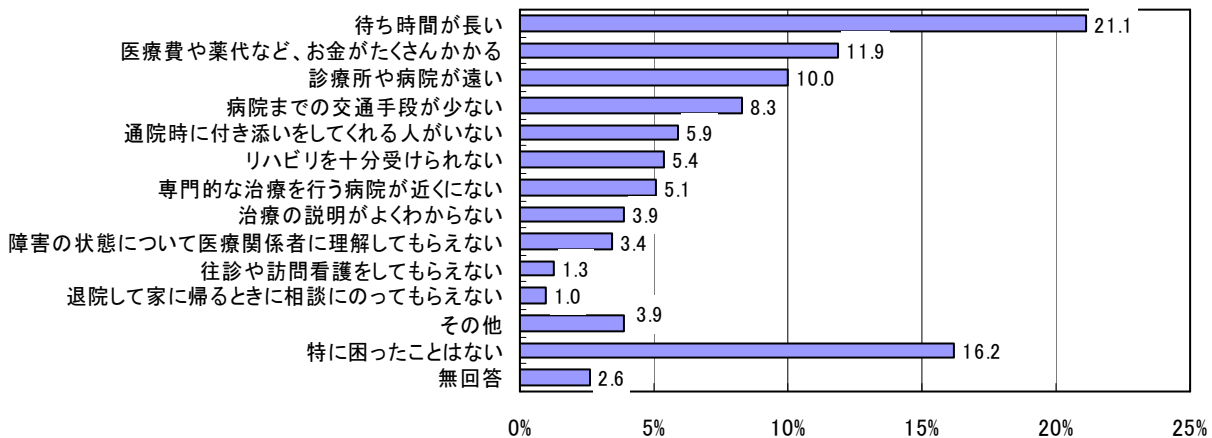


身体障害者の 82.7%、知的障害者の 63.8%、精神障害者の 90.4%が、現在、定期的に診察・治療を受けている。

(2) 医療について困っていること

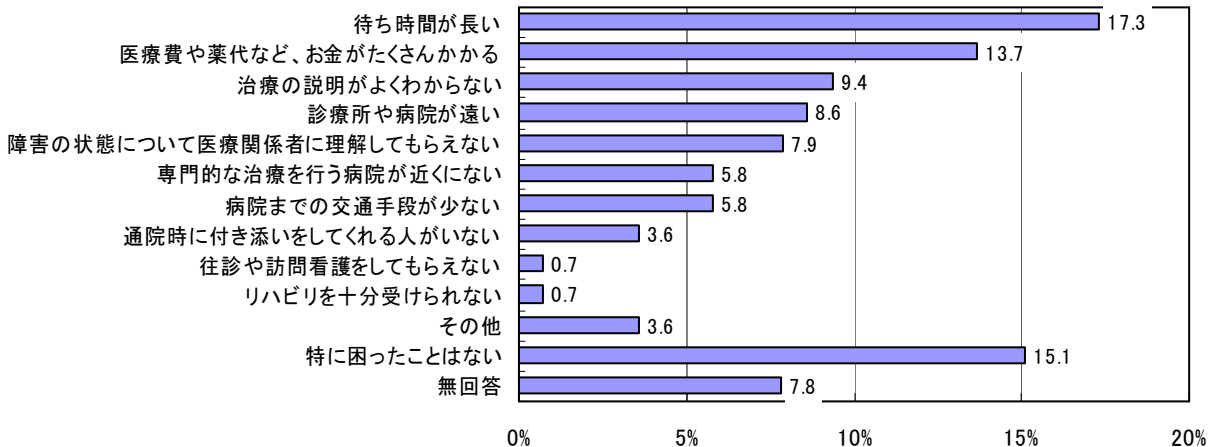
表18 医療について困っていること〈身体障害者〉

N=376



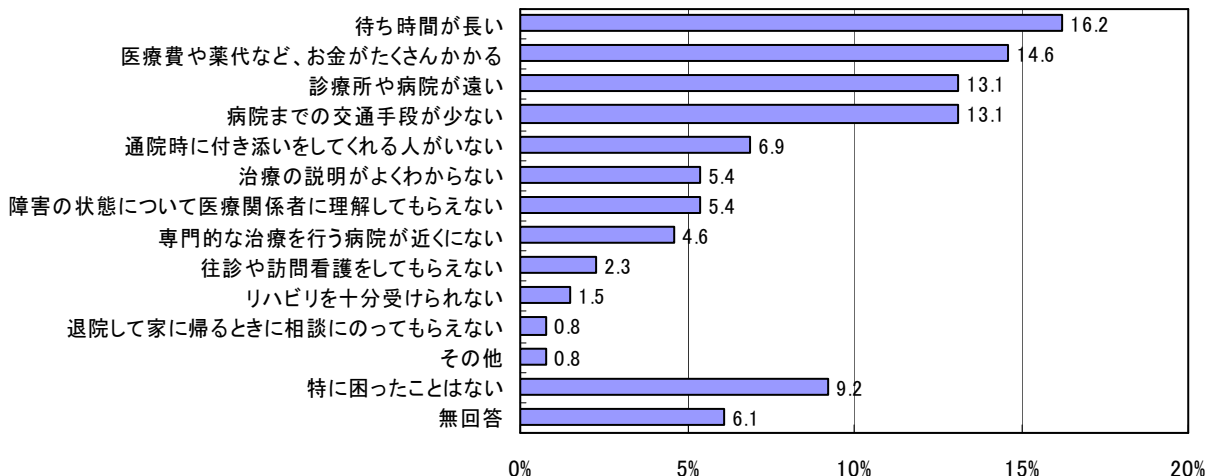
〈知的障害者〉

N=94



〈精神障害者〉

N=73



医療について困っていることとして、身体障害者は「待ち時間が長い」が 21.1%、「医療費や薬代など、お金がたくさんかかる」が 11.9%、「診療所や病院が遠い」が 10.0%となっている。

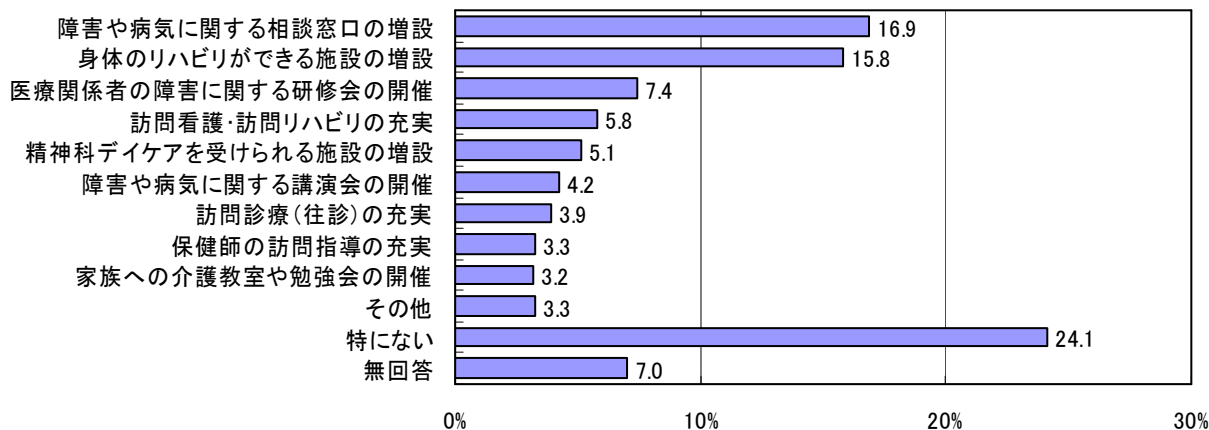
知的障害者は「待ち時間が長い」が 17.3%、「医療費や薬代など、お金がたくさんかかる」が 13.7%、「治療の説明がよくわからない」が 9.4%となっている。

精神障害者は「待ち時間が長い」が 16.2%、「医療費や薬代など、お金がたくさんかかる」が 14.6%、「診療所や病院が遠い」・「病院までの交通手段が少ない」が各 13.1%となっている。

(3) 医療や保健について望むこと

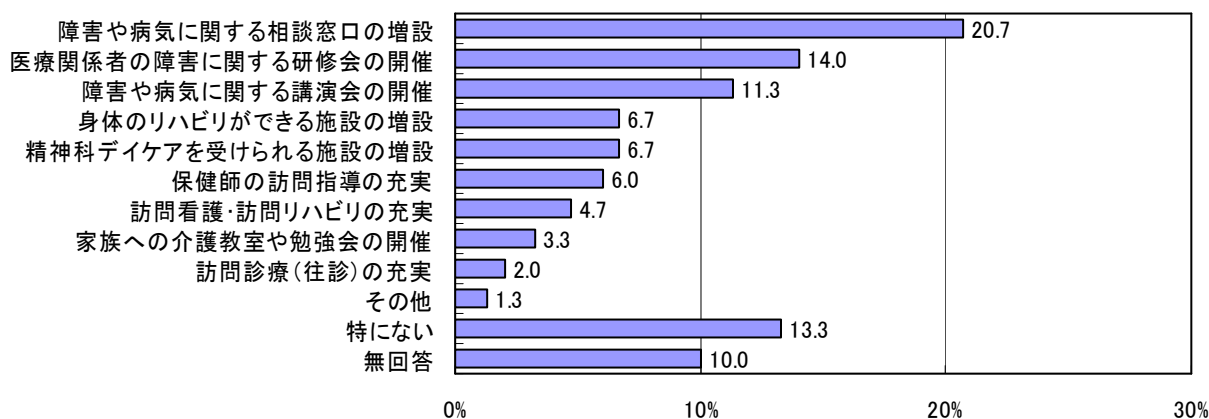
図19 医療や保健に対して望むこと〈身体障害者〉

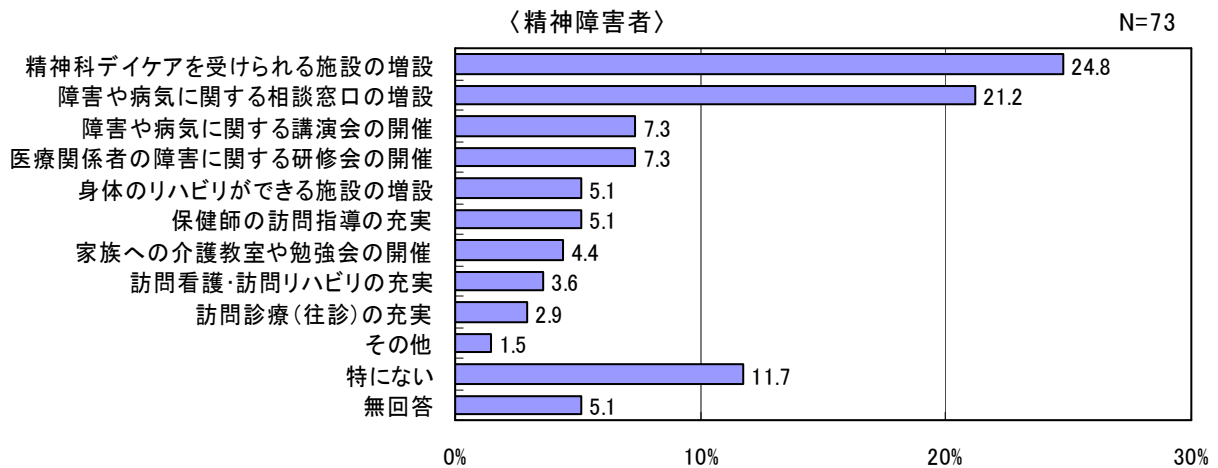
N=376



〈知的障害者〉

N=94





医療や保健に対して望むこととして、身体障害者は 16.9%が「障害や病気に関する相談窓口を増やしてほしい」としており、続いて「身体のリハビリができる施設を増やしてほしい」が 15.8%、「医療関係者への障害に関する研修会を増やしてほしい」が 7.4%となっている。

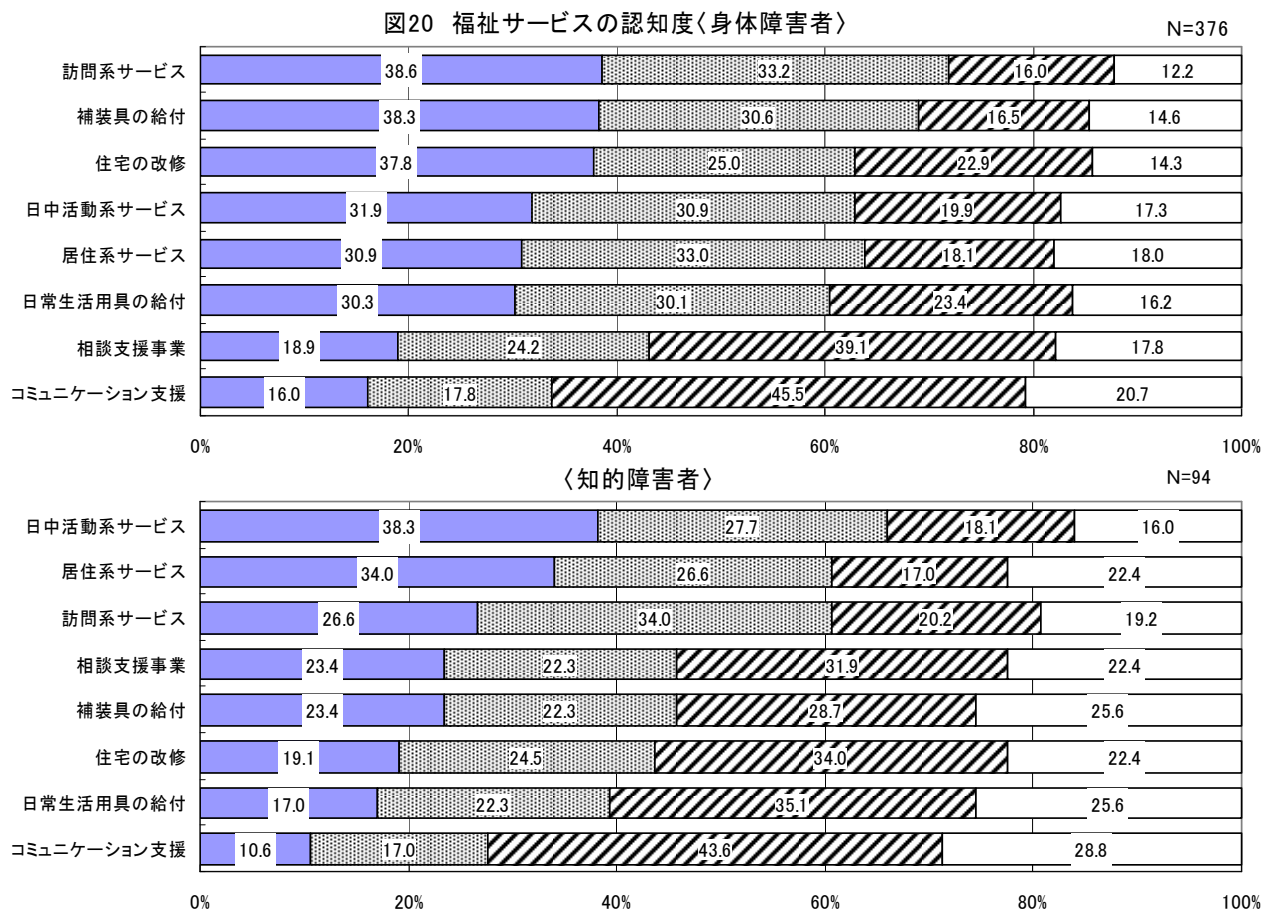
知的障害者は、「障害や病気に関する相談窓口を増やしてほしい」が 20.7%、「医療関係者への障害に関する研修会を増やしてほしい」が 14.0%、「障害や病気に関する講演会を開催してほしい」が 11.3%となっている。

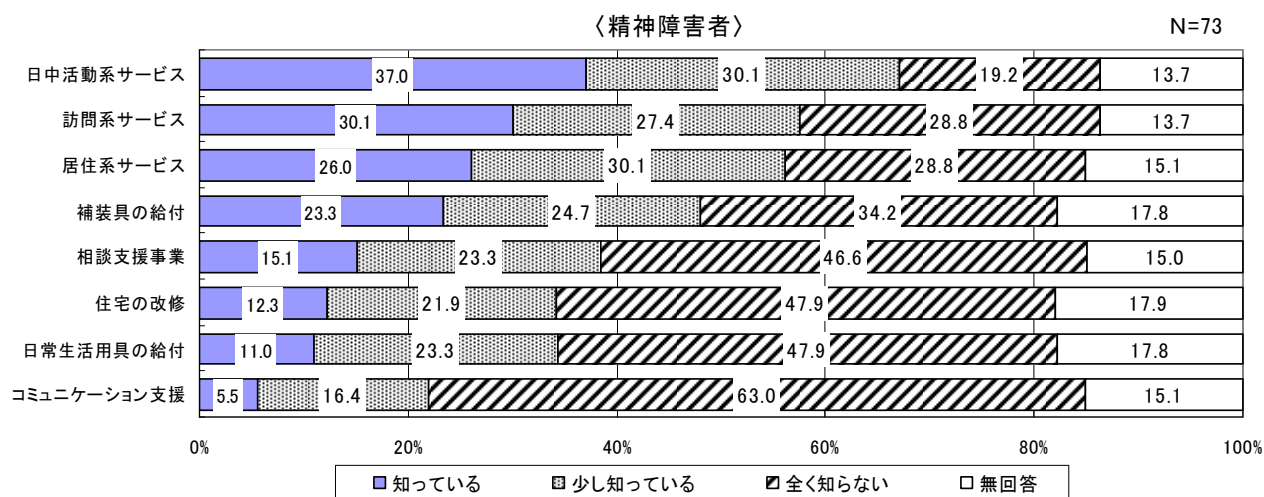
精神障害者は、「精神科デイケアを受けられる施設を増やしてほしい」が 24.8%、「障害や病気に関する相談窓口を増やしてほしい」が 21.2%、「医療関係者への障害に関する研修会を増やしてほしい」・「障害や病気に関する講演会を開催してほしい」が各 7.3%となっている。

一方で、身体障害者の 24.1%、知的障害者の 13.3%、精神障害者の 11.7%は、「(望むことは)特にない」と回答している。

6 障害福祉サービスについて

(1) 各福祉サービスの認知度



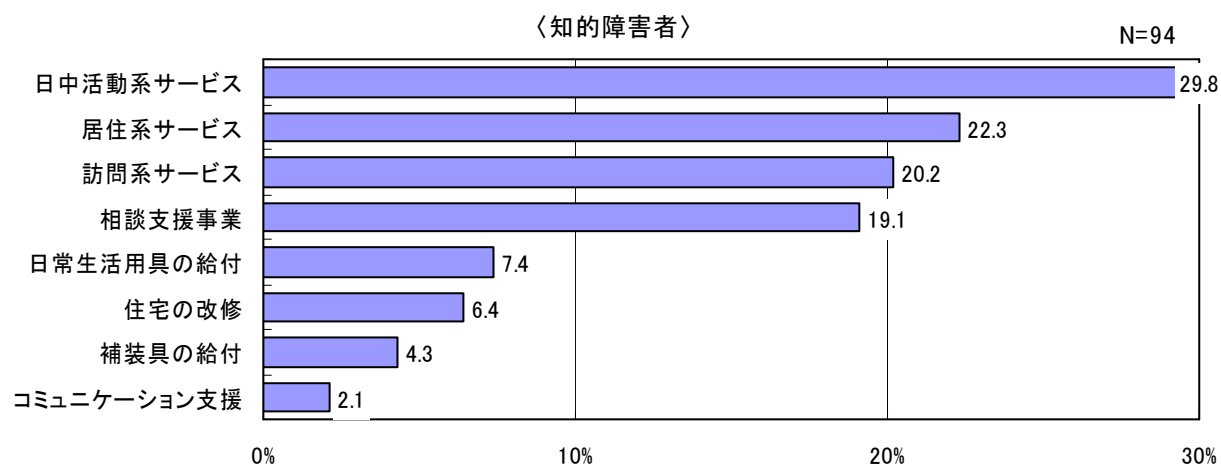
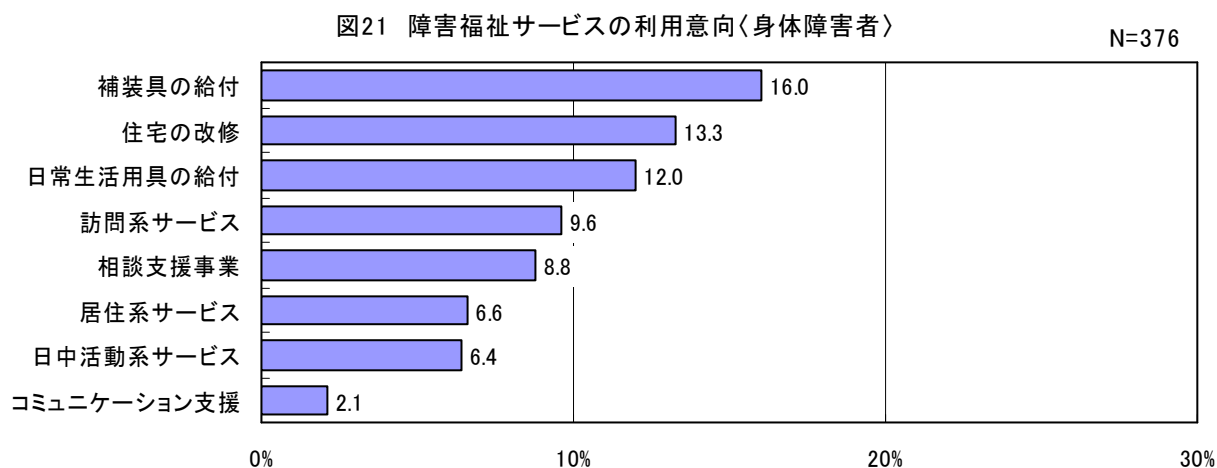


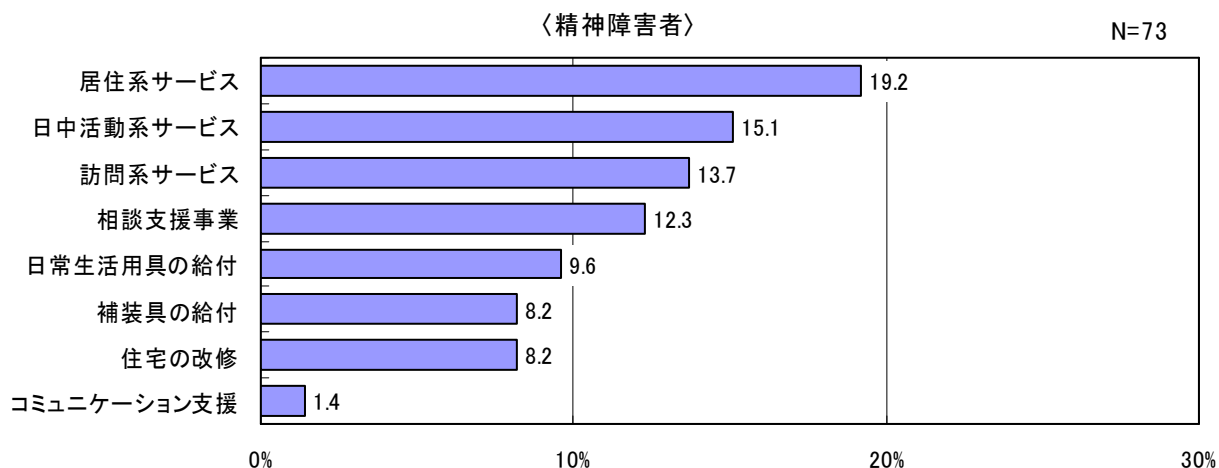
障害福祉サービスについての認知度は、身体障害者においては、「訪問系サービス」が38.6%、「補装具の給付」が38.3%、「住宅の改修」が37.8%となっている。

知的障害者においては、「日中活動系サービス」が38.3%、「居住系サービス」が34.0%、「訪問系サービス」が26.6%となっている。

精神障害者においては、「日中活動系サービス」が37.0%、「訪問系サービス」が30.1%、「居住系サービス」が26.0%となっている。

(2) 福祉サービスの利用意向



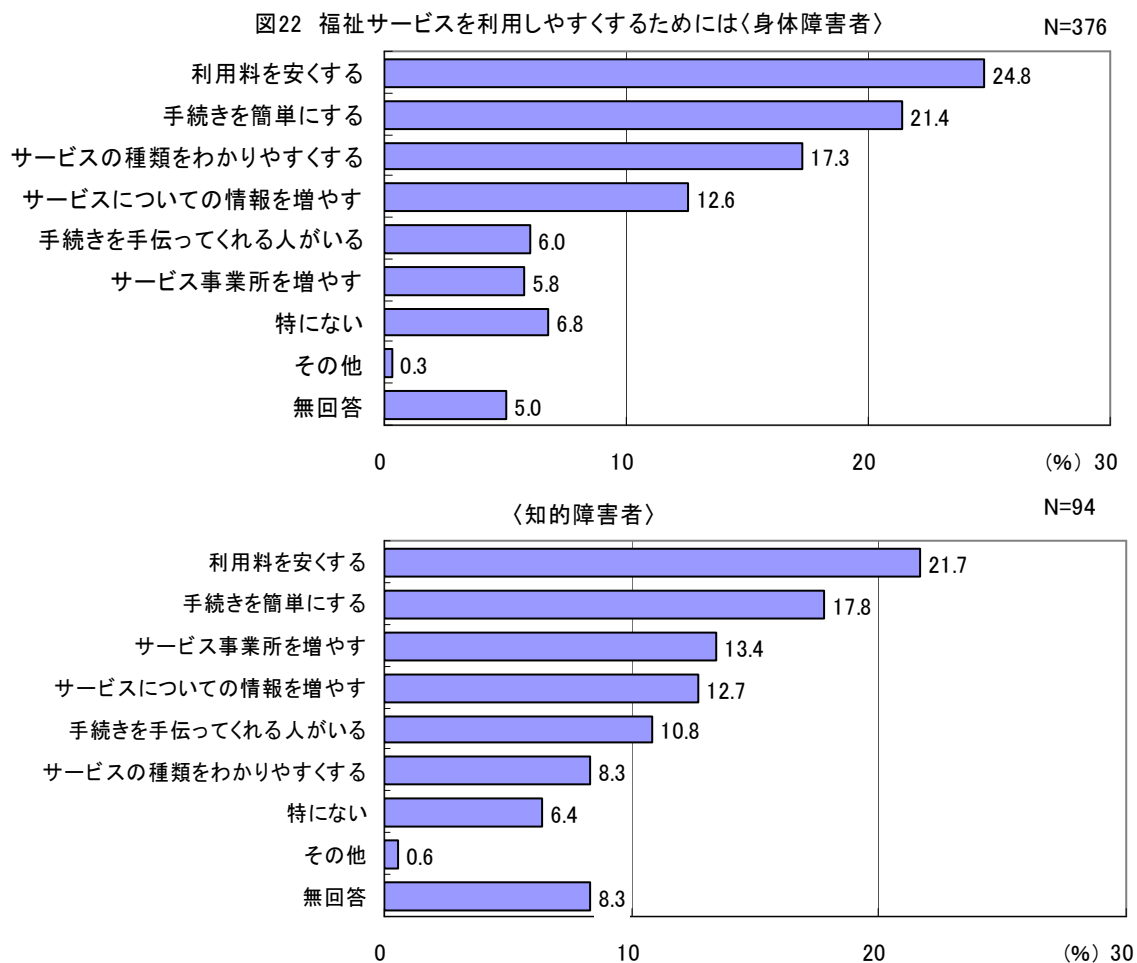


今後、利用したい福祉サービスとして、身体障害者は「補装具の給付」が 16.0%、「住宅の改修」が 13.3%、「日常生活用具の給付」が 12.0%となっている。

知的障害者においては、「日中活動系サービス」が 29.8%、「居住系サービス」が 22.3%、「訪問系サービス」が 20.2%となっている。

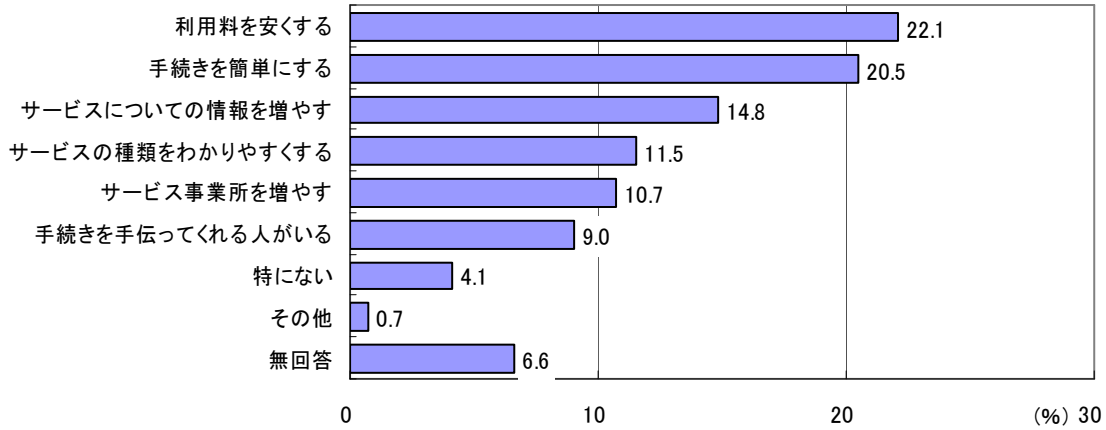
精神障害者においては、「居住系サービス」が 19.2%、「日中活動系サービス」が 15.1%、「訪問系サービス」が 13.7%となっている。

(3) 福祉サービスを利用しやすくするためには



〈精神障害者〉

N=73



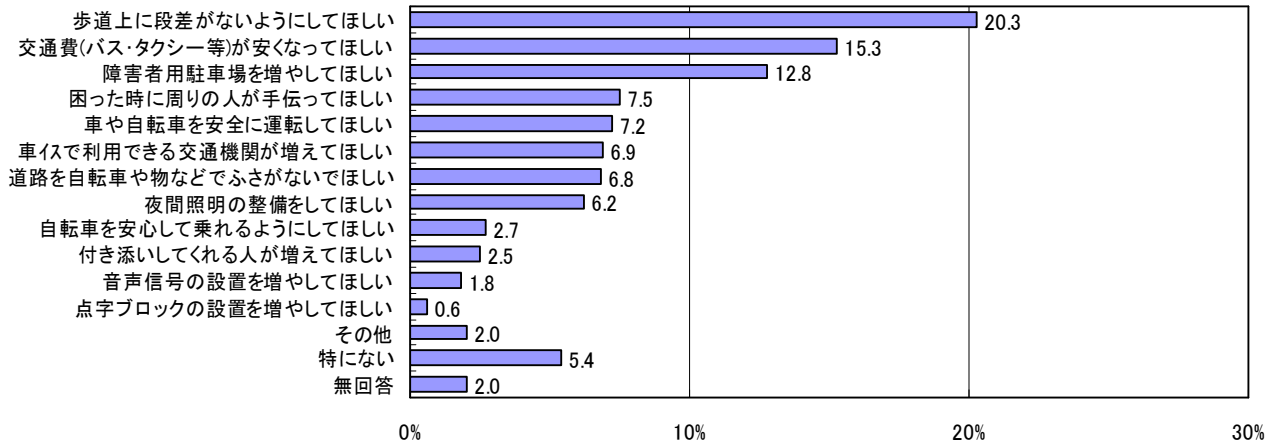
福祉サービスを利用しやすくするためには、「利用料を安くする」が3障害とも一番多く、次に「手続きを簡単にする」が続いている。

以下、身体障害者は「サービスの種類をわかりやすくする」(17.3%)、「サービスについて情報を増やす」(12.6%)が続く、知的障害者は「サービス事業所を増やす」(13.4%)、「サービスについて情報を増やす」(12.7%)、精神障害者は「サービスについて情報を増やす」(14.8%)、「サービスの種類をわかりやすくする」(11.5%)の順となっている。

7 外出の時に良くなってほしいこと

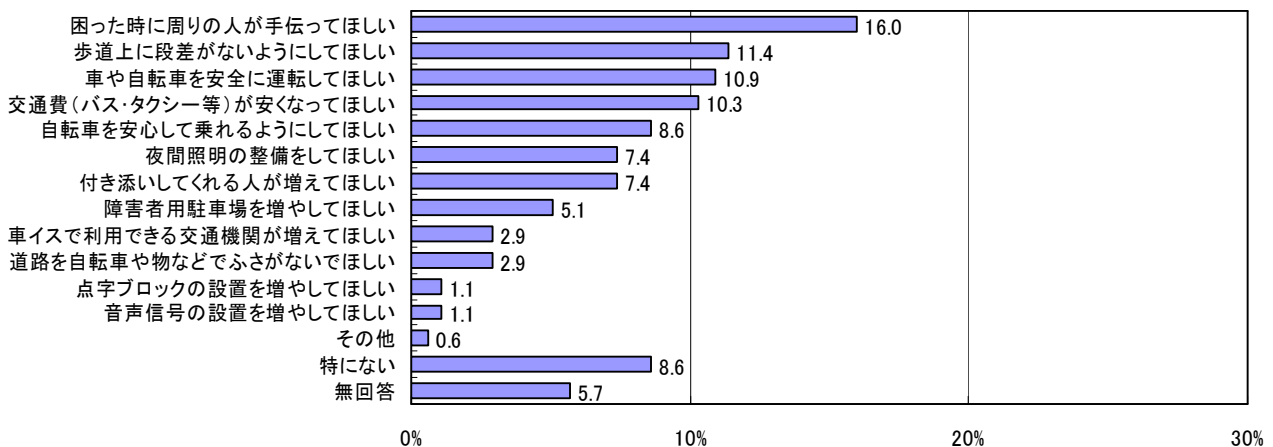
図23 外出のときに、良くなってほしいと思うこと〈身体障害者〉

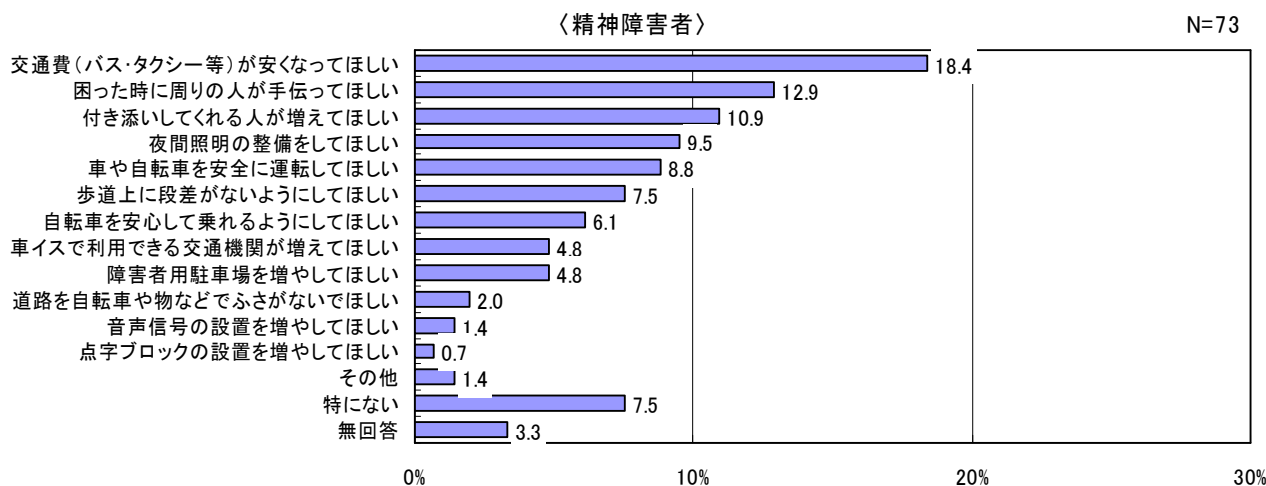
N=376



〈知的障害者〉

N=94





外出時において、身体障害者は、「歩道上に段差がないようにしてほしい」が 20.3%、「交通費(バス・タクシーなど)が安くなってほしい」が 15.3%、「障害者用駐車場を増やしてほしい」が 12.8%となっている。

知的障害者は、「困った時に周りの人が手伝ってほしい」が 16.0%、「歩道上に段差がないようにしてほしい」が 11.4%、「車や自転車を安全に運転してほしい」が 10.9%となっている。

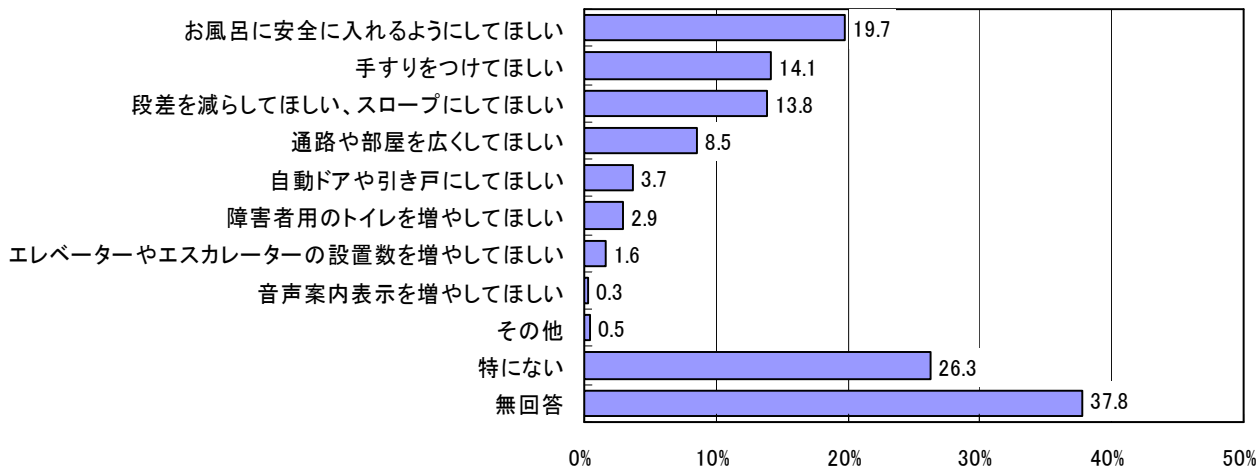
精神障害者は、「交通費(バス・タクシーなど)が安くなってほしい」が 18.4%、「困った時に周りの人が手伝ってほしい」が 12.9%、「付き添いしてくれる人が増えてほしい」が 10.9%となっている。

8 建物の環境について

(1) 「今住んでいる家」で改良したい所

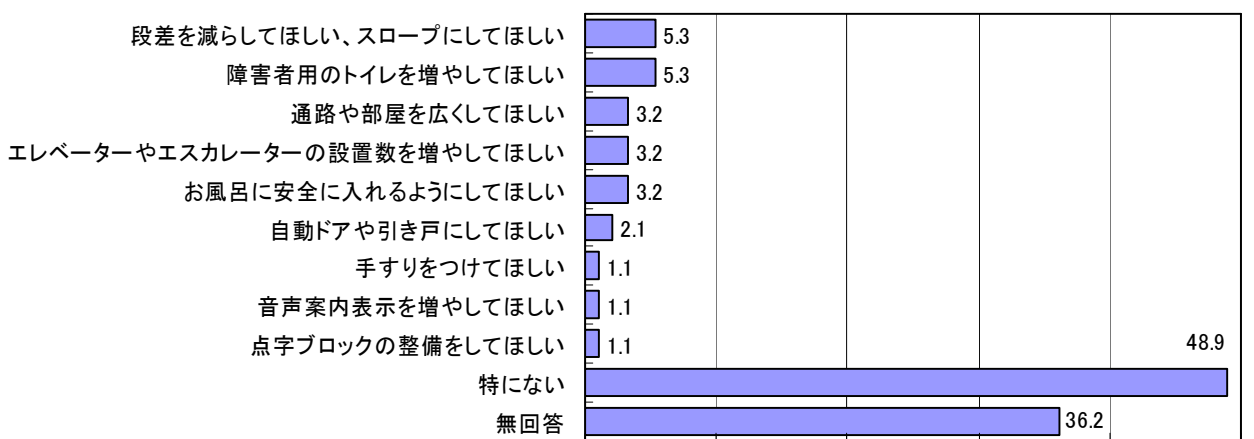
図24 「今住んでいる家」で改良したい所〈身体障害者〉

N=376



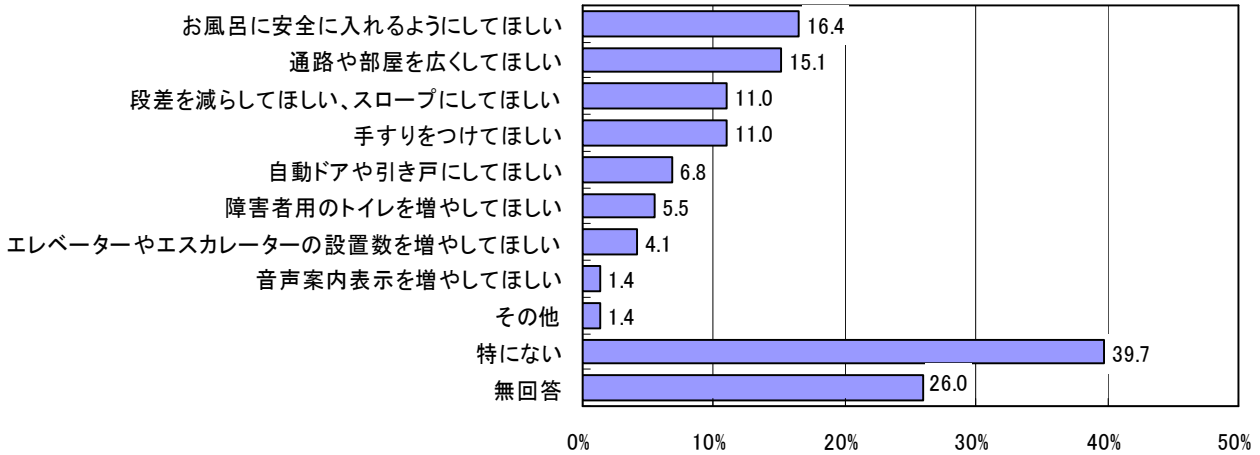
〈知的障害者〉

N=94



〈精神障害者〉

N=73



身体障害者は、「お風呂に安全に入れるようにしてほしい」が 19.7%、「手すりをつけてほしい」が 14.1%、「段差を減らしてほしい、スロープにしてほしい」が 13.8%となっている。

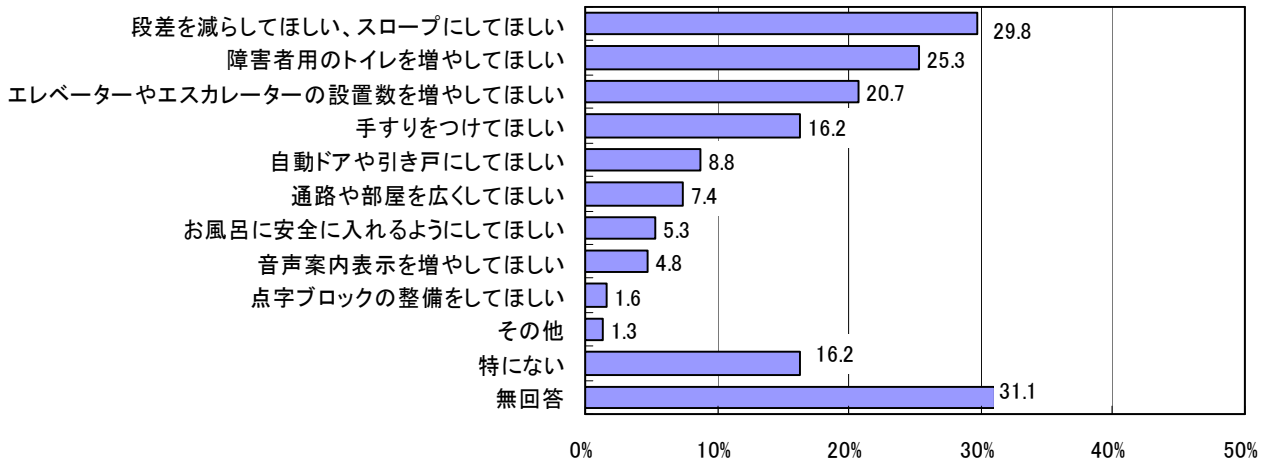
知的障害者は、「段差を減らしてほしい、スロープにほしい」が 5.3%、「障害者用のトイレを増やしてほしい」が 5.3%、「通路や部屋を広くしてほしい」・「エレベーターやエスカレーターの設置数を増やしてほしい」・「お風呂に安全に入れるようにしてほしい」が各 3.2%となっている。

精神障害者は、「お風呂に安全に入れるようにしてほしい」が 16.4%、「通路や部屋を広くしてほしい」が 15.1%、「段差を減らしてほしい、スロープにほしい」・「手すりをつけてほしい」が各 11.0%となっている。

(2) 「公共の施設」で改良したい所

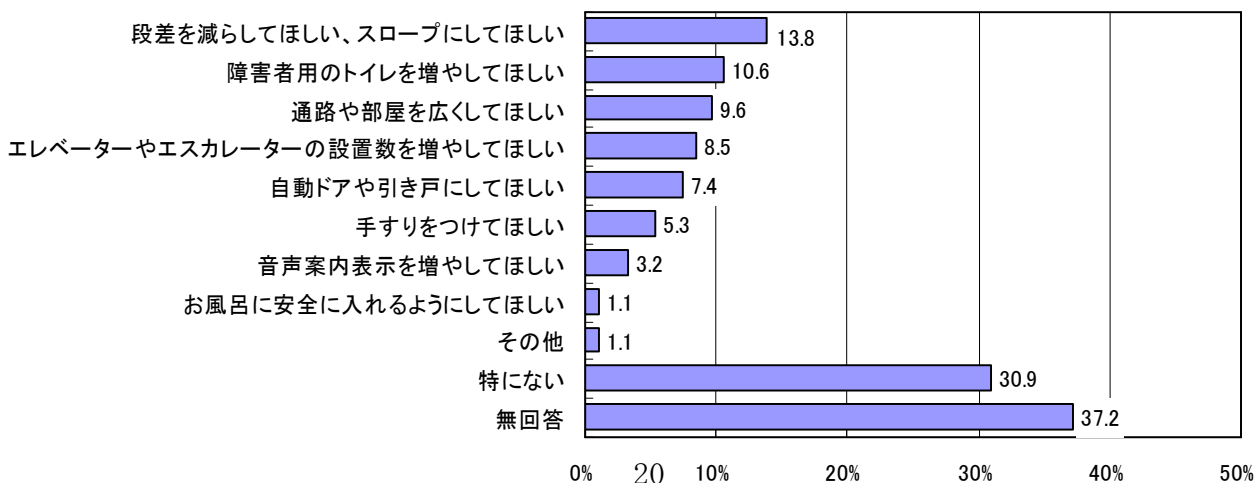
図25 「公共の施設」で改良してほしい所〈身体障害者〉

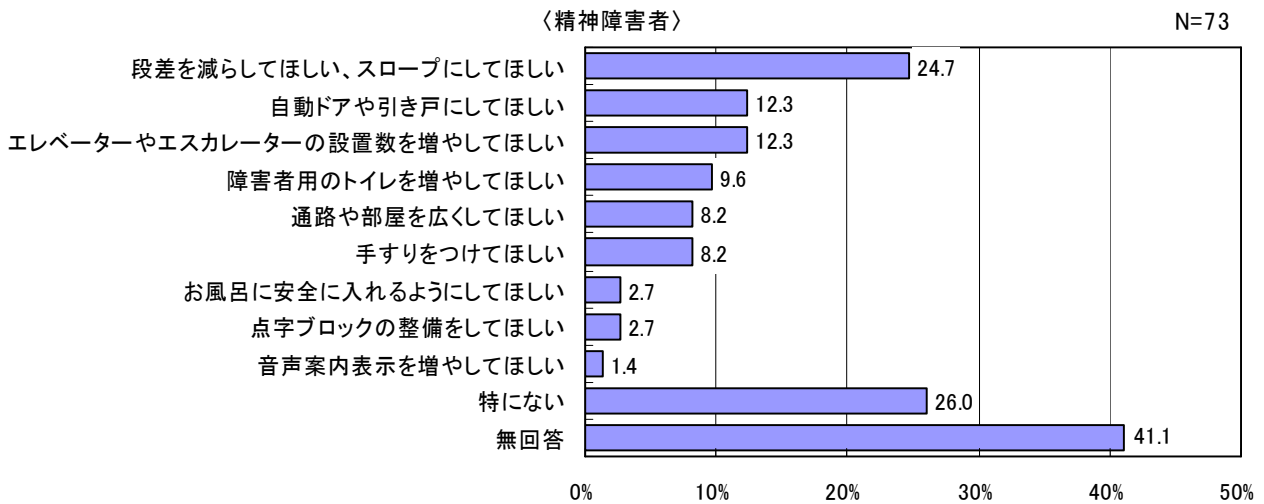
N=376



〈知的障害者〉

N=94





身体障害者は、「段差を減らしてほしい、スロープにほしい」が 29.8%、「障害者用のトイレを増やしてほしい」が 25.3%、「エレベーターやエスカレーターの設置数を増やしてほしい」が 20.7%となっている。

知的障害者は、「段差を減らしてほしい、スロープにほしい」が 13.8%、「障害者用のトイレを増やしてほしい」が 10.6%、「通路や部屋を広くしてほしい」が 9.6%となっている。

精神障害者は、「段差を減らしてほしい、スロープにほしい」が 24.7%、「自動ドアや引き戸にほしい」・「エレベーターやエスカレーターの設置数を増やしてほしい」が各 12.3%となっている。

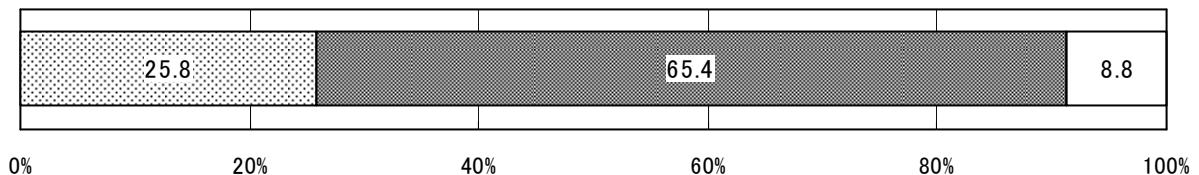
9 災害について

(1) 市の「災害時要援護者支援制度」について

①制度の認知度

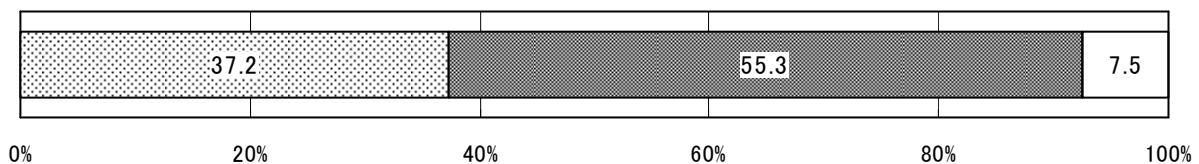
図26 市の「災害時要援護者支援事業」について〈身体障害者〉

N=376



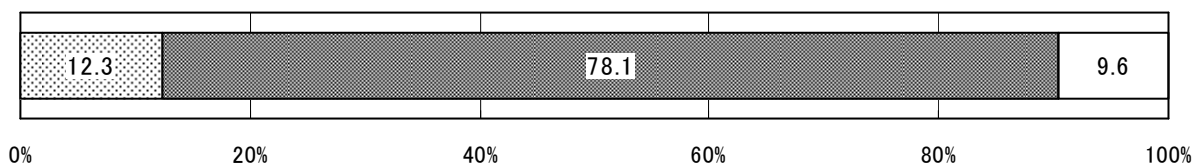
〈知的障害者〉

N=94



〈精神障害者〉

N=73

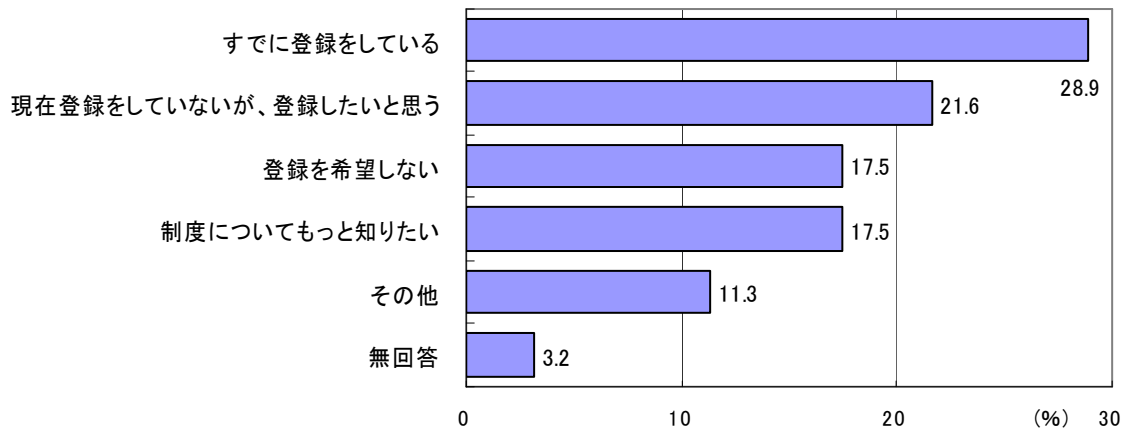


□ 知っている ■ 知らない □ 無回答

制度について「知っている」が、身体障害者で25.8%、知的障害者で37.2%、精神障害者で12.3%となっている。一方、「知らない」は、身体障害者で65.4%、知的障害者で55.3%、精神障害者で78.1%となっている。

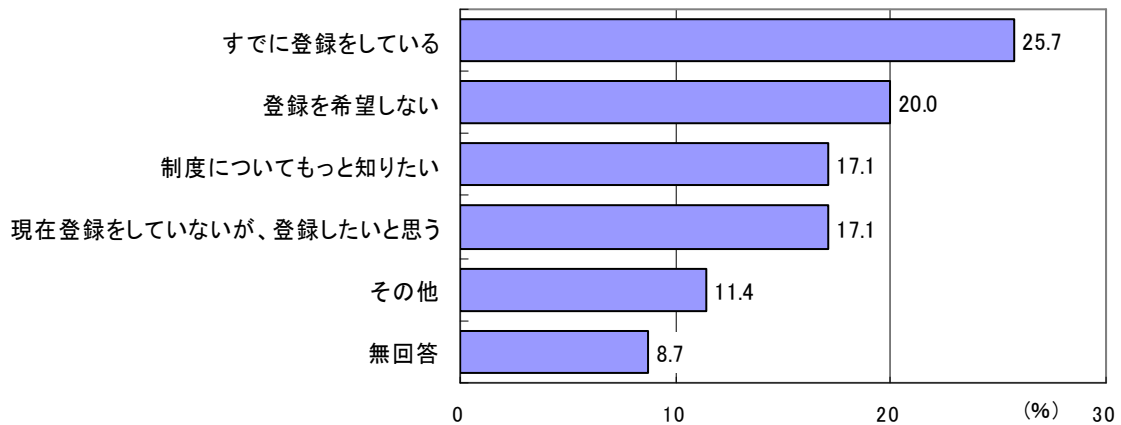
表26-1 制度への関心〈身体障害者〉

N=97



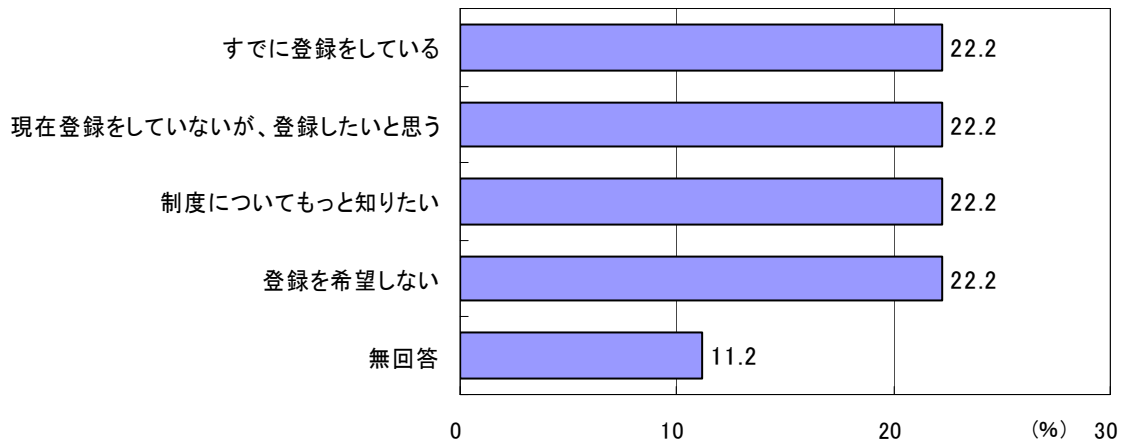
〈知的障害者〉

N=35



〈精神障害者〉

N=9

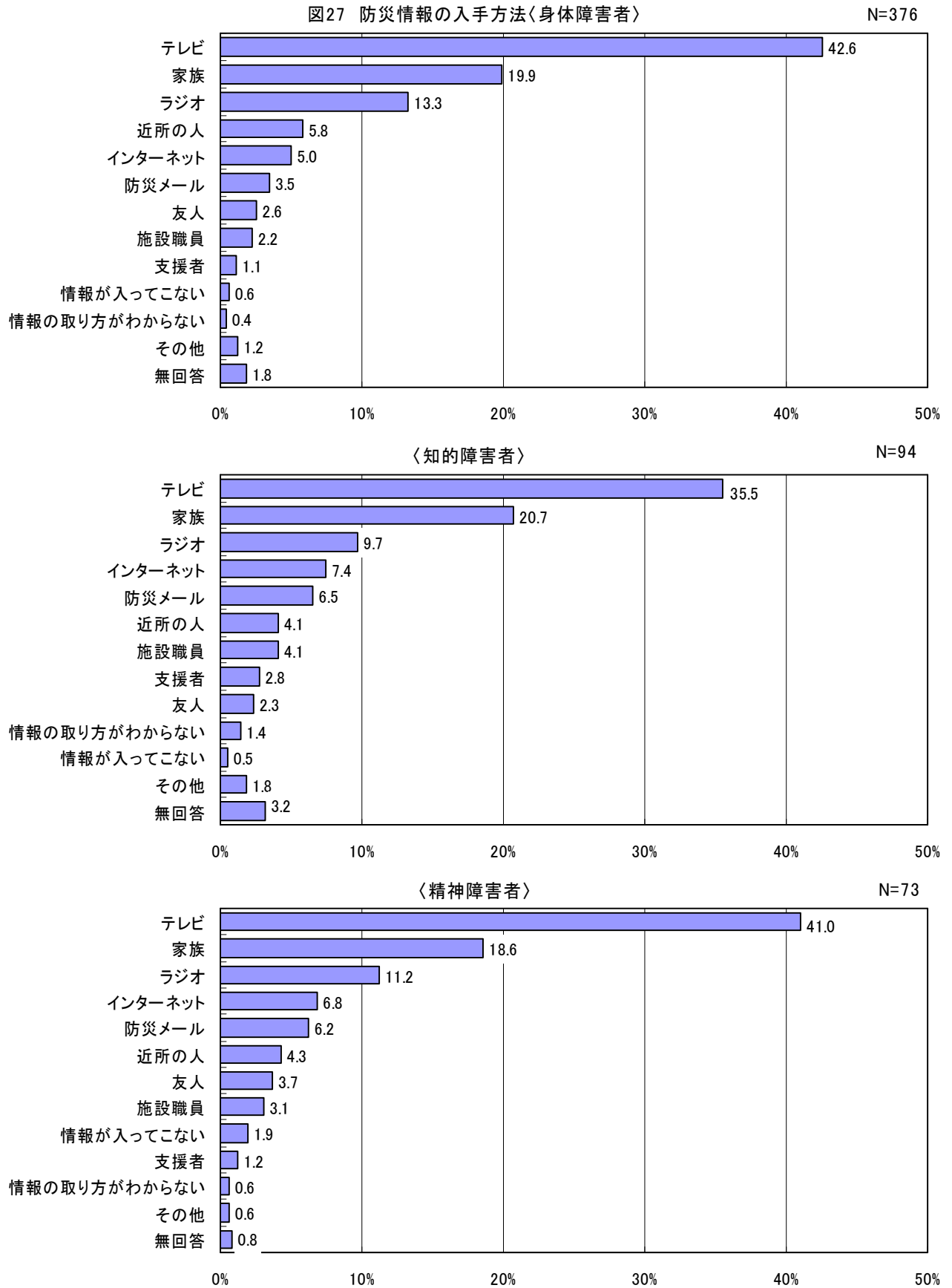


制度を「知っている」と回答した人のうち、身体障害者の28.9%が「すでに登録している」、21.6%が「現在登録をしていないが、登録したいと思う」としており、「登録を希望しない」・「制度についてもっと知りたい」が各17.5%となっている。

知的障害者は、25.7%が「すでに登録している」、20.0%が「登録を希望しない」、現在登録をしていないが、登録したいと思う」・「制度についてもっと知りたい」が各17.1%となっている。

精神障害者は、「すでに登録している」、「現在登録をしていないが、登録したいと思う」、「制度についてもっと知りたい」、「登録を希望しない」が全て同率で22.2%となっている。

(2) 防災情報の入手手段について

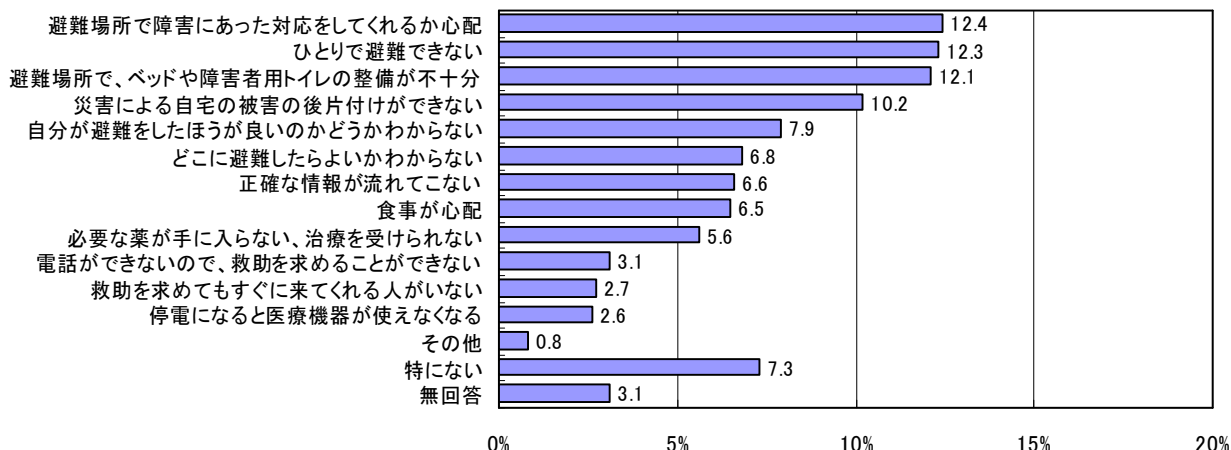


3障害とも、「テレビ」から情報を得る割合が高く、次に「家族」、「ラジオ」の順で続いている。

(3) 台風や大雨など、災害が生じた時の心配な点として

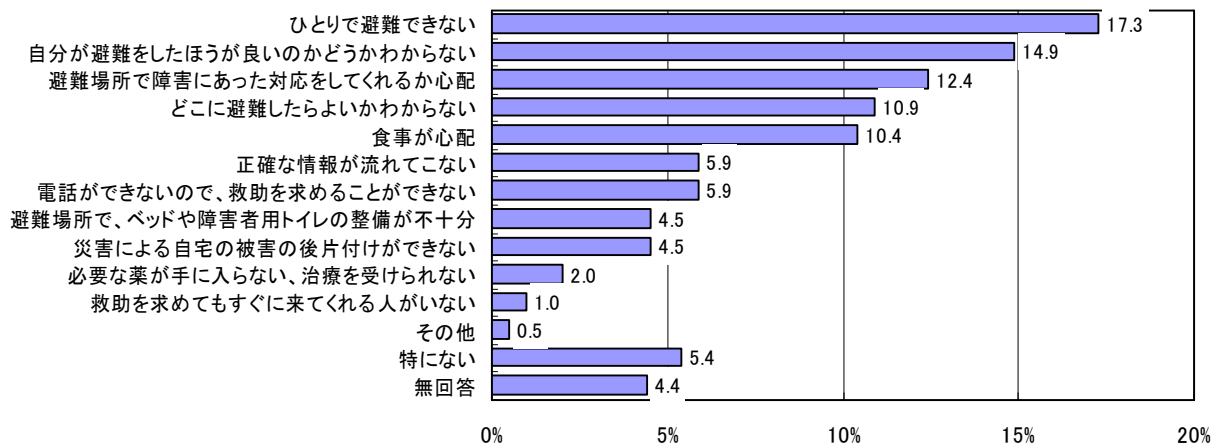
図28 災害が起きたときに心配なこと<身体障害者>

N=376



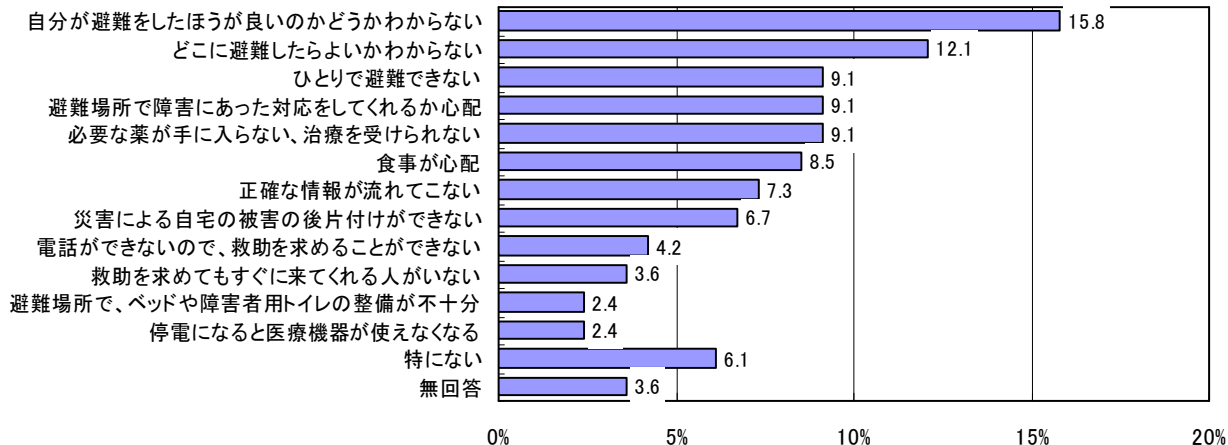
<知的障害者>

N=94



<精神障害者>

N=73



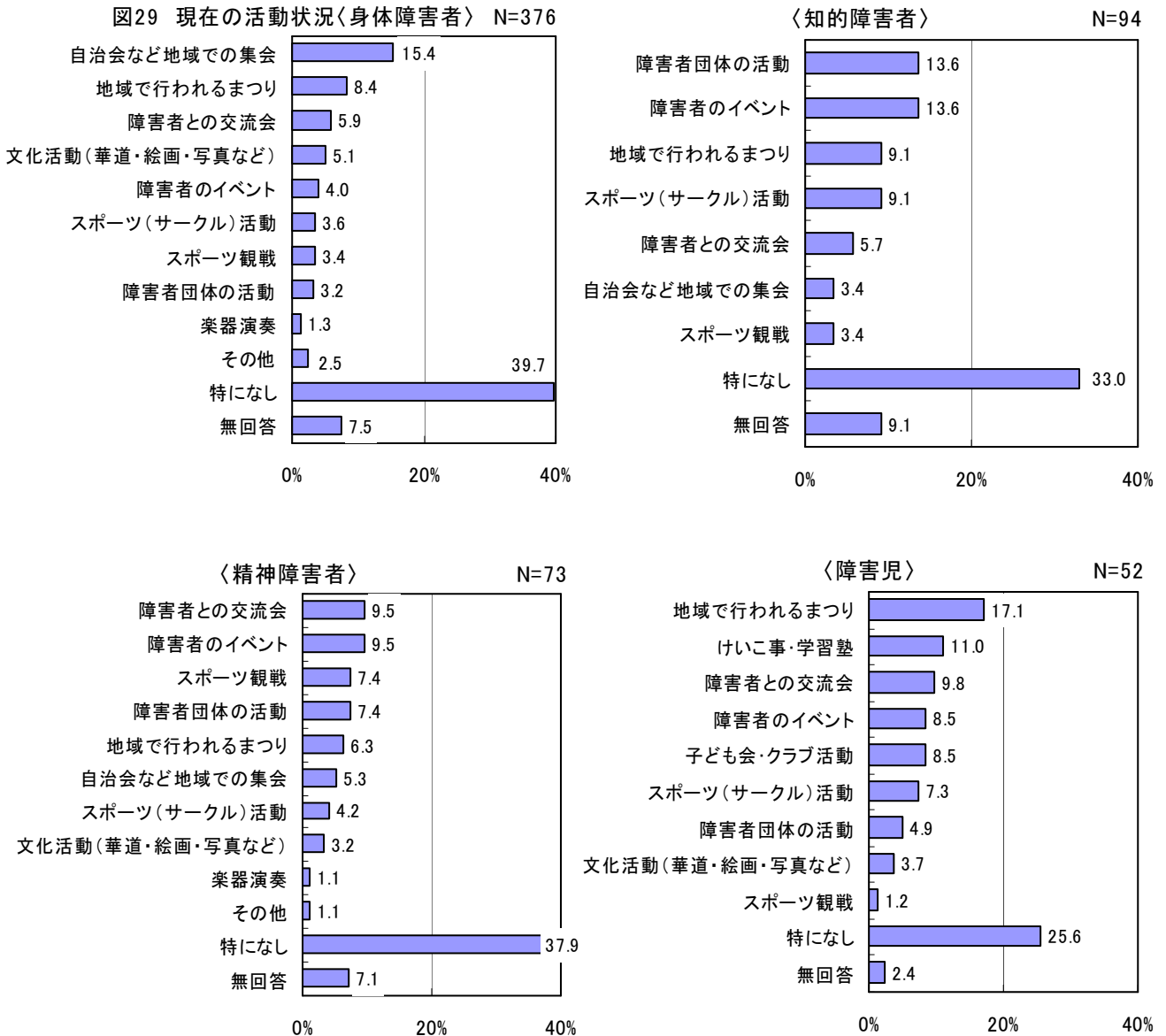
身体障害者は、「避難場所で障害にあった対応をしてくれるか心配」が 12.4%、「ひとりで避難できない」が 12.3%、「避難場所に行っても、ベッドや障害者用トイレの整備が不十分」が 12.1%となっている。

知的障害者は、「ひとりで避難できない」が 17.3%、「自分が避難したほうが良いのかわからない」が 14.9%、「避難場所で障害にあった対応をしてくれるか心配」が 12.4%となっている。

精神障害者は、「自分が避難したほうが良いのかわからない」が 15.8%、「どこに避難したらよいかわからない」が 12.1%、「ひとりで避難できない」、「避難場所で障害にあった対応をしてくれるか心配」、「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」が各 9.1%となっている。

10 社会参加の状況について

(1) 現在の活動状況



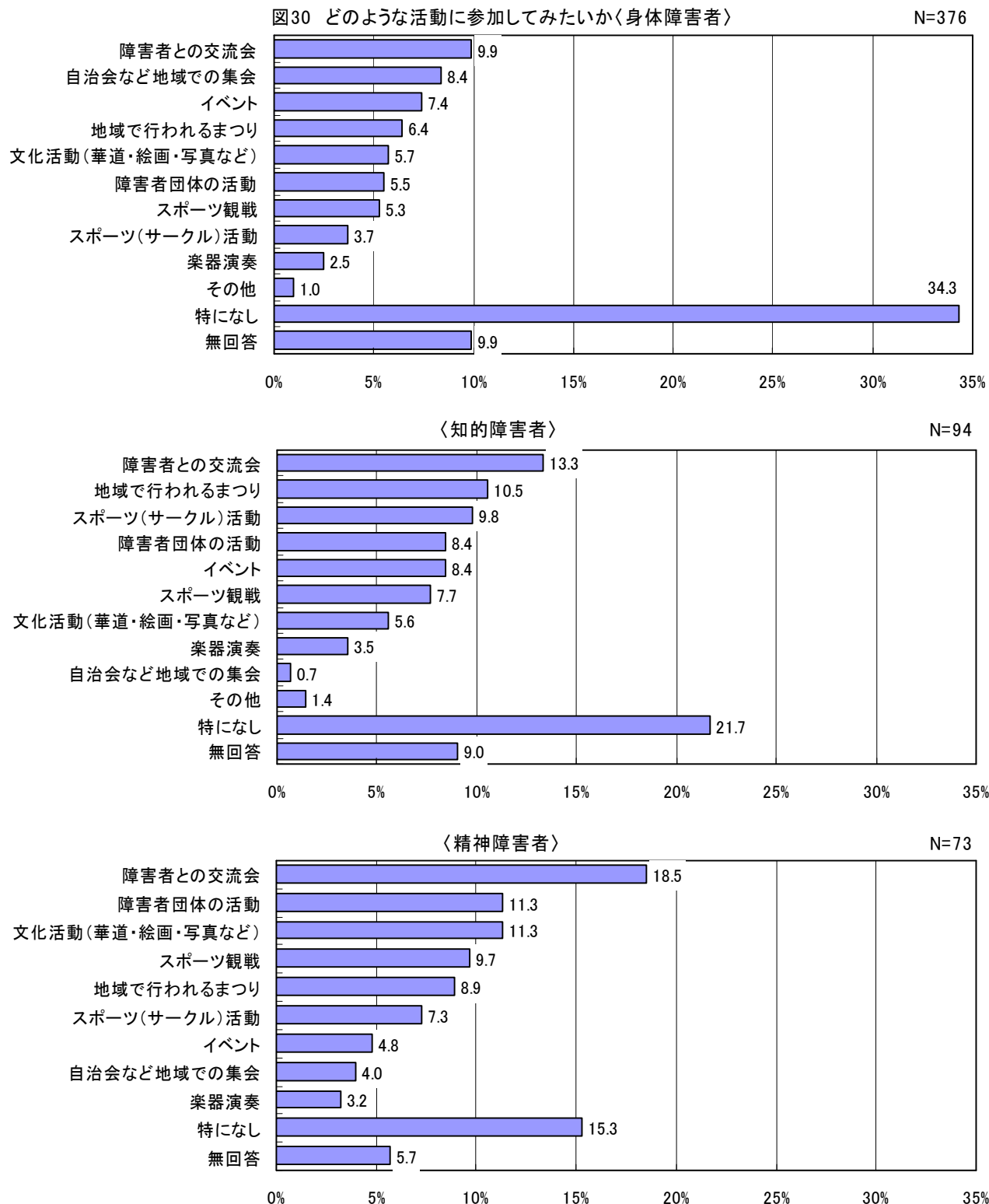
身体障害者は、「自治会など地域での集会」が15.4%、「地域で行われるまつり」が8.4%、「障害者との交流会」が5.9%となっており、一方で「特になし(活動していない)」が39.7%となっている。

知的障害者は、「障害者団体の活動」・「障害者のイベント」が各13.6%、「地域で行われるまつり」・「スポーツ(サークル)活動」が各9.1%となっており、「特になし(活動していない)」が33.0%となっている。

精神障害者は、「障害者との交流会」・「障害者のイベント」が各9.5%、「スポーツ観戦」・「障害者団体の活動」が各7.4%となっており、「特になし(活動していない)」が37.9%となっている。

また、障害児については、「地域で行われるまつり」が17.1%、「けいこ事・学習塾」が11.0%、「障害者との交流会」が9.8%となっており、「特になし(活動していない)」が25.6%となっている。

(2) どのような活動に参加してみたいか



身体障害者は、「障害者との交流会」が 9.9%、「自治会など地域での集会」が 8.4%、「イベント」が 7.4%となっている一方で、34.3%が「特になし」と回答している。

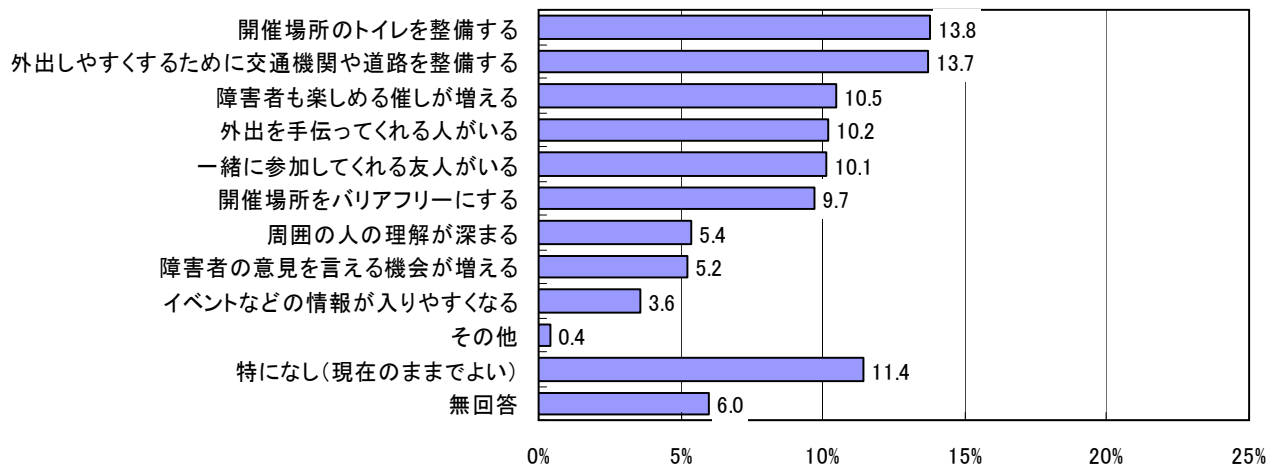
知的障害者は、「障害者との交流会」が 13.3%、「地域で行われるまつり」が 10.5%、「スポーツ(サークル)活動」が 9.8%となっている一方で、21.7%が「特になし」と答えている。

精神障害者は、「障害者との交流会」が 18.5%、「障害者団体の活動」・「文化活動(華道、絵画、写真等)」が各 11.3%、「特になし」が 15.3%となっている。

(3) 社会参加しやすい環境づくりについて

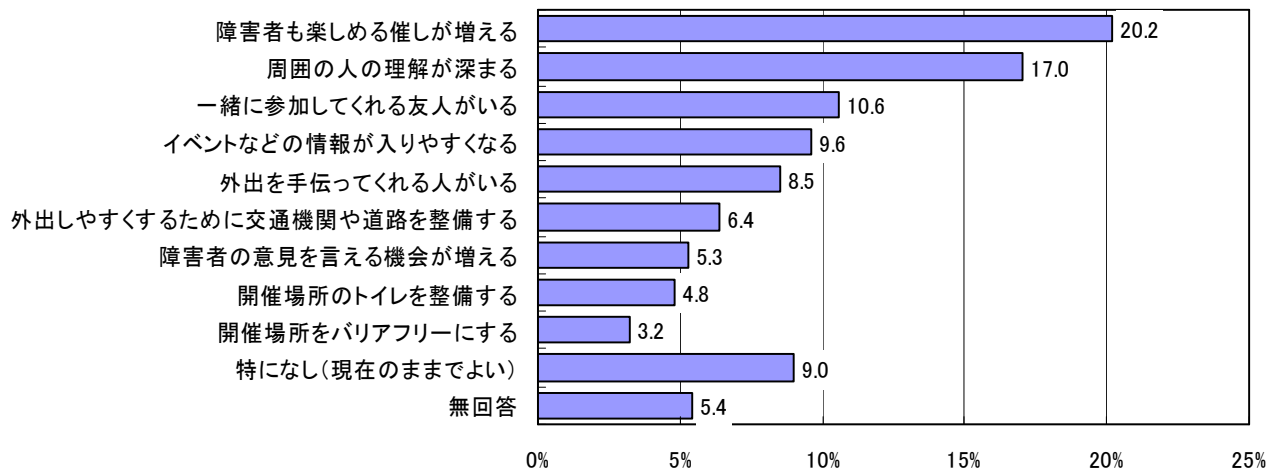
図31 社会参加しやすい環境〈身体障害者〉

N=376



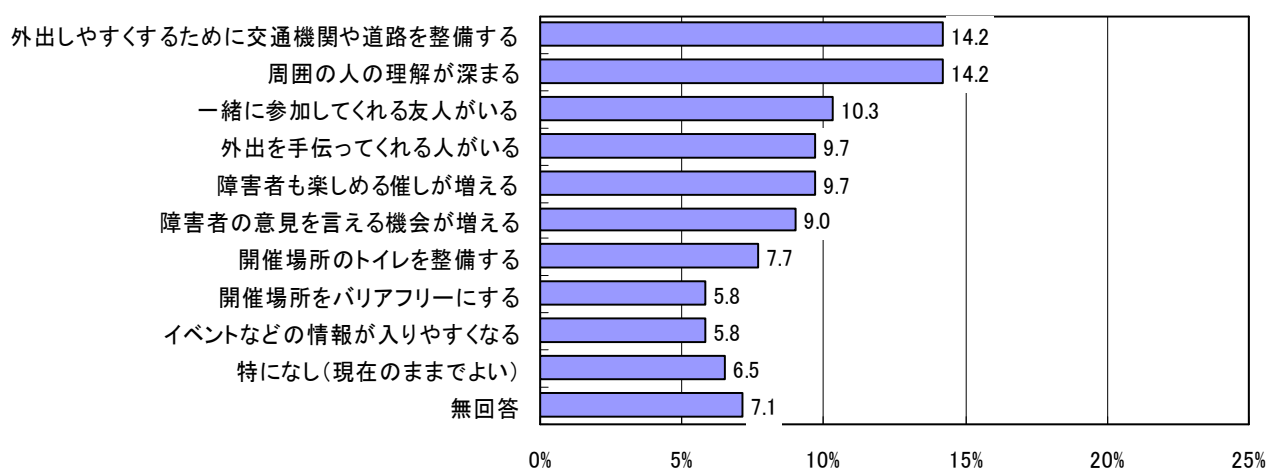
〈知的障害者〉

N=94



〈精神障害者〉

N=73



身体障害者は、「開催場所のトイレを整備する」が 13.8%、「外出しやすくするために交通機関や道路を整備する」が 13.7%、「障害者も楽しめる催しが増える」が 10.5%となっている。

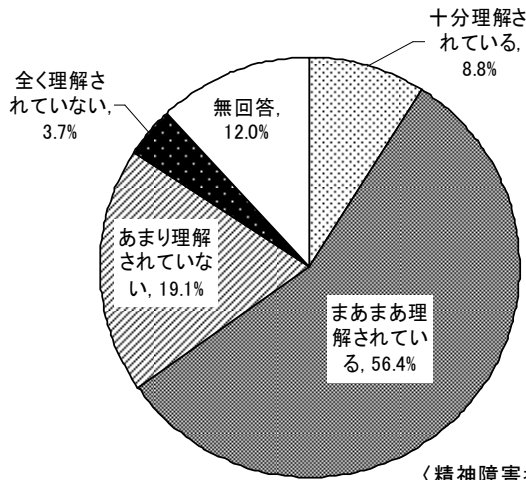
知的障害者は、「障害者も楽しめる催しが増える」が 20.2%、「周囲の人の理解が深まる」が 17.0%、「一緒に参加してくれる友人がいる」が 10.6%となっている。

精神障害者は、「外出しやすくするために交通機関や道路を整備する」・「周囲の人の理解が深まる」が各 14.2%、「一緒に参加してくれる友人がいる」10.3%となっている。

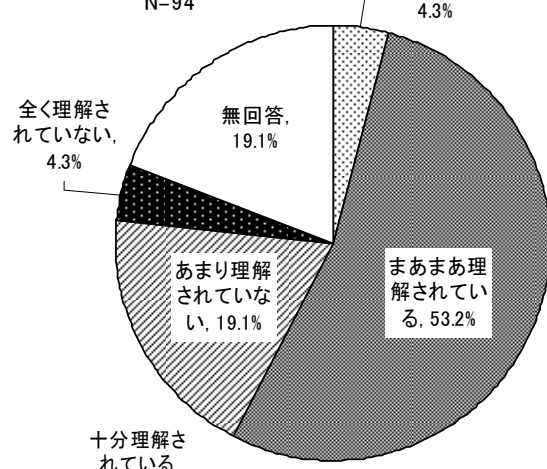
11 障害者に対する理解について

(1) 障害があることについての周囲の理解について

図32 障害があることに対する周囲の理解
 〈身体障害者〉 N=376



〈知的障害者〉 N=94



〈精神障害者〉 N=73

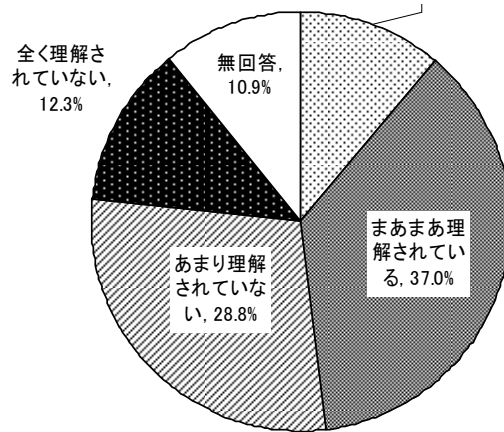
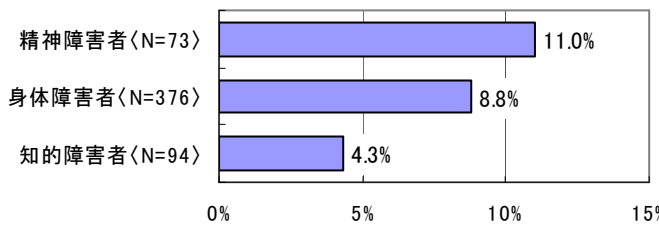
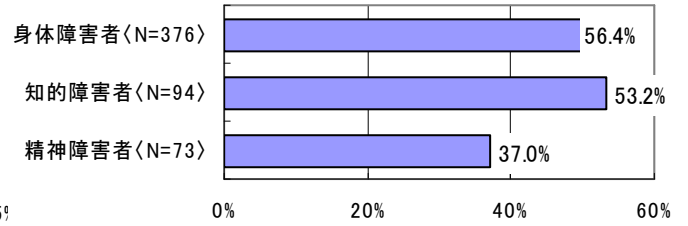


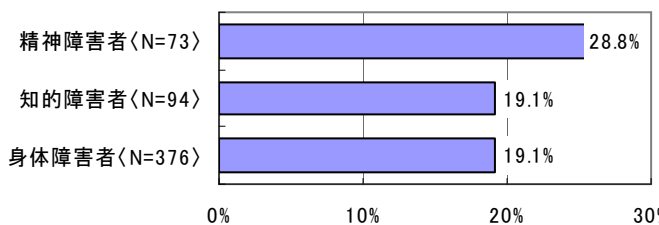
図32-1 「十分理解されている」と感じている



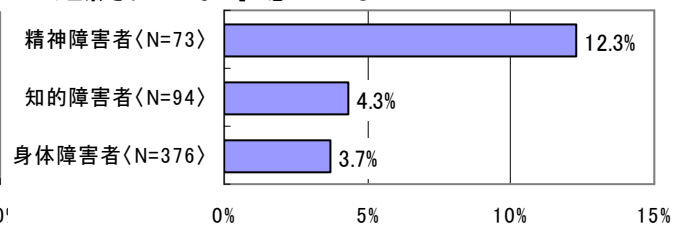
「まあまあ理解されている」と感じている



「あまり理解されていない」と感じている



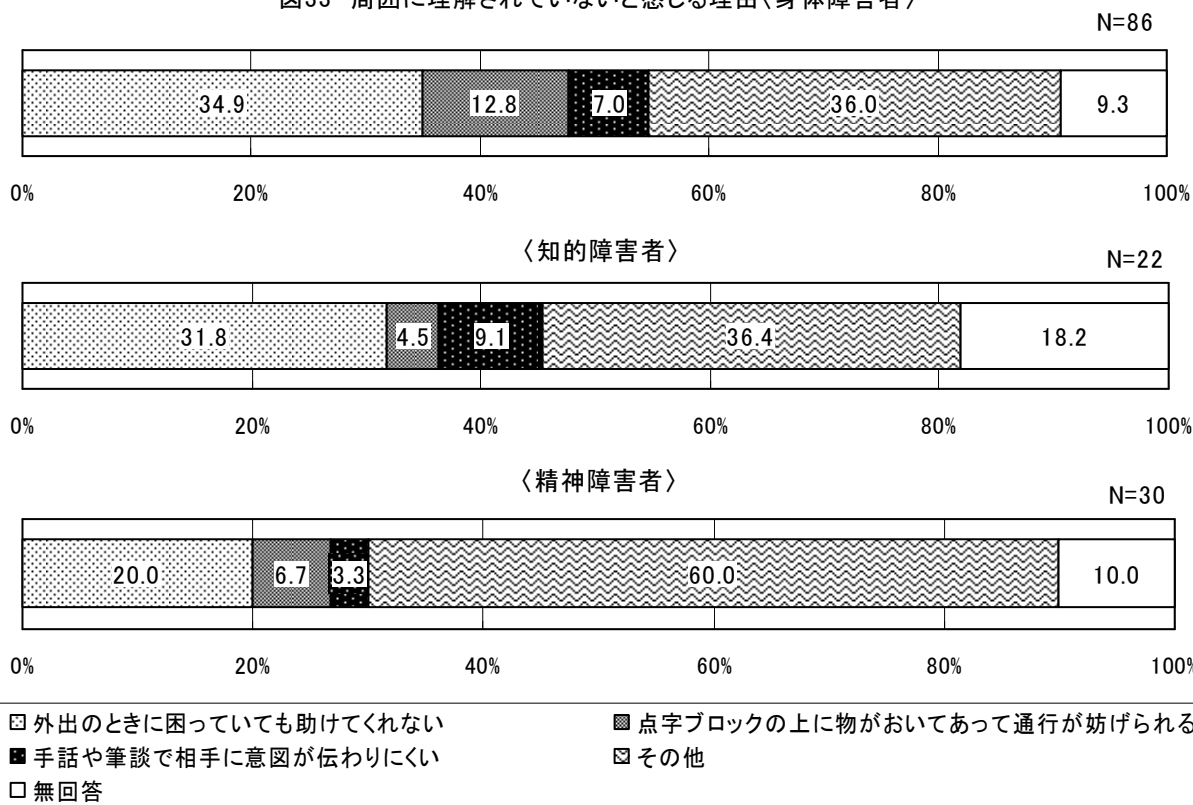
「全く理解されていない」と感じている



身体障害者は、「十分理解されている」(8.8%)と「まあまあ理解されている」(56.4%)を合わせて、65.2%が「理解されている」と回答している。
 知的障害者は、「十分理解されている」(4.3%)と「まあまあ理解されている」(53.2%)を合わせて、57.5%が「理解されている」と回答している。
 精神障害者は、「十分理解されている」(11.0%)と「まあまあ理解されている」(37.0%)を合わせて、48.0%が「理解されている」と回答しているが、一方で、「あまり理解されていない」(28.8%)と「全く理解されていない」(12.3%)を合わせると、41.1%が「理解されていない」と回答している。

(2) 「理解されていない」と感じる理由

図33 周囲に理解されていないと感じる理由〈身体障害者〉



身体障害者は、「外出のときに困っていても助けてくれない」が34.9%、次に「点字ブロックの上に物が置いてあって通行が妨げられる」が12.8%となっており、「その他」として、「どのような障害を持つか外見ではわからない」や「駐車場が健康な人に使用される」という意見があった。

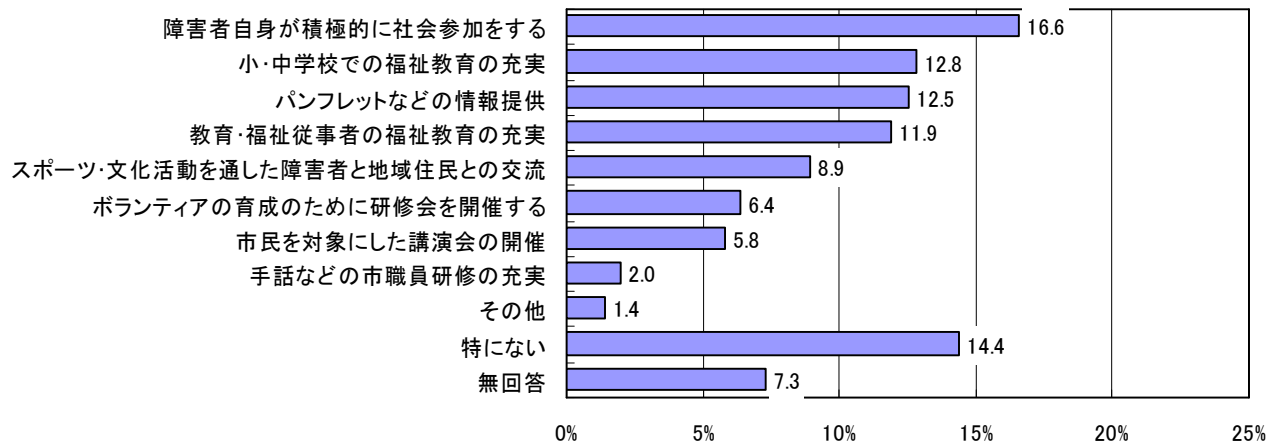
知的障害者は、「外出のときに困っていても助けてくれない」が31.8%、次に「手話や筆談で相手に意図が伝わりにくい」が9.1%となっており、「その他」として、「障害者に対する偏見を感じる」や「障害への理解が低い」という意見があった。

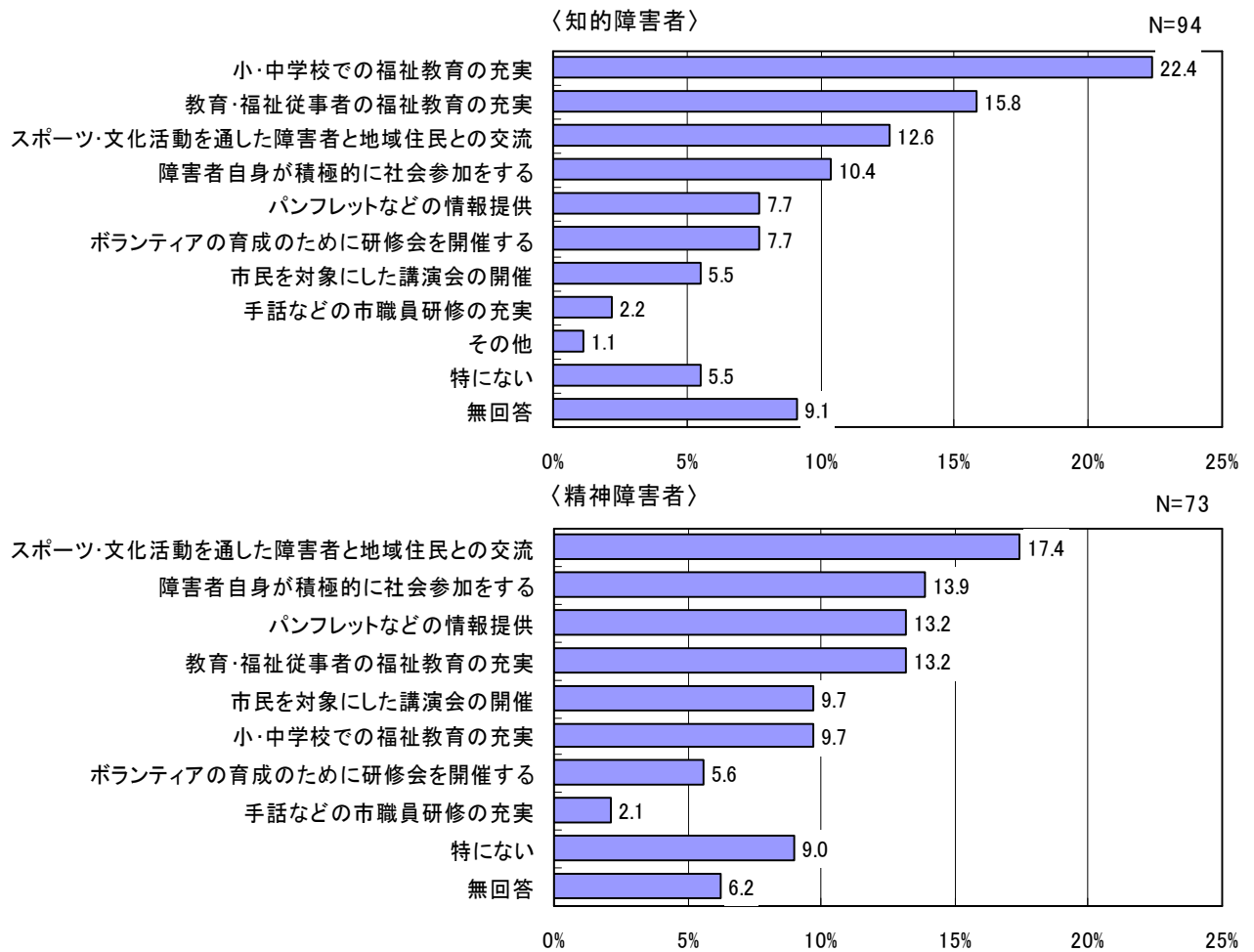
精神障害者は、「外出のときに困っていても助けてくれない」が20.0%の他は、「その他」の意見が6割を占めており、「外見でわからず、周囲の人に理解してもらえない」や「障害があることを知られていないから」という意見が多かった。

(3) 障害者への理解を深める取組みとして

図34 障害者に対する理解を深めるために、力を入れるべきこと〈身体障害者〉

N=376





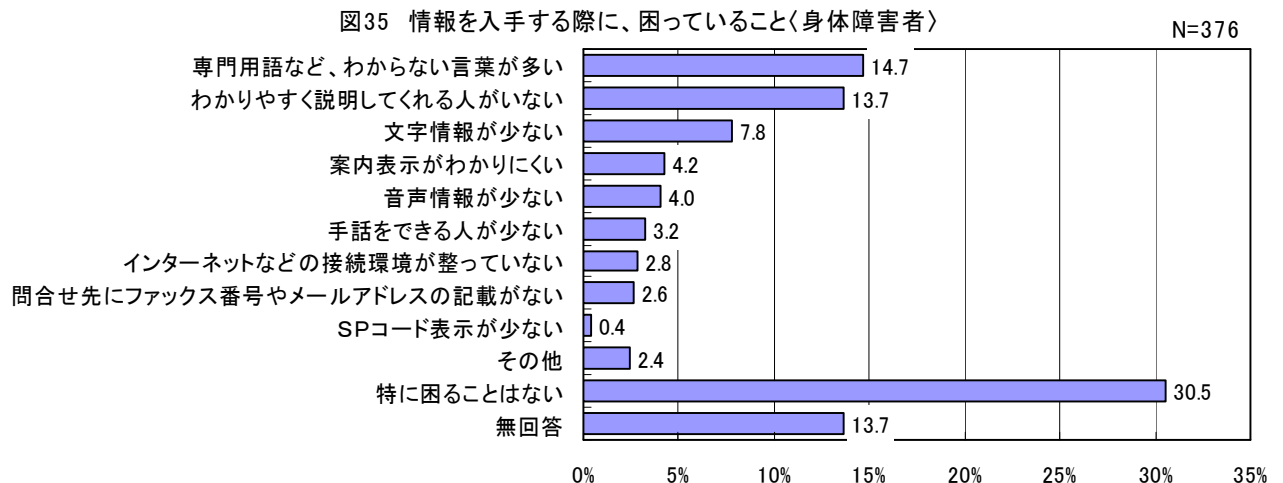
身体障害者は、「障害者自身が積極的に社会参加をする」が16.6%、「小・中学校での福祉教育の充実」が12.8%、「パンフレット等の情報提供」が12.5%となっている。

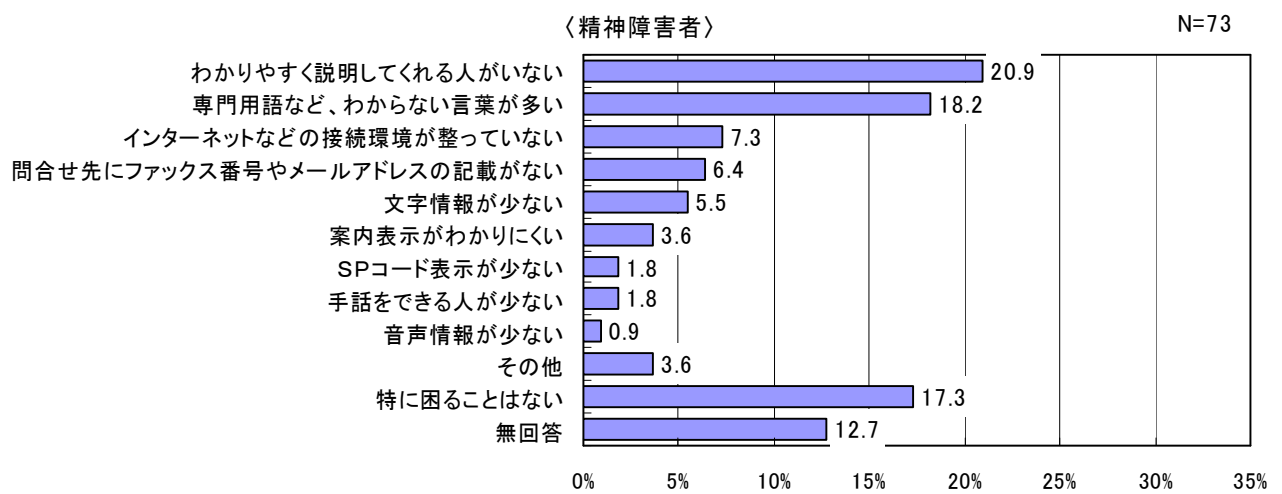
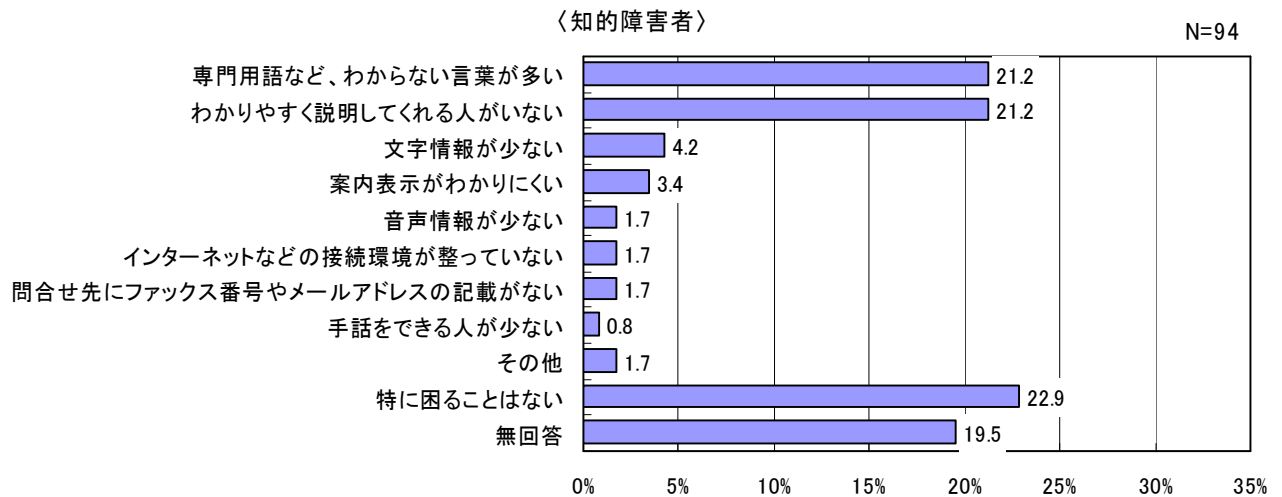
知的障害者は、「小・中学校での福祉教育の充実」が22.4%、「教育・福祉従事者の福祉教育の充実」が15.8%、「スポーツ・文化活動を通じた障害者と地域の人々との交流」が12.6%となっている。

精神障害者は、「スポーツ・文化活動を通じた障害者と地域の人々との交流」が17.4%、「障害者自身が積極的に社会参加をする」が13.9%、「パンフレット等の情報提供」と「教育・福祉従事者の福祉教育の充実」が各13.2%となっている。

12 情報の入手について

(1) 情報を入手する際に困っていること





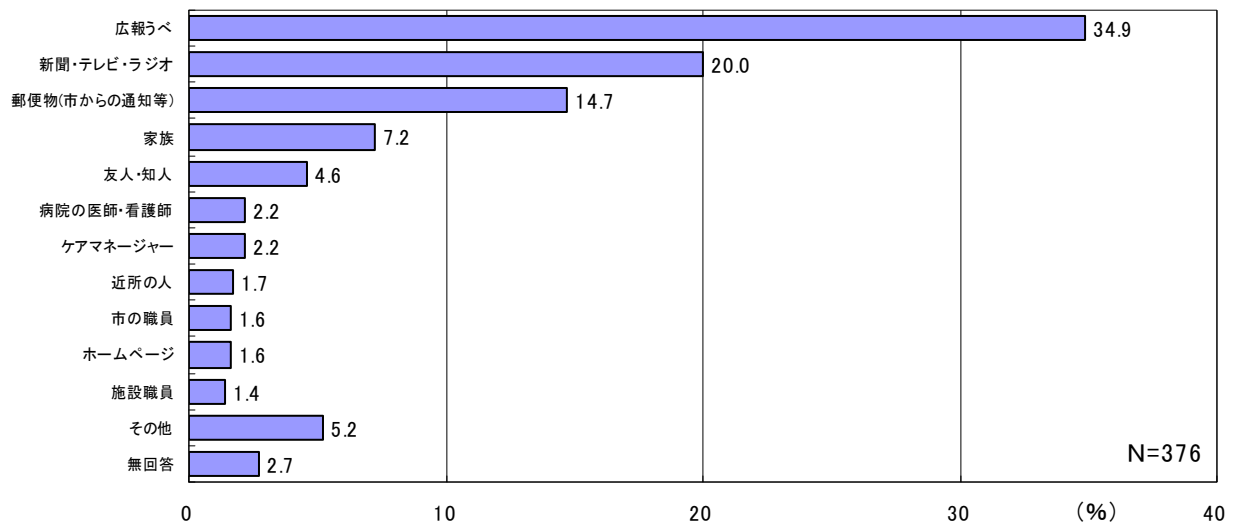
身体障害の方は、「専門用語など、わからない言葉が多い」(14.7%)、「わかりやすく説明してくれる人がいない」(13.7%)、「文字情報が少ない」(7.8%)となっている一方で、30.5%が「特に困ることはない」と回答している。

知的障害の方は、「専門用語など、わからない言葉が多い」(21.2%)、「わかりやすく説明してくれる人がいない」(21.2%)、「文字情報が少ない」(4.2%)となっている一方で、22.9%が「特に困ることはない」と回答している。

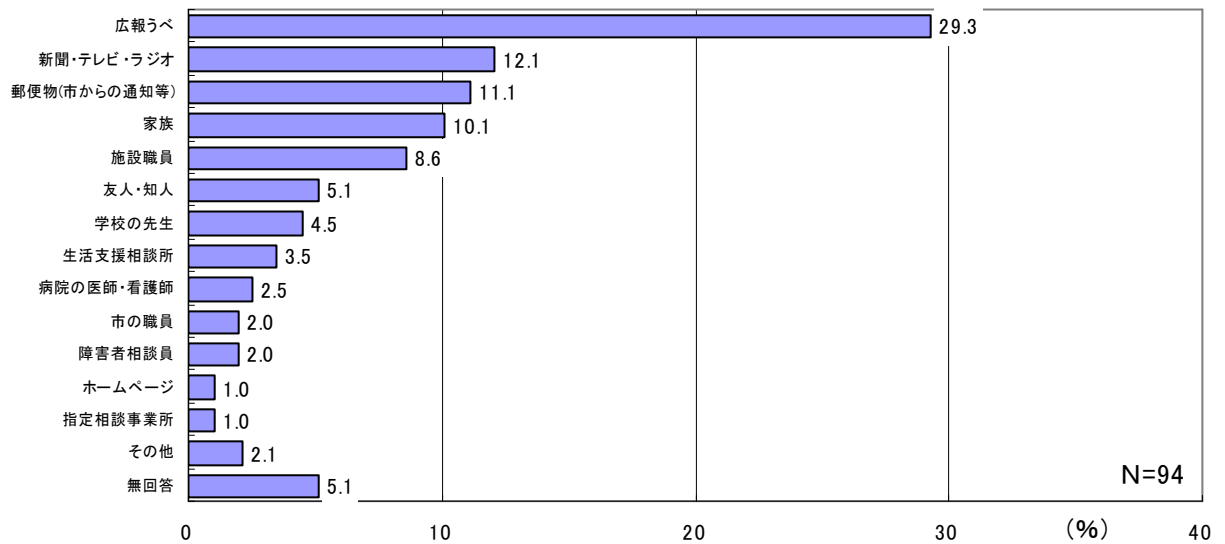
精神障害の方は、「わかりやすく説明してくれる人がいない」(20.9%)、「専門用語など、わからない言葉が多い」(18.2%)までは他の障害と同じ傾向だが、次に「インターネットなどの接続環境が整っていない」(7.3%)や「問い合わせ先の情報にファックス番号やメールアドレスの記載がない」(6.4%)の回答が続いている。

(2) 市政情報の入手方法について

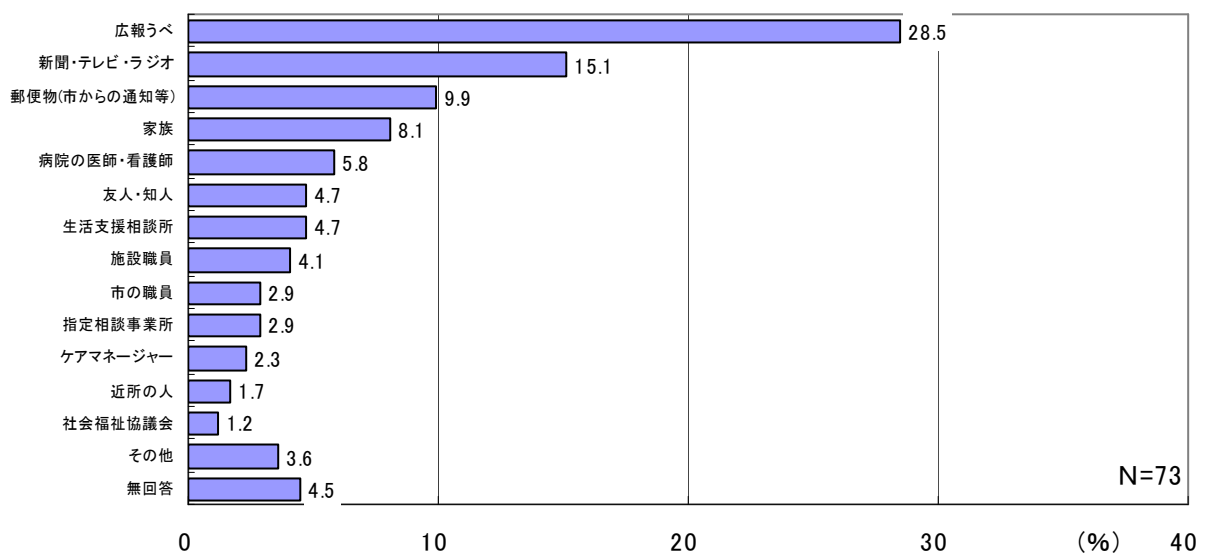
図36 市政情報の入手方法<身体障害者>



<知的障害者>



<精神障害者>



3障害とも約3割の人が「広報うべ」から情報を得ていると答えており、次に「新聞・テレビ・ラジオ」、「郵便物(市からの通知など)」、「家族」の順となっている。

(3) 市からの情報に望むこと

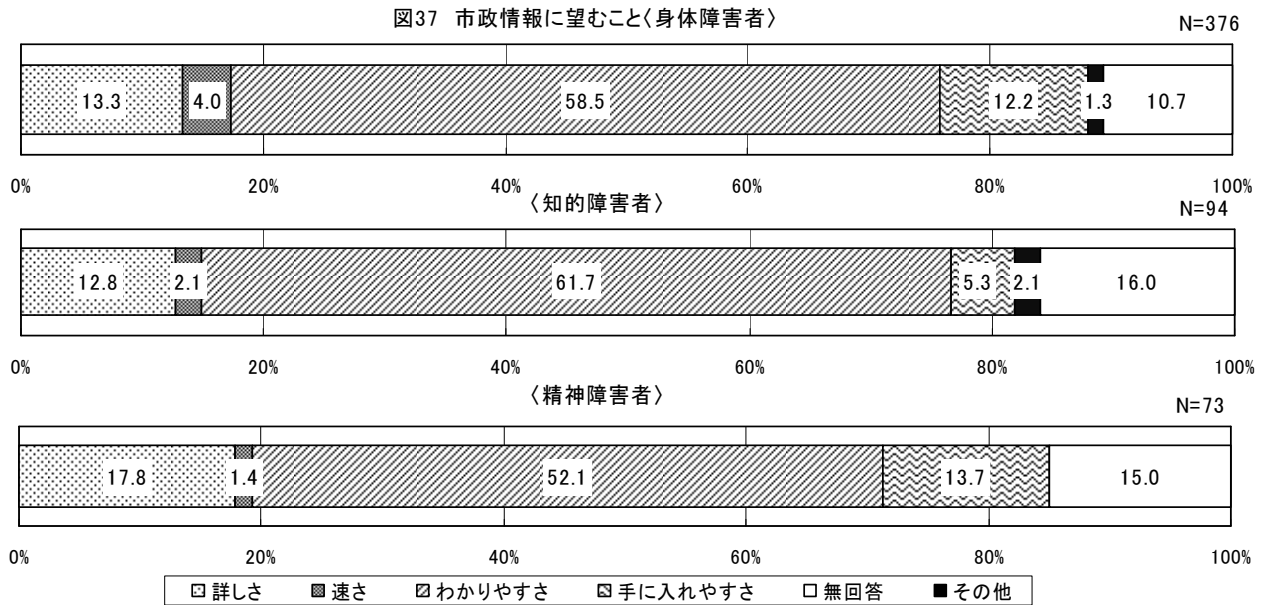
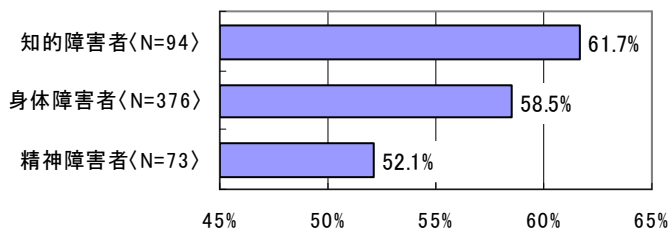
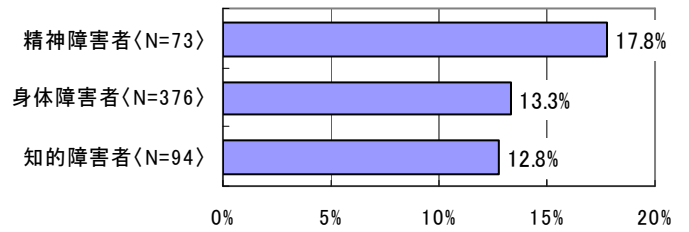


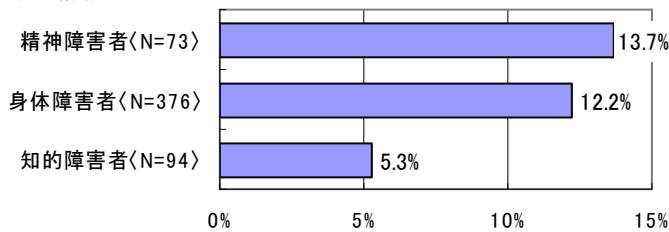
図37-1 市政情報に望むこと<わかりやすさ>



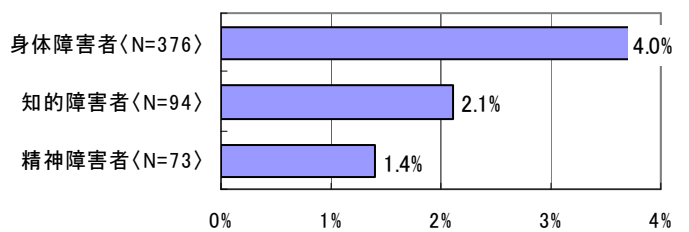
市政情報に望むこと<詳しさ>



市政情報に望むこと<手に入れやすさ>

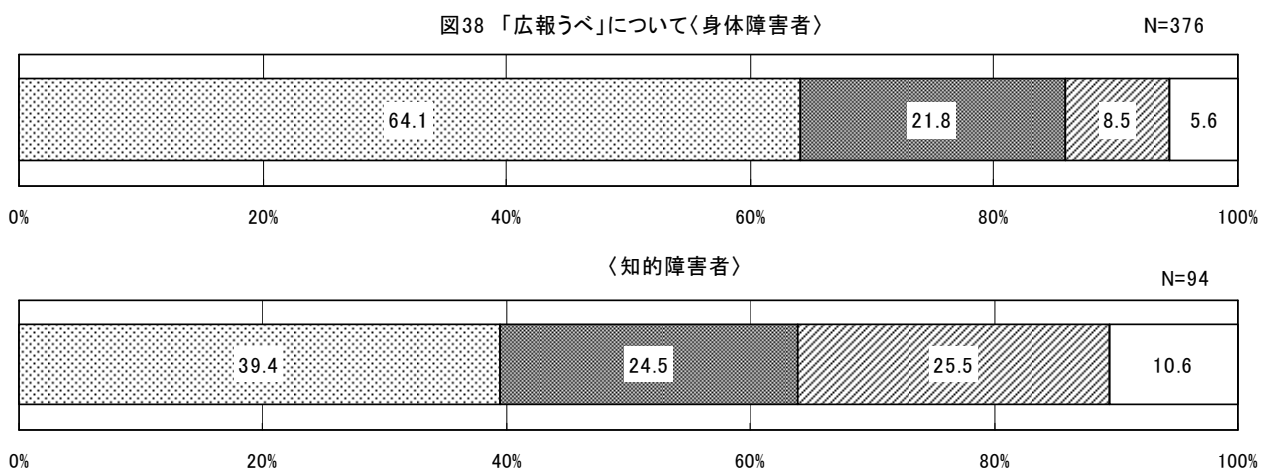


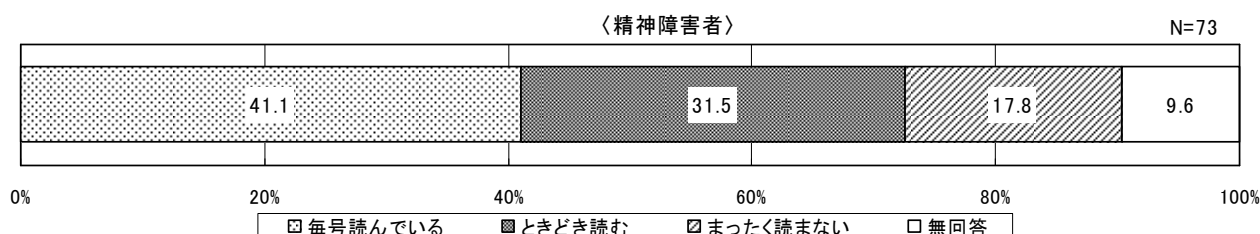
市政情報に望むこと<速さ>



3障害とも、約6割が「わかりやすさ」と答えており、次に「詳しさ」、「手に入れやすさ」の順となっている。

(4) 市広報について

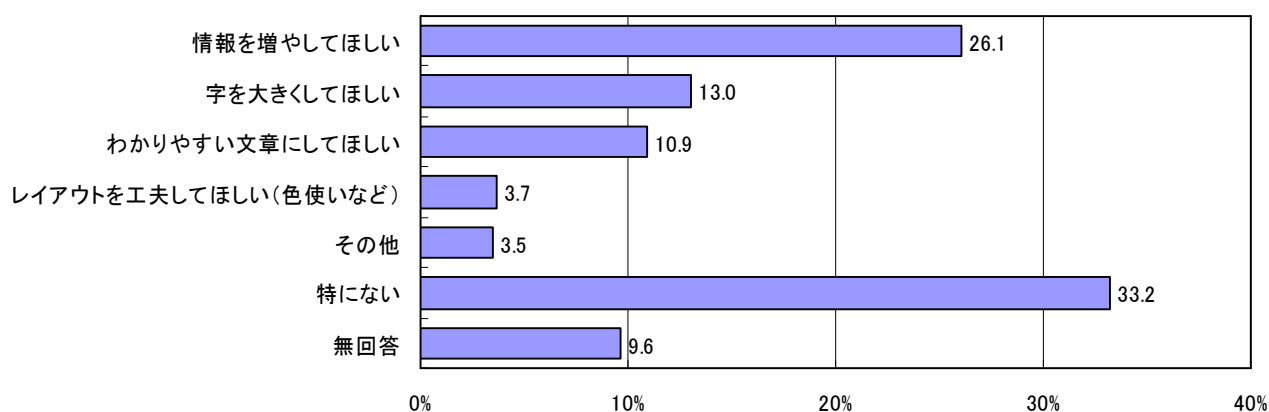




身体障害者は、「毎号読んでいる」(64.1%)と「ときどき読む」(21.8%)で85.9%を占めており、知的障害者も、「毎号読んでいる」(39.4%)と「ときどき読む」(24.5%)で63.9%、精神障害者も、「毎号読んでいる」(41.1%)と「ときどき読む」(31.5%)で72.6%と、障害者の情報入手媒体として「広報うべ」の割合は高い。

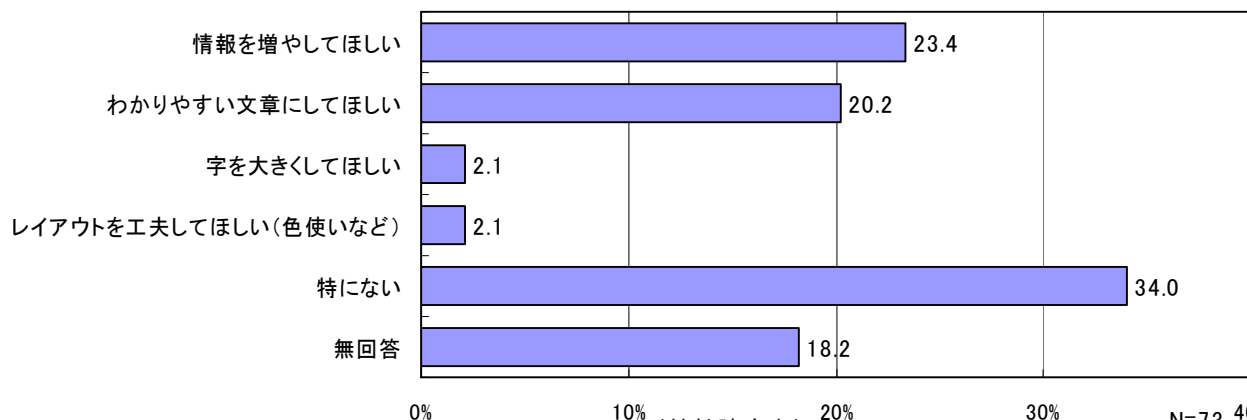
図39 市広報に望むこと〈身体障害者〉

N=376



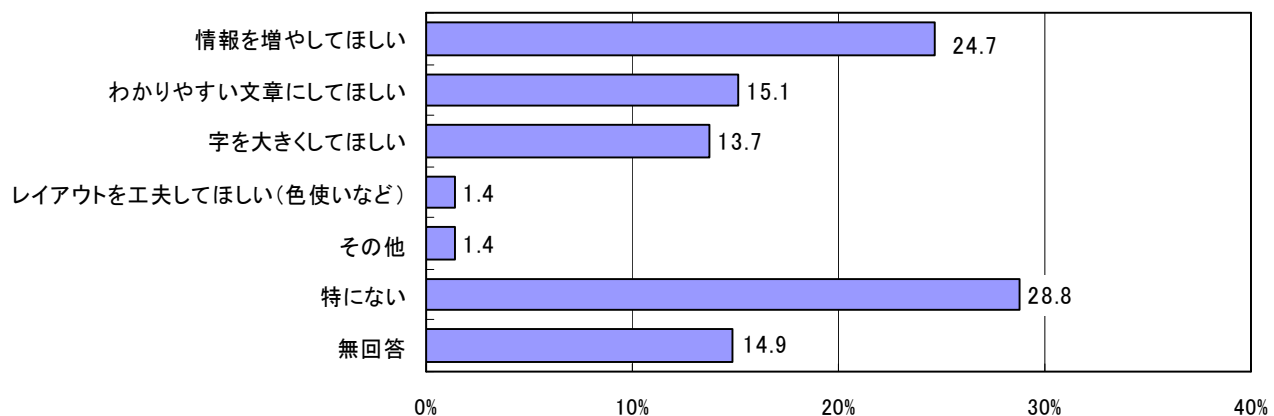
〈知的障害者〉

N=94



〈精神障害者〉

N=73 40%

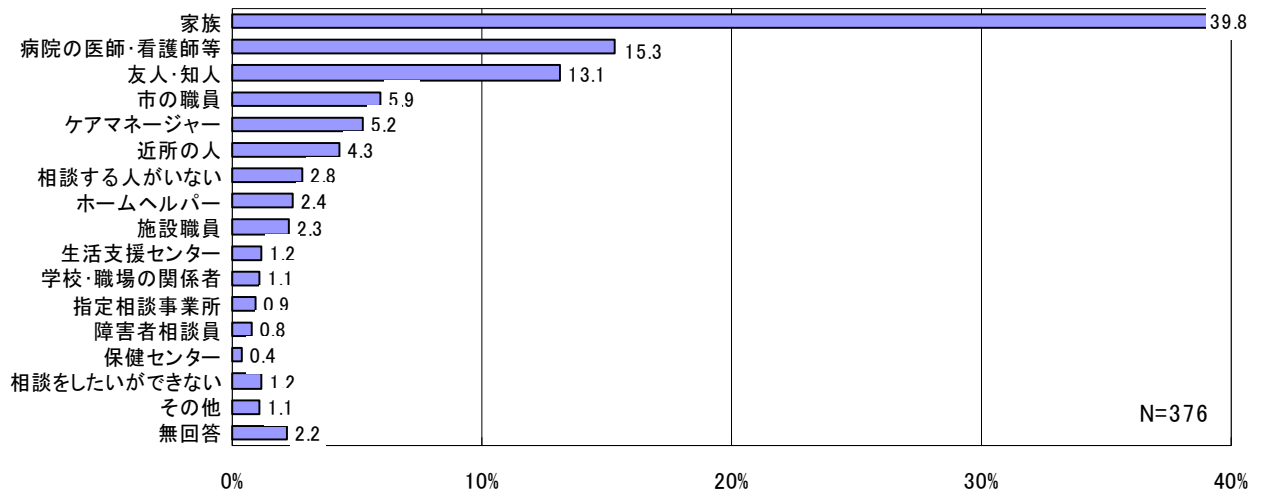


「広報うべ」に望むこととして、身体障害者は、「情報を増やしてほしい」が26.1%、「字を大きくしてほしい」が13.0%、「わかりやすい文章にしてほしい」が10.9%となっている。知的障害者は、「情報を増やしてほしい」が23.4%、「わかりやすい文章にほしい」が20.2%、「字を大きくしてほしい」・「レイアウトを工夫してほしい」が各2.1%となっている。精神障害者は、「情報を増やしてほしい」が24.7%、「わかりやすい文章にほしい」が15.1%、「字を大きくしてほしい」が13.7%となっている。

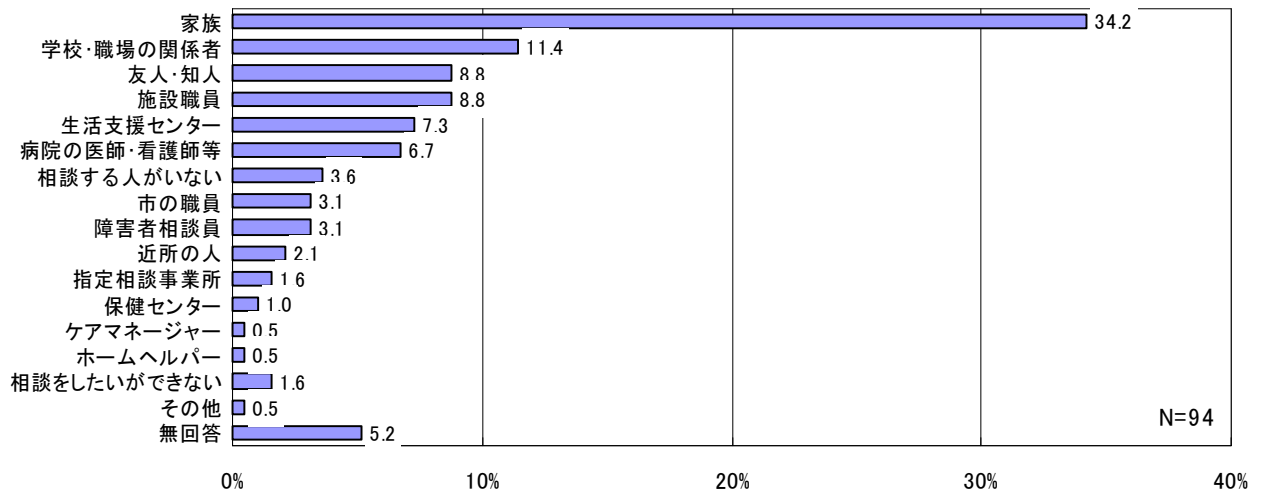
13 相談について

(1) 困ったときや不安・悩みの相談相手として

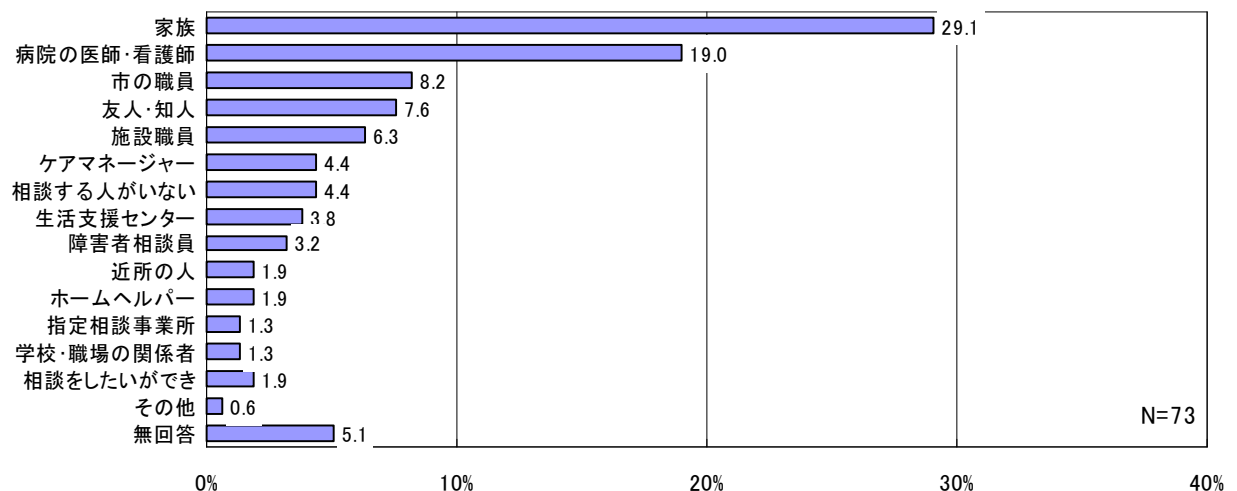
図40 困った時などの相談相手〈身体障害者〉



〈知的障害者〉



〈精神障害者〉

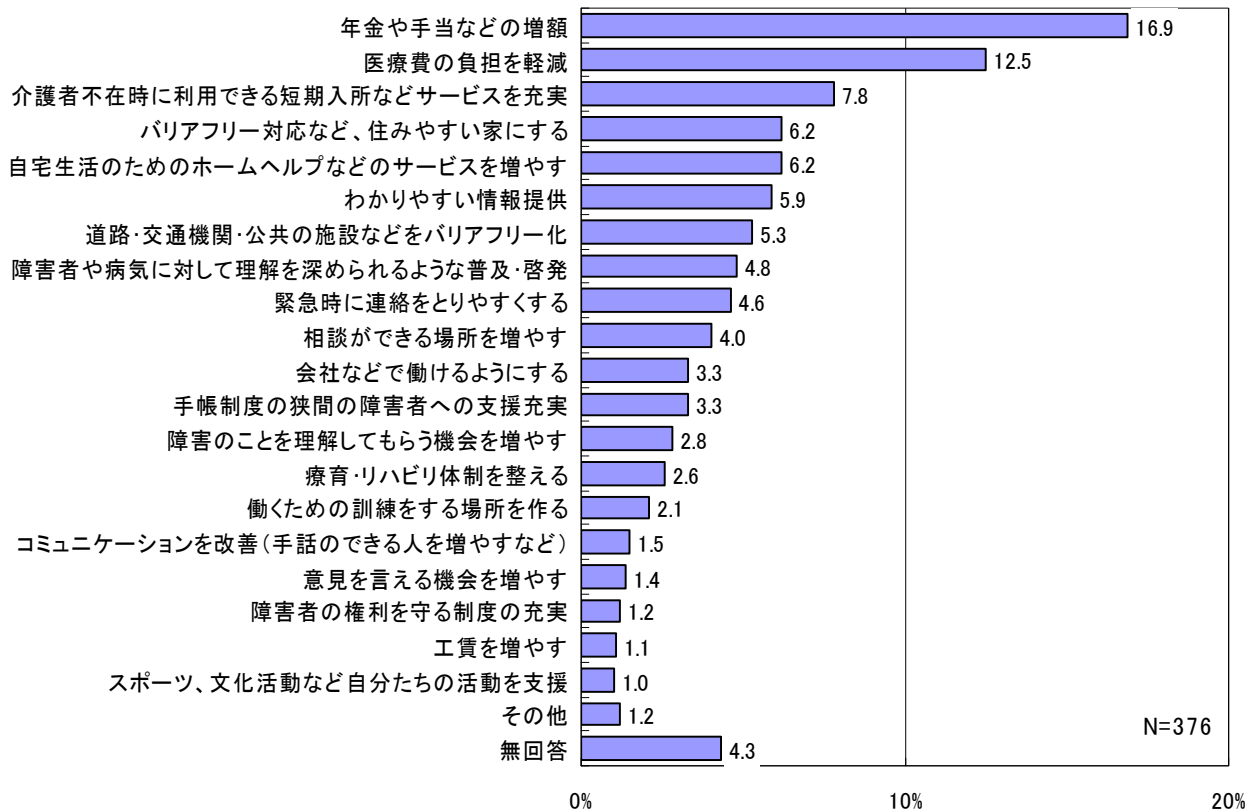


身体障害者は、「家族」が39.8%、「病院の医師・看護師等」が15.3%、「友人・知人」が13.1%となっている。
 知的障害者は、「家族」が34.2%、「学校・職場の関係者」が11.4%、「友人・知人」・「施設職員」が各8.8%となっている。
 精神障害者は、「家族」が29.1%、「病院の医師・看護師等」が19.0%、「市の職員」が8.2%となっている。

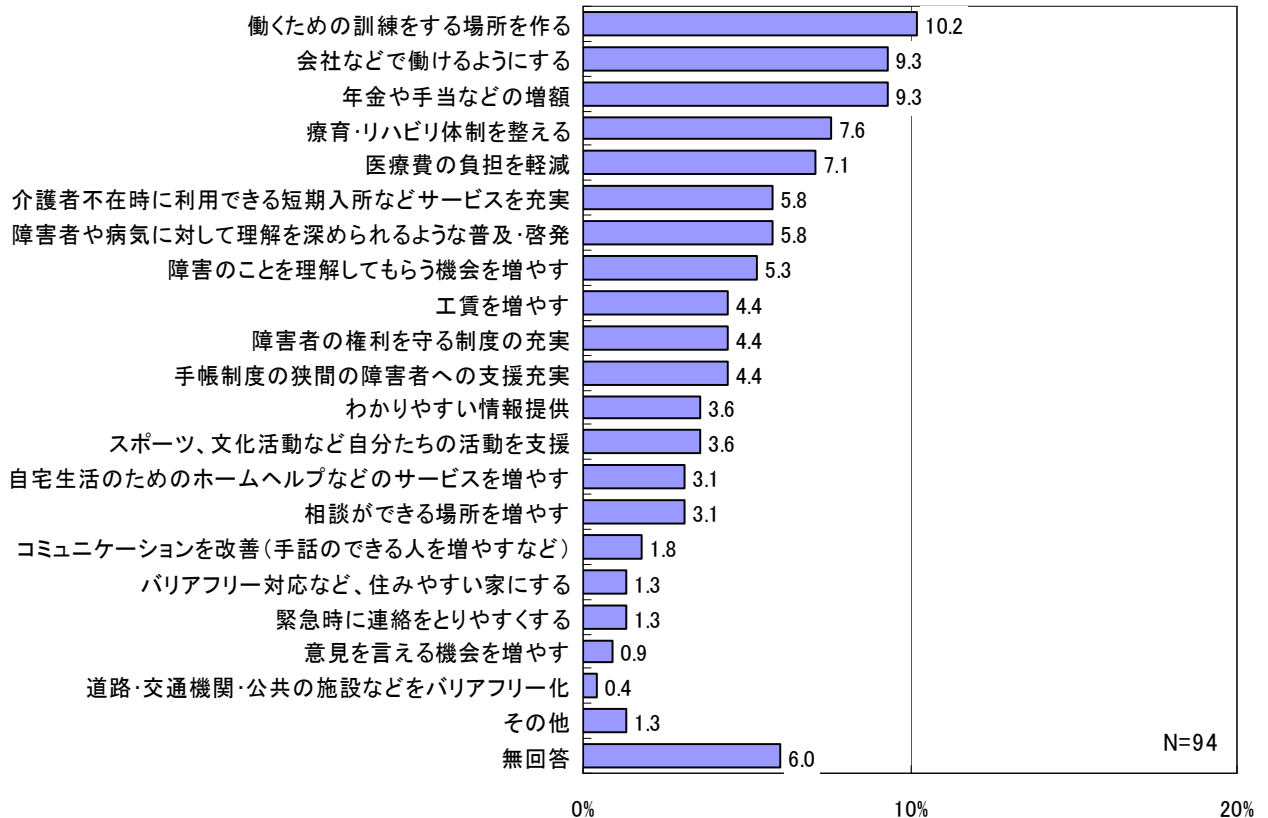
14 今後の障害者福祉について

(1) 今後の障害者福祉の取り組みについて

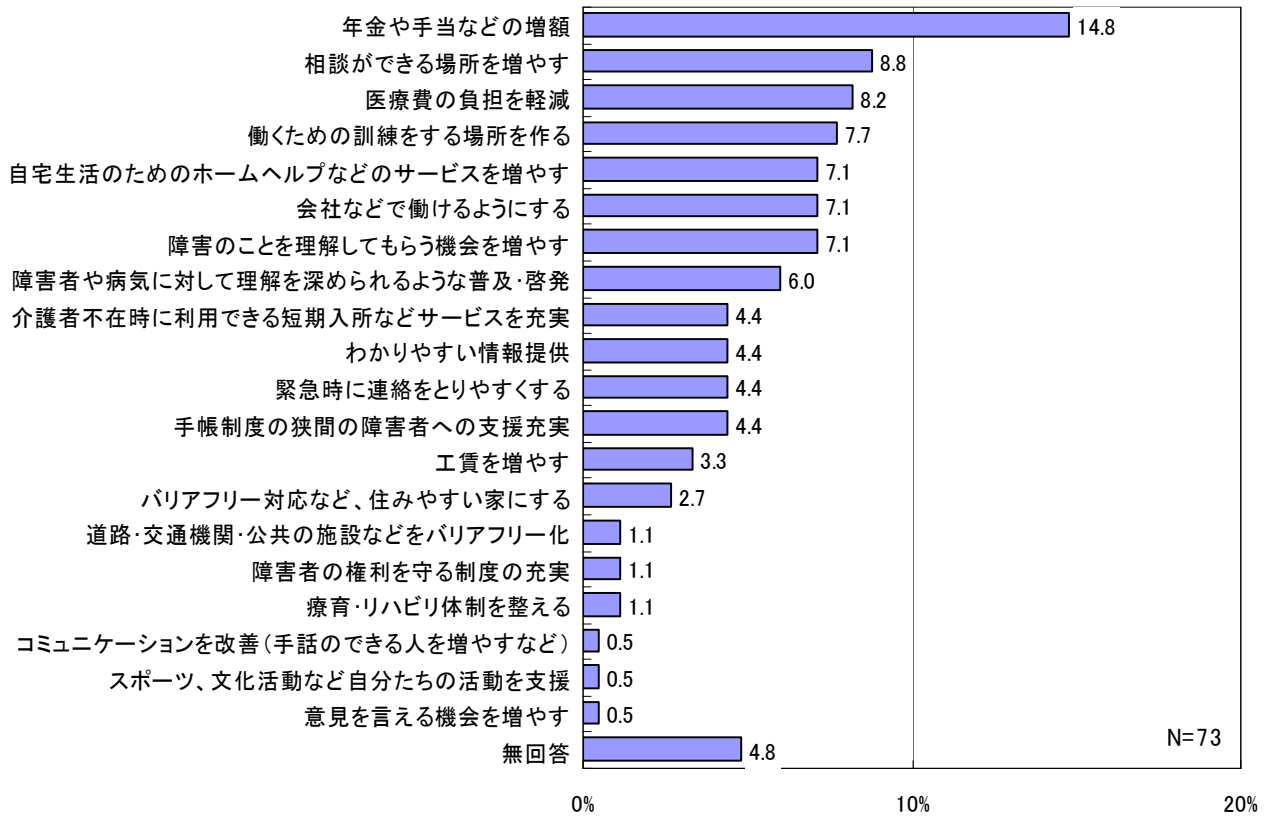
図41 今後の障害者福祉について〈身体障害者〉



〈知的障害者〉



〈精神障害者〉



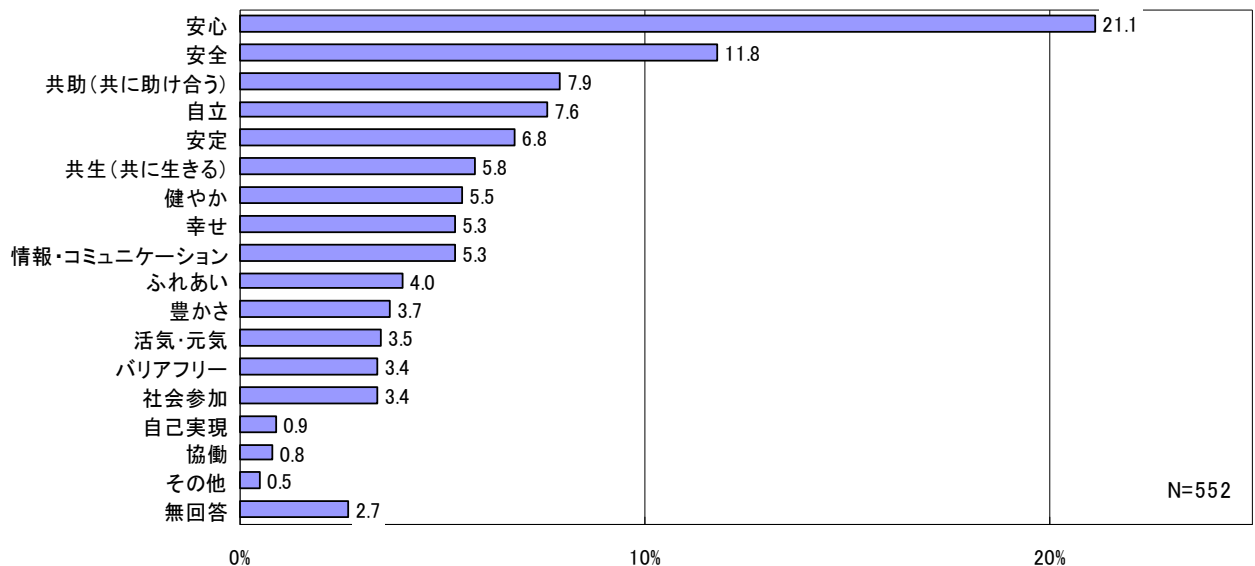
身体障害者は、「年金や手当などの金額を増やしてほしい」が 16.9%、「医療費の負担を軽くしてほしい」が 12.5%、「介護者が不在のときに利用できる短期入所などのサービスを充実してほしい」が 7.8%となっている。

知的障害者は、「働くための訓練をする場所を作ってほしい」が 10.2%、「会社などで働けるようにしてほしい」・「年金や手当などの金額を増やしてほしい」が各 9.3%となっている。

精神障害者は、「年金や手当などの金額を増やしてほしい」が 14.8%、「相談ができる場所を増やしてほしい」が 8.8%、「医療費の負担を軽くしてほしい」が 8.2%となっている。

(2) 障害者にとって、住みよいまちづくりを進めていく上での考え方

図42 障害のある方にとって住みよいまちづくりを進めていく上での考え方<全体集計>

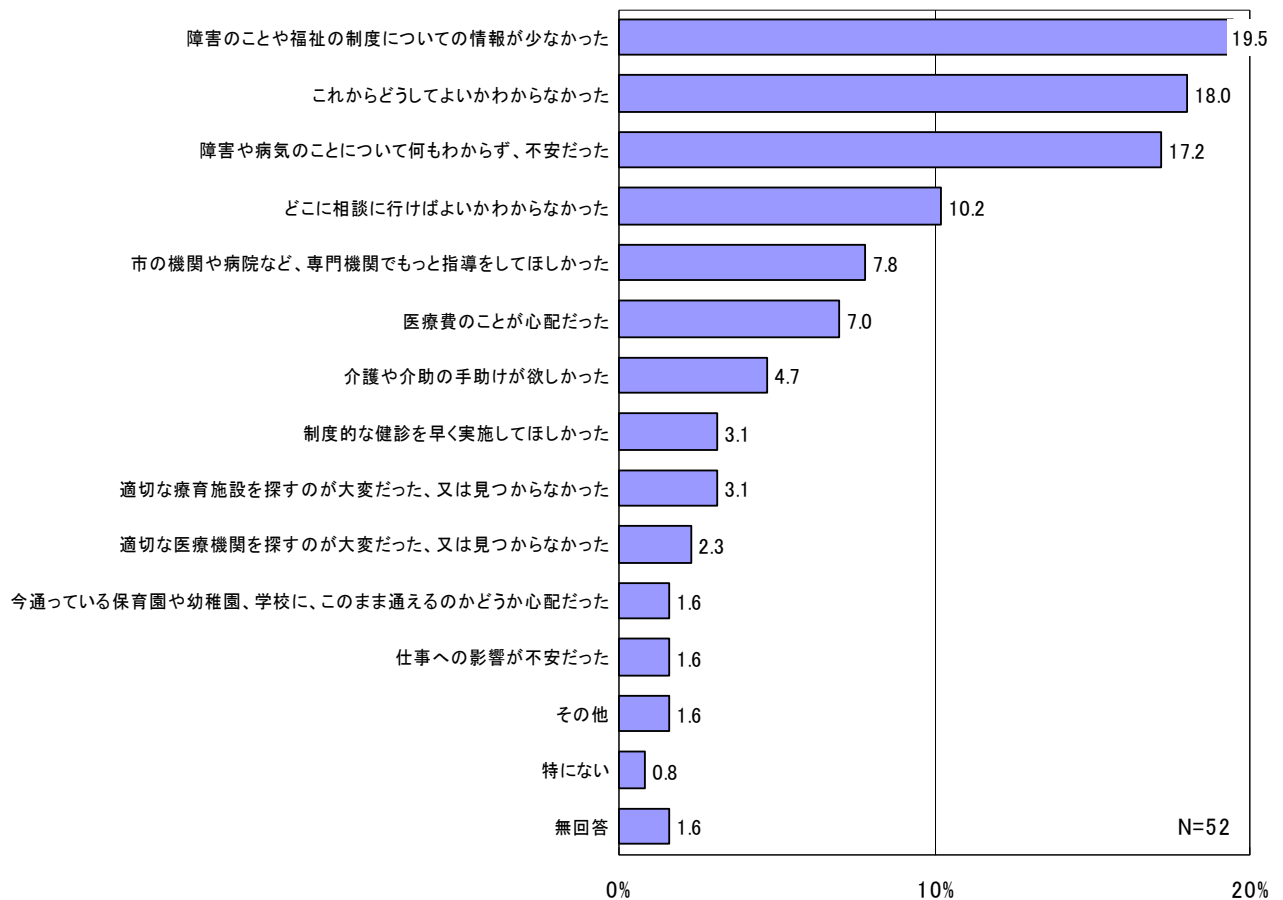


全体集計で、「安心」が 21.1%、次に「安全」が 11.8%、「共助」が 7.9%、「自立」が 7.6%、「安定」が 6.8%の順となっている。

15 障害児の保護者への質問

(1) 障害の判定を受けた頃の家族の気持ちについて

図43 障害の診断・判定を受けた頃の気持ちについて

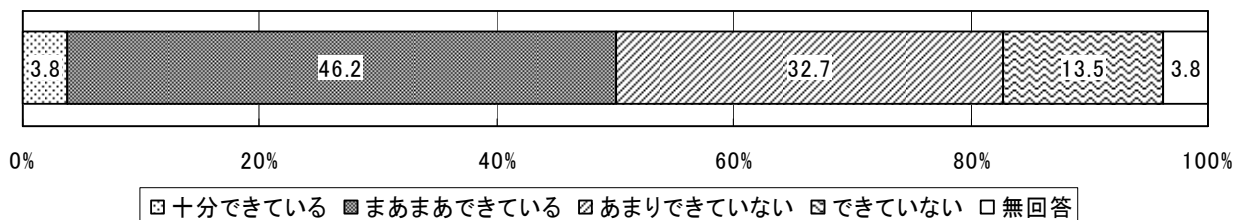


「障害のことや福祉の制度についての情報が少なかった」が 19.5%、「これからどうしてよいかわからなかった」が 18.0%、「障害や病気のことについて何もわからず、不安だった」が 17.2%となっている。

(2) 障害の「早期発見」と「早い発達支援」の取り組みについて

図44 障害の「早期発見」と「早い発達支援」への取り組みについて

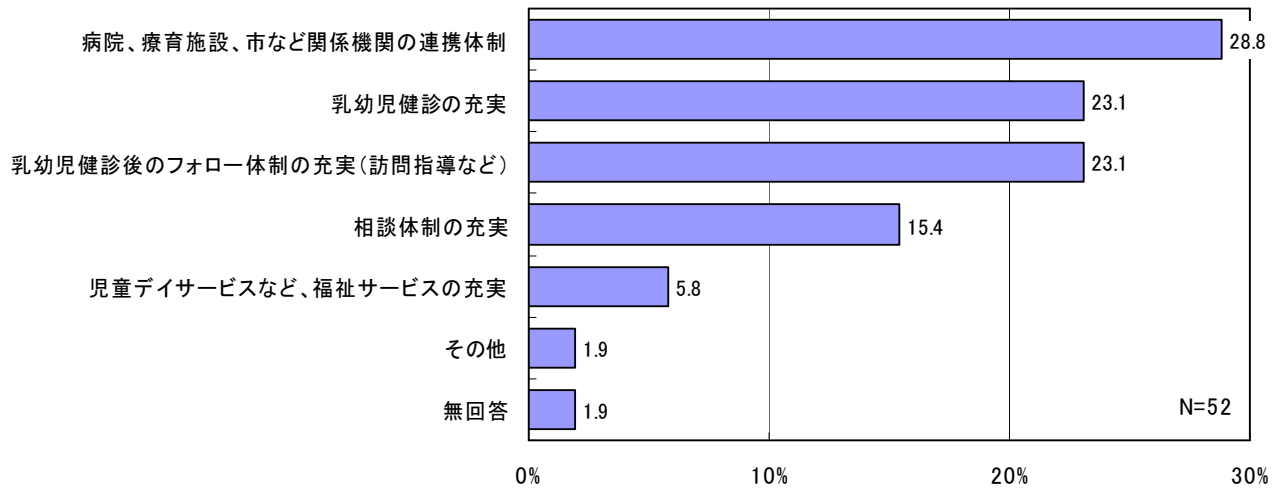
N=52



「十分できている」が 3.8%、「まあまあできている」が 46.2%であり、両方を合わせると 50.0%となっているが、一方で「あまりできていない」が 32.7%、「できていない」が 13.5%あり、46.2%の方については、期待を満たしていない状況となっている。

(3) 「早期発見」と「早い発達支援」のために必要なこと

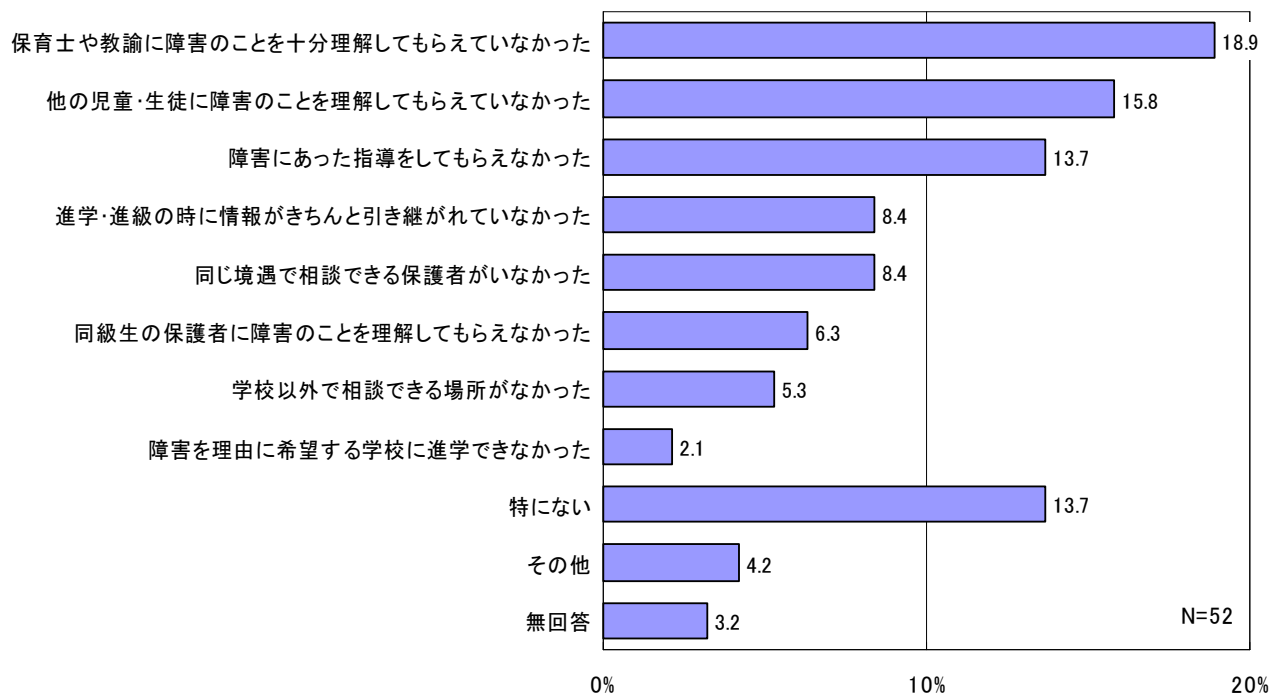
図45 「早い発見」と「早い発達支援」のために最も必要なこと



「病院、療育施設、市など関係機関の連携体制」が28.8%、「乳幼児健診の充実」と「乳幼児健診後のフォロー体制の充実(訪問指導など)」が各23.1%となっている。

(4) 保育や教育を受ける中で、今まで困ったこと

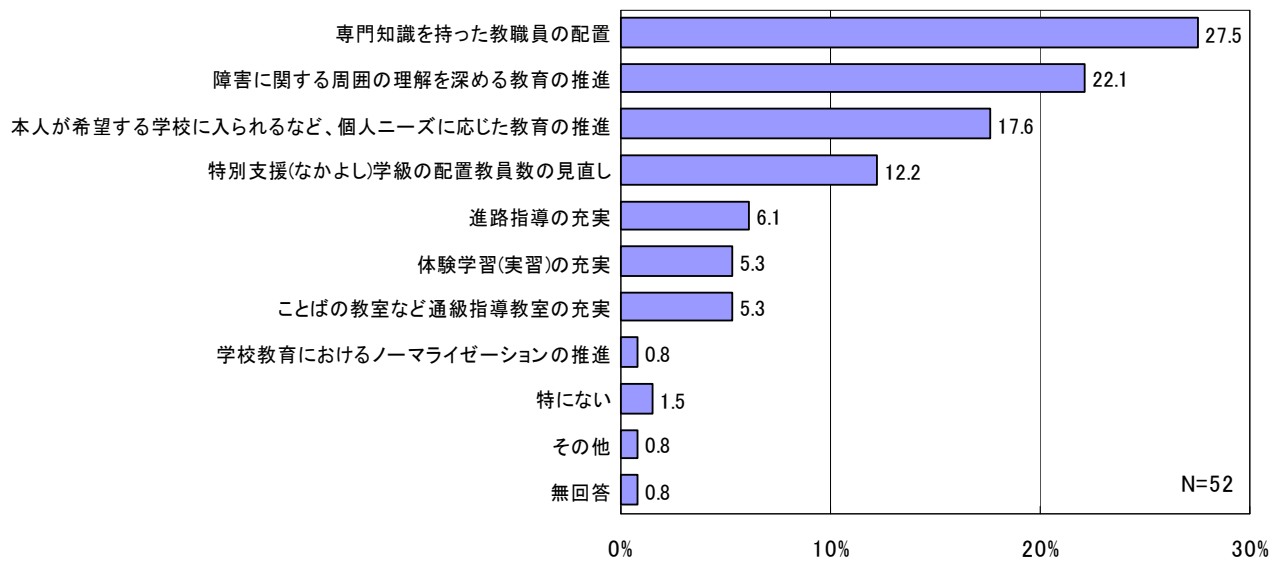
図46 保育や教育を受ける中で困ったことや不安に思ったこと



「保育士や教諭に障害のことを十分理解してもらえていなかった」が18.9%、「他の児童・生徒に障害のことを理解してもらえていなかった」が15.8%、「障害にあった指導をしてもらえなかった」が13.7%となっている。

(5) 教育に関する要望として

図47 教育に関する要望



「専門知識を持った教職員の配置」が 27.5%、「障害に関する周囲の理解を深める教育の推進」が 22.1%、「本人が希望する学校に入られるなど、個人ニーズに応じた教育の推進」が 17.6%となっている。

(6) お子さんの将来について

図48 お子さんの(将来の)仕事について

N=52

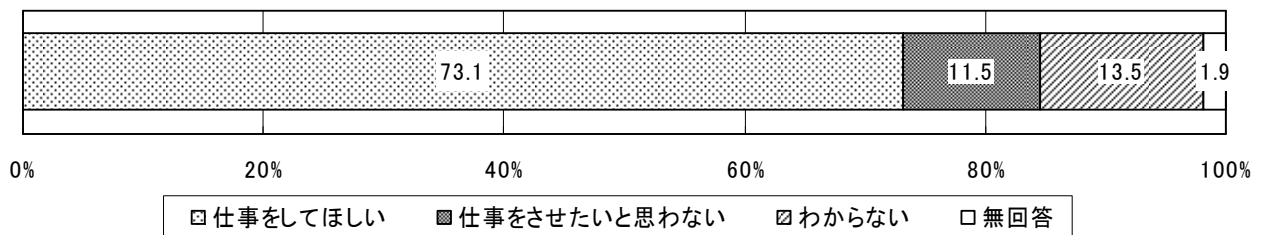
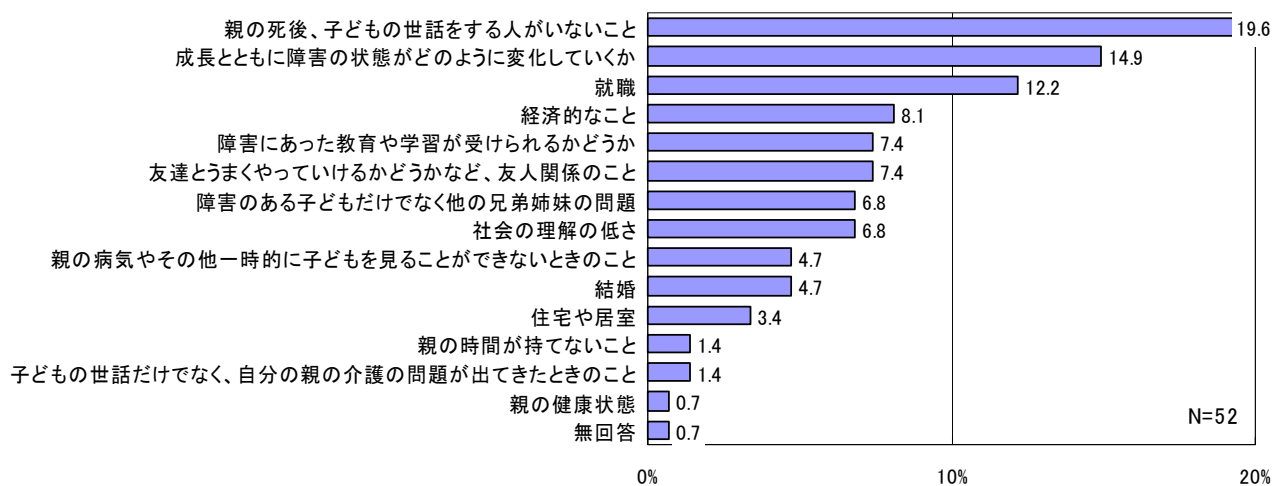


図49 お子さんを育てていく上での将来に対する不安について



73.1%が「仕事をしてほしい」と回答している一方で、11.5%が「仕事をさせたいと思わない」と回答しており、その理由として、「障害や病気が重くて仕事ができないと思うから」や「できる(合った)仕事がないと思うから」が挙げられている。

また、将来への不安として、「親の死後、子供の世話をする人がいないこと」が 19.6%、「成長とともに、障害の状態がどのように変化していくか」が 14.9%、「就職」が 12.2%となっている。

第3章 障害福祉に関する意見

1 啓発活動、情報提供・相談体制について

- 気軽に相談ができる窓口がほしい。前もって電話をかけて予約していける窓口があれば、自分がどのように病院にかかり、どのように生きていけるかを模索でき、心が軽くなって良いと思う。
- 障害者に対する嫌がらせの行為は多くなっている可能性がありますので、徹底的に協議をしてください。健常者が障害者に対して悪口を言ったり嫌がることをしたりするのは、許すわけにはいきません。障害者に明るく、楽しく支援していくことが大切なことである。
- 地域で普通に安心して暮らすこと。偏見や差別のない社会を皆でつくりたい。
- 私の周りには、目の見えない人や耳が遠い人がいるので、手話や点字が身近に感じるようにしてほしい。
- 聴覚障害なので、病院や色々な所で名前を呼ばれてもわからず、後回しになることが多い。
- 差別のない指導体制、安心して相談できる福祉の市になればと思う。
- 福祉サービス制度にどんなものがあるのかあまり知らないので(自動車税の免除やバスの無料制度などは知っていますが)、教えてほしい。
- 金融機関(銀行、郵便会社等)において、障害者が身体障害者手帳を提示して本人であることが確認できたとき、障害者本人が金融業務に関する書類の代筆を依頼すれば、代筆できるようにしてほしい。
- 本当に困っている人と、そうでない人を見極めてほしい。
- 聴覚障害者なので、「言葉」を聞き取るのがすごく困難だが、会話をしているときに、ゆっくりと話をしてもらえなかったり、聞き返すと嫌な顔をされることが多い。難聴者ということが一目で分かる方法があると良いと思う。
- 障害者にもっと優しい国になってほしい。障害者だからこそできることをどんどん増やしてほしい。

2 教育・保育について

- 子どもの障害が、年をとることで目に見えて分かるようになり、幼い時から早く発見できればよかったと思う。どこかおかしいと感じつつ、どこに行き、誰に相談すればよいのかわからなかった。今は割と相談体制も整備されており、良いと思います。人として、できるだけ普通の人たちと同じように、生活していけるようなサービスがこれからも充実してくれればと思う。
- (障害を持った)子どもが小さいうちに、もっといろいろな情報がほしかった。乳幼児の頃から、たくさんの情報を得ることができるようにしてほしい。
- 障害を持つ子どもの早期発見と親に対するフォロー(特に精神面)。特に母親は精神的、肉体的にも大変なので、父親に対する教育も行ってほしい。
- 障害の告知の問題を、医療、保健、教育の分野で連携して、よりよいシステムを作ってもらいたい。告知後のフォローの体制をしっかり作り、社会的な理解を深める活動も同時に推進して行けば、障害児を授かったことによる不安、孤立感、絶望感にさいなまれることなく、前向きに育児に取り組めると思う。
- 学校の先生方には障害はどのようなものがあるか、また、施設・子ども病棟を知っていない方もあるようですので、勉強されたらよいと思う。(例：施設行事に生徒とボランティアに行くとか)
- 一人ひとりの障害の状態は多様で、一般的な知識や理解では、理解してもらいにくいので、共に活動し生活して、学校活動や地域活動に入っていける環境づくり、選択の幅を持ってほしい。特に学校、幼稚園など教育に関わる方にはふれあう・知ろう・理解しようという気持ちで接してほしい。

- 障害児、療育手帳 A の方のデイサービス受け入れを考えてほしい。家族で関わるのは限界がある。
- 障害児を受け入れる施設や学校が少なく、あっても家から通うとなると遠くへ送り迎えが大変。自閉症などのリハビリを行う病院が増えてくれると助かる。

3 就労について

- 障害を持っている人が働くということは本当に大変だと身にしみて感じる。障害者も病気を持っての障害者とそうでない障害者でまた違っており、見た目には分からない障害者もいて、その場合、理解を得ることはとても難しかったりします。
- 障害者の雇用として、身体障害者は事務系等の職種があるが、知的障害者は少なく、ますます雇用状況が厳しい状況である。もっと障害者が働ける場所を考えてほしい。障害を抱えた子を持つ親は死ぬまでその子の面倒を見ることとなるが、親が死んだ後、その子は一体どうやって生きていけばいいのか。
- 平成 14 年に失明し、職を失った。障害の程度に応じて、県や市の事業に優先的に仕事を与えてほしいと思う。

4 保健・医療について

- 病院での待ち時間が長い。
- 脊髄疾患による 4 級だが、4 級だと年金もないし、医療費も一般の人と同じ 3 割負担である。国の対応が遅く、一人で生きていくのに不安が残る。せめて医療費だけでも負担なくしていいようにしてほしい。
- 障害者手帳を持っていても、級が低いため、医療費や車の税金とかは変わらない。しかし、医療費は以前と比べて倍となり、生活が苦しい。働かないと医療費が払えない。そのため無理をし、また体を悪くする。もう少し楽になりたい。
- 年金から保険料や介護保険が差し引かれ、老後のため一生懸命掛けたのに、今では病院代その他のことで生活がいっぱいである。
- 重度の心身障害者の医療費の無料を続けてほしい。
- 福祉医療費受給者の一部負担金が無料になったことはありがたい。
- 家族への心のケアをお願いしたい。
- 障害児者の OT(作業療法士)、PT(理学療法士)など訓練を受ける環境を充実させてほしい。
- 主人の介護をしているが、介護者の私が死亡したら主人はどうなるのかと考え出すと夜が眠れない。子供に迷惑をかけるわけにもいかず、透析に今日は行きたくないからやめておこうとか、それができないことが悩みである。

5 福祉サービスについて

- 障害福祉サービス等を受けるに際して、手続きを簡単にし、短期間でできるようにお願いしたい。
- 補装具などの手続きを簡単にできるようにしてほしい。以前よりも手続きが面倒になったように感じる。
- 高次脳機能障害だが、短期入所などのサービスを受けることが難しく、今は週 2 日ほどデイサービスを利用している。受けられるサービスも限られており、障害にあったサービス機関を考えてほしい。
- 訪問介護の料金等の細かい内容が分からないので、利用料をわかりやすく知らせてほしい。
- 精神的に不安定だったが、施設で働くようになってからは、充実した日々を過ごすことができ、うれしく思う。いつかは社会復帰したいと考えているが、障害を持つ人々が自立できるような施設が増えることを希望する。
- 重複障害を持っている人が地域で過ごすのは難しいが、入所できる施設等もなく、親の亡き後がとても心配である。ケアホームやグループホームは重度では難しい。

- ガイドヘルパー制度の充実。利用できる場を増やしてほしい。
- 福祉サービス制度が良くなり、周りの方が良くなってくださいますが、それに甘えず、障害者も社会のために自分のできることをしたいと思う。
- タクシーチケットがあり助かるが、周りの年寄りで交通に不便を感じている人も多い。近くにバス停や駅がない。車に乗れなくなった人に、もっとタクシーなど安く、使いやすくすればよいと思う。
- 現在、福祉タクシー券については、3級まで交付されていますが、肢体不自由者（特に下肢不自由者）には、4級まで交付するようにしてほしい。
- 現在、施設入所している人達は、ここで一生過ごせると安心して入所した訳である。入所施設も新設する所はないようだが、やはり施設は必要だと思う。入所施設数を増やしてほしいし、古くなったところは、改修、建て替え等も考えてほしいと思う。
- 現在、支援学校へ通学している。学校のある時は良いが、夏休みや日曜、祝日に家族に用事があるとき、介護に困る。デイサービス施設を増やしてほしい。
- 障害福祉サービスを行っている施設などを、わかりやすく提示してほしい。
- 急に支援が必要なとき、利用できるデイサービスや日中一時等できる施設が少ない。バスの乗降訓練等していただけるサービス。
- 子どもの将来を考えると、不安なことばかりです。ですが、今は子どもの成長を見守りながら、少しずつでも社会参加する努力はしております。安心して利用できる児童デイサービスを、もっと増やしてほしい。
- 重度の知的障害のある人が生活できる、ケアホームまたは施設の整備・充実を望む。
- 全体的にサービスや制度は向上してきているように思う。
- 施設入所から、在宅での生活をしていく障害者にとって、楽しく快適に生活できるよう考えてほしい。
- 今受けているサービスや制度が、ずっと続くようにしてもらいたい。
- 障害者の希望をよく考えて行財政をしてほしい。リハビリが受けられる施設を多くしてほしい。
- 障害児、療育手帳Aの方のデイサービス受け入れを考えてほしい。家族で関わるのは限界がある。
- 精神障害者のショートステイを望んでいる。医療では、医者から当事者、家族への詳しい説明、薬、回復の見通し等。

6 生活環境について

- 駅から病院に行くバスが少ない。バスの時間を増やしてほしい。
- 視覚障害者は、慣れた場所でも方向が分からなくなる場合がある。1歩外出する怖さ、自然と家の中に閉じこもる。
- 自分が障害者になってわかった、1段の階段の高さ。
- スーパーや百貨店などの障害者用駐車場が少ない。
- 杖をついている人や老人等に優しいバスであってほしい。バス停で歩道まで4~50cmに停められると、高さもあり、とても危険である。
- 他市町の福祉関係者が一致してうらやましがるのは、市バスの無料利用（手帳提示）制度である。市の財政状況が厳しいことは承知しているが、今後とも継続してほしい。
- 障害者用駐車場を増やしてほしい。また、歩道の段差が多く、危険を感じたことがあるので、歩道の整備もお願いしたい。
- トイレは背もたれがなかったり（倒れるため必要）、人によっては背の高さが違ったりするので、足の踏み台が必要。
- 車椅子での活動なので、道路のバリアフリー整備を一番に希望する。

- 道路の段差を無くすとか、歩道を広くして車椅子などを通りやすいようにしてほしい。公園とか、市内のところどころに障害者の行けるようなトイレを増やしてほしい。
- 障害者用駐車場について、障害者は誰でも利用できるのでもいいのですが、車イスを使用しているものにとって、駐車場の一区間の広さが、ドアを大きく開けて乗り降りするため広さが必要です。また、そうでない障害者の方もおられると思います。障害者でも利用状況が変わるので、広い駐車場は車イス用、近くてそれほど広くない駐車場は、乗り降りの比較的無理のない方用にできるといいなと思います。

7 文化・スポーツ・交流について

- 障害の程度や年齢に応じて社会参加ができるよう、また働けて少しでも収入が得られるように希望する。
- 障害者が気軽に行けるスポーツ施設（特にプール）を作してほしい。
- 障害者がスポーツ、文化活動等をしないのは当たり前と思う。障害者が参加すると、予定通りに時間が進まないのでは嫌がられる。
- 障害者が「社会参加」する場合、多くの健常者の中に入って責任を果たさなければならない。それを障害者グループで担当するのでなくて、一個人の障害者として健常者の手助けを必要に応じて受けながら全うする努力と、やりがい体験することができる機会を工夫して実施すべきと思う。
- 余暇活動の選択ができるよう、障害者教室、レクレーション教室、ボッチャ教室、スポーツ教室。定期的に活動を行うことで、障害者の意欲、生きがいにつながると思う。
- 障害者の自主団体に入会して活動したいが、入会できるところがわからない。
- 精神障害だが、病状の軽い人が集まれる場所を提供してほしい。短時間働ける場所を作してほしい。カウンセラーと話したい。若い友達がほしい。

8 その他

- 親も子も、年を取ると親亡き後のことを考えます。子ども一人が残ったとき、どんな生活が待っているかいつも考える。一人では生きていけないのでとても心配である。
- 福祉関係のスタッフは、特に笑顔であってほしい。元気で明るく笑顔で、利用者に接してほしい。
- 発達障害児は、実際、親子共に気苦労が絶えないけれど、手帳も何も発行されず、何のサービスも受けられない方が多いのが現状。発達障害児の手帳もしくはサービスを充実してほしい。
- 障害者も甘えず自立して、できることを探してやり、やれることはやるべきである。自分でやれないことは行政の力を借り、自分自身きびしく生きていきたい。
- 目の前をタクシーが通っても自分の力では止められない。「タクシーに乗ります」と何か目印に布みたいな物があれば良いと思う。